

第五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ用途ヲ指定シタル場合ニ於テ交付スル補助金ハ此ノ限ニ在ラス

〔参照〕

農商務省令第二號農會補助金交付規則(明治三十三年三月十日)抄録
第五條 補助金ハ月割ヲ以テ計算シ毎年四月及十月ニ各半年分ヲ交付ス

○逓信省令第三十四號

明治四十一年四月逓信省令第十六號無線電報規則中左ノ通改正シ明治四十二年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月九日

逓信大臣 男爵後藤新平

第十一條 無線電報ニハ海岸局又ハ船舶局ニ於テ送信又ハ受信ノ取扱ヲ爲ス毎ニ左ノ料金ヲ附課ス但シ無線電信ノミニ依リ傳送スルモノニ對シテハ他ノ電報料ヲ課セス
官報及私報

一 海岸局料金

和文 十五字以内 金二十錢
五字以内ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス
歐文 五語以内 金二十五錢
一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

二 船舶局料金 同

新聞電報

一 海岸局料金 五十字以内毎ニ

金二十錢

二 船舶局料金 同

第十六條中「一般ノ」ヲ他ノニ改ム

〔参照〕

逓信省令第十六號無線電報規則(明治四十一年四月八日)抄録

第十一條 無線電報ニハ一般電報料ノ外海岸局又ハ船舶局ニ於テ送信又ハ受信ノ取扱ヲ爲ス毎ニ左ノ料金ヲ課ス但シ無線電信ノミニ依リ傳送スルモノニ對シテハ一般電報料ヲ課セス

一 海岸局料金

和文 片假名十五字以内 金二十錢
五字以内ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス
歐文 五語以内 金二十五錢
一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

二 船舶局料金 同

第十六條 本令ニ明文ナキ事項ハ内閣電報ニ關スル一般ノ規定ニ依ル但シ明治三十三年九月逓信省令第四十六號電報規則第六十九條第一百條乃至第一百二十四條乃至第一百八十八條第二百一十一條第二百二十六條乃至第三百三十條第四百十條乃至第四百四十八條ヲ適用セス

○逓信省令第三十五號

明治三十九年十月逓信省令第六十一號新聞電報規則中左ノ通改正シ明治四十二年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月九日

逓信大臣 男爵後藤新平

第十八條ノ二 無線電信局設置ノ船舶ニ宛ツル無線電報ニシテ船舶内ニ於ル公示ヲ目的トスルモノニ關シテハ第一條乃至第四條第六條乃至第十一條第十四條及第十六條乃至前條ノ規定ヲ準用ス

前項ニ依ル新聞電報ヲ受ケムトスル船舶所有者ハ所轄一等郵便局ヲ經其ノ旨ヲ逓信大臣ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ

○逓信省令第三十六號

明治四十二年三月逓信省令第七號氣象通知電報規則中左ノ通改正シ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月十七日

逓信大臣 男爵後藤新平

第六條第一項中其ノ電報ヲ受信開始期日十日前迄ニ該電報ニ改メ且第二項ヲ左ノ通改メ第三項ヲ削除ス

氣象通知電報ノ受信人ハ必要ニ依リ電信局所ニ於テ該電報ノ交付ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ請求書ヲ該電報ヲ交付スベキ電信局所ニ差出スヘシ

第六條ノ二 氣象通知電報受信開始後左記各號ノ場合ニ於テハ前條ノ例ニ準シ請求書ヲ現ニ配達又ハ交付ヲ受クル局所ニ差出スヘシ

- 一 本文記載方變更ノ要ヲ生シタルトキ
- 二 交付ヲ受クルノ要ヲ生シタルトキ
- 三 交付ヲ受クルノ要ナキニ至リタルトキ
- 四 交付局所變更ノ要ヲ生シタルトキ

第八條第一項中請求書ヲ差出シタル電信局所ヲ配達局所又ハ交付局所ニ改ム

第九條中第六條第三項ニ依ルルヲ第六條ノ二第一號ノ二改ム

第十一條中第二項ヲ削ル

第十四條第一項中豫メ第六條ノ電信局所ニテ第六條ノ例ニ準シニ改メ且第二項ヲ削ル

第十五條中「著信」ヲ「通敷」ニ改ム

第十五條ノ二 觀測所ニ限リ別ニ受信人ヲ指定シ其ノ公示事項ニ關スル氣象通知電報ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ氣象通知電報ニ關シテハ請求者所在地ノ電信局所ニ請求書又ハ届書ヲ差出シ且該局所ニ料金ヲ納付スヘシ其ノ差出又ハ納付ニ關シテハ請求者ヲ受信人ト看做ス
第十八條ヲ削ル

〔參照〕

逓信省令第七號氣象通知電報規則(明治四十二年三月六日抄録)

第六條 氣象通知電報ノ受信ヲ開始セントスルトキハ左記各號ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ

一 氣象通知電報ノ種別(地方天氣豫報又ハ地方暴風豫報ナシ)

二 本文記載方ノ區別

三 受信人居所氏名

四 受信開始期日

前項ノ請求書ハ受信開始期日ノ十日前迄ニ差出スコトヲ要ス

請求者本文記載方ヲ變更セムトスルトキハ第一項ノ例ニ準シ前日迄ニ其ノ旨ヲ請求スヘシ

第八條第一項

氣象通知電報ノ料金ハ毎月分ヲ其ノ月五日迄ニ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ納付スヘシ但シ受信開始ノトキハ請求ノ際之ヲ納ムヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ開始期日カ月ノ中途ナルトキハ其ノ月分ハ日割ヲ以テ計算ス

第九條 第六條第三項ニ依リ變更カ月ノ中途ナルトキハ其ノ月分ハ日割ヲ以テ計算シ不足ヲ生スルトキハ請求ノ際之ヲ徴收シ過剩ヲ生スルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス其ノ請求期間ハ變更ノ日ヨリ六十日間トス

第十一條 第六條第二項ノ期間ニ拘ラス氣象通知電報ノ受信ヲ開始又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ請求書又ハ届書ニ添記スヘシ但シ電信局所ニ於テ課金局報ノ發送ヲ要スルトキハ其ノ料金ヲ前納スヘシ

第十四條 氣象通知電報ノ受信人移轉セムトスルトキハ第六條ノ電信局所ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

前項ニ依ル後轉先カ市區町村ヲ異ニスルトキハ其ノ氣象通知電報受信ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス但シ配達局所ニ變更ヲ生セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條第一項

臨時ニ氣象通知電報ヲ受信セムトスルトキハ第六條ノ例ニ準シ受信日數ヲ添記シタル請求書ヲ差出シ且電信局所ノ指示スル處ニ依リ其ノ料金ヲ豫納スヘシ豫納料金ハ氣象通知電報ノ著信ニ依リ之ヲ精算ス

臨時ニ氣象通知電報ヲ受信セムトスルトキハ第六條ノ例ニ準シ受信日數ヲ添記シタル請求書ヲ差出シ且電信局所ノ指示スル處ニ依リ其ノ料金ヲ豫納スヘシ豫納料金ハ氣象通知電報ノ著信ニ依リ之ヲ精算ス

第十八條 當分の内閣測所ハ其ノ公示事項ニ關スル氣象通知電報料ノ金ヲ受借人ニ代リ該測測所所在地ノ電信局所以上ノ
月長ノ指定シタル月費ニ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ氣象通知電報ニ關スル請求書又ハ届書ニ其ノ旨ヲ添記シ
且該測測所之ニ連署スヘシ

○逓信省令第三十七號

明治三十九年六月逓信省令第二十五號電話規則中左ノ通改正シ來九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月二十六日

逓信大臣 男爵後藤新平

第九條第五號ヲ左ノ通改ム

五 加入申込者所轄一等郵便局長ノ指示スル所ニ從ヒ電話施設ニ要スル費用又ハ物件ヲ政府ニ
寄附シタル場合ノ申込

第十二條第二項ヲ左ノ通改メ第三項ヲ削ル

左記各號ノ場合ヲ除ク外共同線加入ハ單獨加入ニ變更スルコトヲ得ス

一 申込登記順番ニ依ル開通期ニ達シタルトキ

二 第九條第一號ニ準スルトキ

三 第九條第五號ニ依リ單獨加入開通ニ相當スル費用若ハ物件ヲ寄附シ又ハ至急開通規則ニ依
リ開通シタルモノナルトキ

四 前各號ニ該當スルモ相手方カ之ニ該當セサル場合ハ其ノ相手方開通後滿一箇年ヲ經過シタ
ルトキ

五 單獨加入ニ變更ノ際第九條第五號ノ例ニ依リ之ニ要スル費用又ハ物件ヲ寄附スルトキ

第十五條但書ヲ左ノ通改ム

但シ左記各號ノ場合ニ限リ單獨加入ノ使用料ヲ納ムルトキハ通話取扱ヲ繼續ス

一 申込登記順番ニ依ル開通期ニ達シタルトキ

二 第九條第一號ニ準スルトキ

三 第九條第五號ニ依リ單獨加入開通ニ相當スル費用若ハ物件ヲ寄附シ又ハ至急開通規則ニ依
リ開通シタルモノナルトキ

四 前各號ニ該當スルモ相手方カ之ニ該當セサル場合ハ其ノ相手方開通後滿一箇年ヲ經過シタ
ルトキ

五 單獨加入ニ變更ノ際第九條第五號ノ例ニ依リ之ニ要スル費用又ハ物件ヲ寄附スルトキ

第十五條但書ヲ左ノ通改ム

但シ左記各號ノ場合ニ限リ單獨加入ノ使用料ヲ納ムルトキハ通話取扱ヲ繼續ス

一 申込登記順番ニ依ル開通期ニ達シタルトキ

二 第九條第一號ニ準スルトキ

三 第九條第五號ニ依リ單獨加入開通ニ相當スル費用若ハ物件ヲ寄附シ又ハ至急開通規則ニ依
リ開通シタルモノナルトキ

四 前各號ニ該當スルモ相手方カ之ニ該當セサル場合ハ其ノ相手方開通後滿一箇年ヲ經過シタ
ルトキ

五 單獨加入ニ變更ノ際第九條第五號ノ例ニ依リ之ニ要スル費用又ハ物件ヲ寄附スルトキ

第十五條但書ヲ左ノ通改ム

但シ左記各號ノ場合ニ限リ單獨加入ノ使用料ヲ納ムルトキハ通話取扱ヲ繼續ス

一 申込登記順番ニ依ル開通期ニ達シタルトキ

二 第九條第一號ニ準スルトキ

三 第九條第五號ニ依リ單獨加入開通ニ相當スル費用若ハ物件ヲ寄附シ又ハ至急開通規則ニ依
リ開通シタルモノナルトキ

四 前各號ニ該當スルモ相手方カ之ニ該當セサル場合ハ其ノ相手方開通後滿一箇年ヲ經過シタ
ルトキ

五 單獨加入ニ變更ノ際第九條第五號ノ例ニ依リ之ニ要スル費用又ハ物件ヲ寄附スルトキ

第十五條但書ヲ左ノ通改ム

但シ左記各號ノ場合ニ限リ單獨加入ノ使用料ヲ納ムルトキハ通話取扱ヲ繼續ス

一 申込登記順番ニ依ル開通期ニ達シタルトキ

二 第九條第一號ニ準スルトキ

三 第九條第五號ニ依リ單獨加入開通ニ相當スル費用若ハ物件ヲ寄附シ又ハ至急開通規則ニ依
リ開通シタルモノナルトキ

四 前各號ニ該當スルモ相手方カ之ニ該當セサル場合ハ其ノ相手方開通後滿一箇年ヲ經過シタ
ルトキ

五 單獨加入ニ變更ノ際第九條第五號ノ例ニ依リ之ニ要スル費用又ハ物件ヲ寄附スルトキ

第十五條但書ヲ左ノ通改ム

但シ左記各號ノ場合ニ限リ單獨加入ノ使用料ヲ納ムルトキハ通話取扱ヲ繼續ス

一 申込登記順番ニ依ル開通期ニ達シタルトキ

二 第九條第一號ニ準スルトキ

三 第九條第五號ニ依リ單獨加入開通ニ相當スル費用若ハ物件ヲ寄附シ又ハ至急開通規則ニ依
リ開通シタルモノナルトキ

四 前各號ニ該當スルモ相手方カ之ニ該當セサル場合ハ其ノ相手方開通後滿一箇年ヲ經過シタ
ルトキ

五 單獨加入ニ變更ノ際第九條第五號ノ例ニ依リ之ニ要スル費用又ハ物件ヲ寄附スルトキ

第十五條但書ヲ左ノ通改ム

但シ左記各號ノ場合ニ限リ單獨加入ノ使用料ヲ納ムルトキハ通話取扱ヲ繼續ス

一 申込登記順番ニ依ル開通期ニ達シタルトキ

第三十六條各期ノ中途ニ於テ附加使用料カ減少又ハ消滅スヘキ事實ノ生シタル場合ト雖其ノ期ニ屬スル分ハ之ヲ免除セズ

〔參照〕

遞信省令第二十五號電話規則(明治三十九年六月四日)抄錄

第九條 左記各號ノ場合ニ於ケル電話ノ開通ハ申込登記ノ順番ニ依ラス之ヲ繰上クルコトヲ得

五 加入申込者所轄一等郵便局長ノ指示スル所ニ從ヒ電話工用物件ヲ政府ニ無償提供シタル場合ノ申込

第十二條第二項及第三項

共同線加入ハ申込登記ノ順番ニ依ルニ非ラサレハ單獨加入ニ變更スルコトヲ得ス但シ加入者第九條第五號ノ例ニ依リ電話工用物件ヲ無償提供シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

單獨加入ヨリ共同線加入ニ變更シタル者ハ變更後滿一箇年ヲ經過シ且工用上差支ナキ場合ノ外再ヒ單獨加入ニ變更スルコトヲ得ス

第十五條 共同線加入ハ其ノ相手方カ加入種類變更若ハ取消ヲ爲シタルトキ或ハ除名セラレタルトキ又ハ第三條ノ距離以外ニ移轉シタルトキハ新ニ相手方ヲ得ル迄其ノ通話取扱ヲ休止ス但シ單獨加入ノ使用料ヲ納ムルトキハ之カ通話取扱ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條第一項

電話加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ單獨加入及共同線加入ハ滿一箇年トシ連接加入ハ滿三箇月トス但シ其ノ期間ノ末日カ第三十六條ニ掲クル一期ノ中途ナルトキハ該期末日迄ノ日數ヲ附加ス

第二十四條第二項

連接加入ハ之ヲ他人ノ名義ニ變更スルコトヲ得ス

第三十條第二項

特別加入區域ニ屬スヘキ加入申込者ハ電話線接續料ヲ納ムヘシ但シ第九條第五號ニ依リ開通スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條第二項

加入者特別加入區域内ニ於テ又ハ普通加入區域内ヨリ特別加入區域内ニ機械ノ移轉ヲ請求スルトキハ機械移轉料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ

第三十五條第一項

電話ニ關スル料金ハ左ノ如シ

四 電話線接續料

特別加入區域内ノ丁程一町迄毎ニ 金十圓

町數ノ計算方ハ特別加入區域内ニ於ケル新設電話線路ノ丁程ト普通加入區域ヲ距ル最近道路ノ丁程トヲ比較シ何レカ其ノ距離ノ短キモノニ依ル

第三十八條

電話加入種類變更等ノ爲料金ニ異動ヲ生シタルトキハ年額金ノ日割ヲ以テ計算シ不足額ハ之ヲ徵收シ 過超額ハ請求ニ依リ之ヲ還付ス但シ第四十五條第三項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條ノ一第一項

加入者第二十條ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキハ其ノ期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ノ未納額ヲ一時ニ納ムヘシ

第四十五條第一項及第三項

加入者第二十條ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其ノ期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セズ

長距離電話ノ廢止又ハ電話機及其ノ附屬物品ノ移轉又ハ增設機械ノ撤去又ハ電話機ノ變更若ハ私設電話機接續ノ廢止ニ因リ附加使用料ノ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ其ノ期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セズ

○遞信省令第三十八號

明治四十年九月遞信省令第四十二號外國郵便規則中左ノ通改正シ來九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月二十六日

遞信大臣 男爵後藤新平

一第二十四條中「香港小包」ノ下ニ「海峽殖民地小包」ヲ加フ

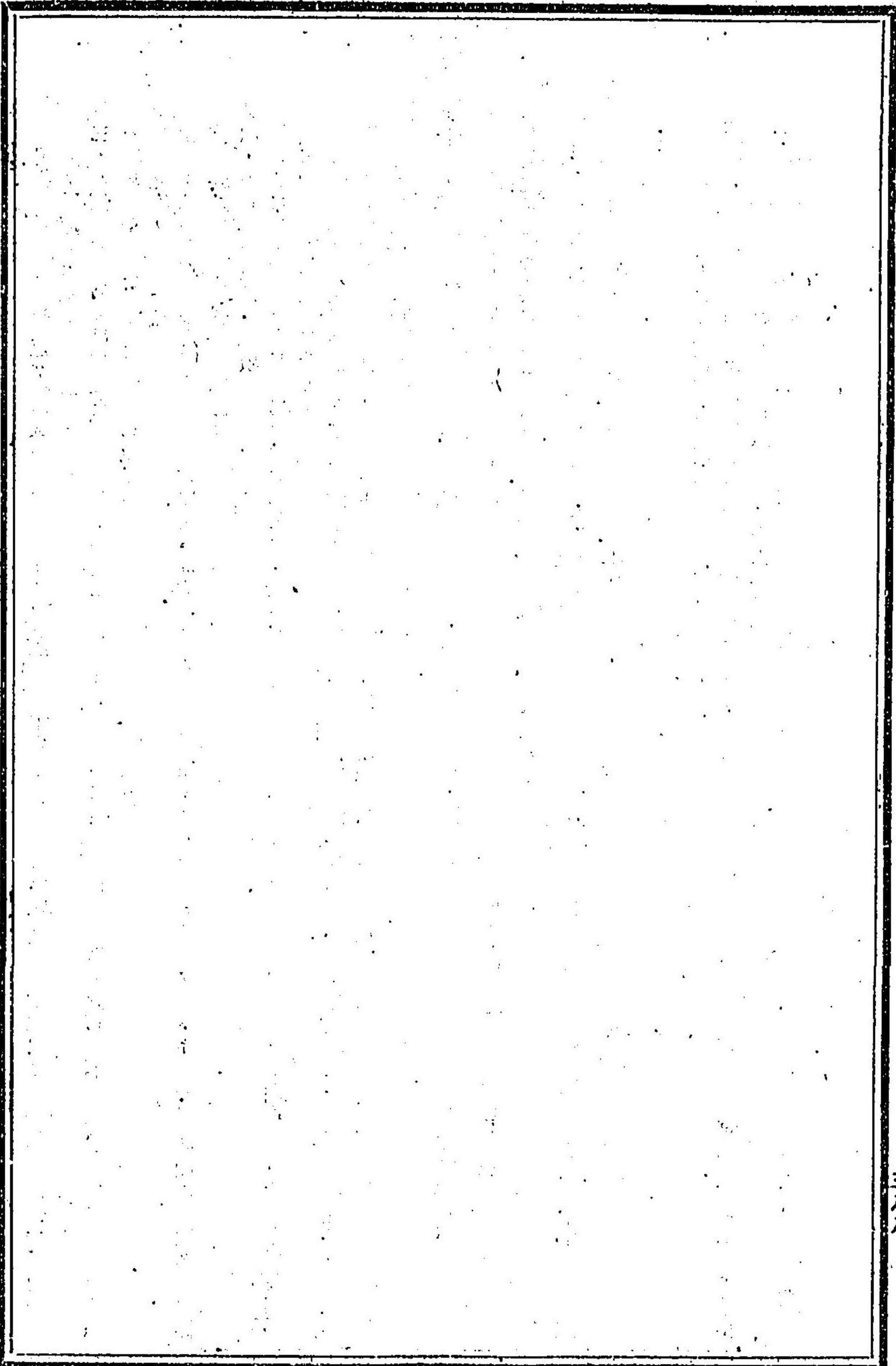
一第二十六條中「羅馬條約ニ依ル小包郵便物」ヲ「羅馬條約ニ依リ同條約加入國ニ宛テ差出ス小包郵便物及海峽殖民地ノ條約ニ依リ海峽殖民地ニ宛テ差出ス小包郵便物」ト改ム

〔參照〕

遞信省令第四十二號外國郵便規則(明治四十年九月二十一日)抄錄

第二十四條 小包郵便物ニハ其ノ名宛面ニ羅馬條約ニ依リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「聯合小包」特別ノ條約ニ依リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「英國小包」「加那太小包」「米國小包」「歐洲小包」「香港小包」等ノ名稱ヲ記載スヘシ

第二十六條 羅馬條約ニ依ル小包郵便物ノ差出人ハ送狀ノ通知券ニ其ノ小包郵便物ニ關スル通信文ヲ記載スルコトヲ得



○大藏省令第四十九號

明治四十二年^三大藏省令第十一號中左ノ通改正シ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年九月二十日

大藏大臣 侯爵桂太郎

專賣官吏派出所名稱位置(一)中

(イ)名古屋專賣支局ノ欄ヲ削除ス

(ロ)高梁專賣支局ノ欄ヲ削除ス

(ハ)阪出專賣支局ノ欄ヲ削除ス

〔參照〕

明治四十二年^三明ニ大藏省令第十一號ハ專賣支局管轄區域專賣局ノ出張所、工場、試驗場、專賣支局ノ出張所、專賣局製
造所ノ支所及專賣官吏派出所名稱位置ナリ

○陸軍省令第十四號

臨時韓國派遣隊ニ屬スル明治四十年徵察ノ現役歩兵及同上等看護卒ハ明治四十年勅令第三百三十二號第一條第二項ニ依リ明治四十三年四月内地歸著後除隊ノ日迄其ノ在營期間ヲ延期ス

明治四十二年九月二十日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

○文部省令第二十一號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス

明治四十二年九月二十一日

文部大臣 小松原英太郎

第五十一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ當分ノ内修業年限ヲ一箇年ト爲シタル場合ニ於テ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

〔參照〕

文部省令第十二號師範學校規程(明治四十年四月十七日抄録)

第五十一條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就キテハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、女生徒ニ就キテハ修業年限ヲ二箇年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、修業年限ヲ一箇年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限五箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

○文部省令第二十二號

明治三十九年文部省令第九號熊本高等工業學校規程中左ノ通改正ス

明治四十二年九月二十二日

文部大臣 小松原英太郎

第三條中各學科ノ學科目及其ノ程度ヲ左ノ如ク改ム

土木工學科

學科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	二
數學	五	五	五	三	三	三			
物理學	四	四	四						
幾何及代數	二	二	二						

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	第七學年	第八學年	第九學年	第十學年	計
測量	四	三	三								三九
地質學	二	一									三九
機械工學			三		三						三九
工業用金屬					一	三					三九
應用力學	二	二	五		一	五					三九
電氣工學			二	二	一	五					三九
石工學			二	二		二					三九
道路及鐵道		二	三	二	三	三					三九
橋梁				三	三	三					三九
河海工學			二	二	二	二					三九
衛生工學					三	二					三九
家屋構造					二	二					三九
土木行政					一	一					三九
工業經濟						一					三九
實習設計及製圖	一三	一三	一三	一三	一四	一九	二一	二一	三〇		三九〇
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二		三九

機械工學科

學 科 目 年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	二
數學	五	五	五	三	三	三			
物理學	四	四	四						
幾何畫法	二	二	二						
測量	二	一	一						
空氣工學				三	三	三			
應用力學	二	二	二	六	六	六			
機械製作法	三	三	三						
發動機	一	一	一	六	六	六			
機關車									
船用機關									
工業用金屬					一	一			
家屋構造							二	一	一

採鑛冶金學科

學 科 目 年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
特別講義							四	四	四
工業經濟							一	一	
工業簿記					一	一			
製圖實驗及實修	一三	一四	一四	一五	一三	一六	二三	二四	三〇
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	
數學	三	三	三						
物理學	四	四	四						
化學	四	四	四						
幾何畫法	二	二	二						
測量	二	一	一						
礦物學	三	三	三						

經濟學	二	二	三
財政學	二	二	三
法學通論	二	二	二
民法商法	二	二	二
工業大意	三	三	三
簿記	三	三	三
算學	三	三	三
商業算術	二	二	一
商業地理及商品學	二	三	一
商業學	三	五	一〇
商業實踐	三	三	三
第二外國語	三	三	三
體操	二	二	二
合計	三五	三五	三五

第二外國語ハ清語、韓語、獨語、露語及佛語トシ生徒ノ志望ニ依リ其ノ一ヲ修メシム但シ獨語、露語及佛語ハ志望者少數ナルトキ又ハ學校ノ都合ニ依リテハ之ヲ缺クコトアルヘシ

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

○農商務省令第二十七號

森林主事特別任用規則中左ノ通改正ス

明治四十二年九月一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第十四條第二號中「陸軍現役滿期ノ下士」ノ下「及上等兵」ニシテ下士適任證書ヲ有スル者ヲ删除ス

〔參照〕

農商務省令第十三號森林主事特別任用規則(明治三十六年十二月二十四日)抄録

第十四條 左ニ掲クル資格ノ一ヲ有スル者ハ試験ヲ要セス農商務省次官普通試驗委員ノ銜ヲ經テ森林主事ニ任用スルコトヲ得但シ年齢二十年未満四十五年以上ノ者及森林主事又ハ元森林主事補元森林監守在職中暫約期限内ニ辭職シ二箇年ヲ經サルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 陸軍現役滿期ノ下士及上等兵ニシテ下士適任證書ヲ有スル者

○逓信省令第二十九號

船舶内及交通至難ノ場所ニ設置シタル通信官署職員手當給與細則左ノ通相定ム

明治四十二年九月一日

逓信大臣 男爵後藤新平

第一條 船舶内及交通至難ノ場所ニ設置シタル通信官署職員手當給與細則

第一條 船舶内及交通至難ノ場所ニ設置シタル通信官署ニ在勤スル職員ニハ別ニ定ムル所ノ月手當ヲ給與ス

本邦外國間ヲ航行スル船舶内ノ通信官署ニ在勤スル職員ニハ前項月手當ノ外別ニ定ムル所ノ一時手當ヲ給與ス

第二條 新ニ勤務ヲ命セラレタル者ノ月手當ハ任地到着又ハ乗船ノ當日ヨリ之ヲ給與ス但シ現ニ就職スヘキ地又ハ船舶ニ在ル者ニアリテハ命令到達ノ當日ヨリ之ヲ給與ス

第三條 交通至難ノ場所ニ設置シタル通信官署ニ在勤スル職員ニシテ轉任轉勤ヲ命セラレタル場

合ハ命令到達後十五日以内ヲ限リ其ノ出發ノ前日迄舊月手當額ヲ給與ス
 船舶内ノ通信官署ニ在勤スル職員ニシテ轉任轉勤ヲ命セラレタル場合ハ命令到達後定繫港歸著
 又ハ上陸港到著ノ日ヨリ七日以内ヲ限リ其ノ出發ノ前日迄舊月手當額ヲ給與ス
 事務引繼其ノ他止ムヲ得サル事由ニ因リ遞信大臣ノ許可ヲ得テ滯留スルトキハ前二項ノ制限ニ
 拘ハラス其ノ滯留期間之ヲ給與ス
 第四條 同一船舶ニシテ航路ヲ變更シタル爲メ月手當ノ給與額ヲ異ニスル場合ハ新航路ニ就キタ
 ル日ヨリ新月手當額ヲ給與ス
 第五條 船舶内ノ通信官署ニ在勤スル職員ノ月手當ハ其ノ船舶カ定繫港ニ碇泊中ハ之ヲ給與セス
 定繫港以外ノ内國諸港ニ於テ私事ノ故障ニ依リ又ハ賜暇ヲ得テ上陸シタルトキ亦同シ
 第六條 船舶カ内國諸港(臺灣樺太千島諸島小笠原島八重)ニ於テ碇泊又ハ休航スルコト十日ヲ踰
 ムルトキハ其ノ踰ヘタル日ヨリ出航ノ前日迄月手當ノ半額ヲ減ス
 第七條 船舶内及交通至難ノ場所ニ設置シタル通信官署ニ在勤スル職員ニシテ公務ニ基因セサル
 傷疾疾病ノ爲メ執務セサルコト六十日ヲ踰ムルモノハ月手當ノ半額ヲ減ス
 交通至難ノ場所ニ設置シタル通信官署ニ在勤スル職員ニシテ私事故障ノ爲メ執務セサルコト十
 五日ヲ踰ムルモノハ月手當ヲ給與セス
 第八條 船舶遭難ノ爲メ一時其ノ船舶ヲ離レ再ヒ就職スル迄ノ期間ニ於ケル月手當ハ實際ノ狀況
 ニ依リ給與ス
 第九條 局長心得又ハ局長代理ヲ命セラレタル者ニハ其ノ命令到達ノ當日ヨリ解職ノ日迄局長ノ
 受クヘキ月手當ヲ給與ス
 第十條 旅費ノ支給ヲ受クヘキ場合ニ在リテハ其ノ日當ヲ受クル間月手當ヲ給與セス
 第十一條 一箇月未滿ノ月手當ハ總テ其ノ月ノ現日數ニ依リ日割計算ス

第十二條 一時手當ハ本邦外國間ヲ航行スル船舶内ノ通信官署ニ於テ無線電信ノ業務ニ従事スヘ
 キ職員ニ對シ當初乗組ノ際一回ヲ限リ之ヲ給與ス
 第十三條 前各條ノ外月手當ノ給與ニ關シテハ各條給支給ノ例ニ依ル
 明治三十四年^四月^四日遞信省令第二十號ハ千島國後島、同國樺提島、大隅國大島、琉球國八重山島ニ設置スル二等郵便及電
 信局職員在勤月手當給與細則ナリ

〔參照〕

明治三十四年^四月^四日遞信省令第二十號ハ千島國後島、同國樺提島、大隅國大島、琉球國八重山島ニ設置スル二等郵便及電
 信局職員在勤月手當給與細則ナリ

○遞信省令第四十號

明治三十九年^{十二}月^{十二}日遞信省令第六十一號新聞電報規則第十七條中「第六章」ヲ「第七十五條」ト改メ本日
 ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年九月十六日

遞信大臣 男爵後藤新平

○遞信省令第四十一號

明治三十三年^九月^九日遞信省令第四十二號郵便規則中左ノ通改正シ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行
 ス

明治四十二年九月十八日

遞信大臣 男爵後藤新平

第三條第二項「内地相互間」以下ヲ「一貫六百匁ヲ超過スヘカラス」ニ改ム
 第二十八條第一項第二號ヲ左ノ如ク改メ同條第二項ヲ削ル

一 内地、臺灣、樺太相互間小包郵便料

普通	二十錢	三十錢	三十五錢	四十錢	四十五錢	五十錢	五十五錢	六十錢
書留	三十錢	四十錢	四十五錢	五十錢	五十五錢	六十錢	六十五錢	七十錢

第八十條第二項ヲ削ル
第八十九條第二號中「内地、臺灣、樺太相互間」以下ヲ削ル

附則

本令施行前引受ニ係ル小包郵便物ノ損害賠償ニ關シテハ總テ從來ノ規定ヲ適用ス

〔参照〕

逓信省令第四十二號郵便規則(明治三十三年九月一日)抄録

第三條第二項

小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其ノ幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限トシ其ノ重量ハ内地相互間
八一貫六百匁、内地、臺灣、樺太相互間ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス
第二十八條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

一 内地小包郵便料

同一郵便区内(普通)

金四錢

金八錢

二百匁

四百匁

六百匁

八百匁

一貫匁

一貫四匁

一貫六匁

二百匁

四百匁

六百匁

八百匁

一貫匁

一貫四匁

一貫六匁

二百匁

四百匁

六百匁

八百匁

一貫匁

一貫四匁

一貫六匁

二百匁

四百匁

六百匁

八百匁

一貫匁

一貫四匁

一貫六匁

二百匁

四百匁

六百匁

八百匁

一貫匁

一貫四匁

一貫六匁

二百匁

四百匁

六百匁

八百匁

一貫匁

一貫四匁

○大藏省令第五十號
明治三十二年三月三十大藏省令第五號中「橫濱、神戸、長崎、及金澤」ヲ削リ「小樽」ノ下ニ「橫濱、神戸、長崎、金澤」ヲ加フ
本令ハ明治四十二年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年十月二十三日
大藏大臣 侯爵桂太郎

〔参照〕

明治三十二年三月三十大藏省令第五號ハ税印ノ押捺請求書提出局署ノ件ナリ

○陸軍省令第十五號

馬匹調査及検査施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月八日

陸軍大臣 子爵寺内正毅

第三條中「前二條ノ馬」ヲ「年齢五歳以上及前二條ノ届出ヲ爲シタル四歳ノ馬」ニ改ム

第二十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

馬ノ所有者其ノ馬ヲ現住ノ市町村外ニ置クトキハ本規則ニ依ル届出及検査ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ馬ノ管理人ヲ設クヘシ

第三十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ總代人ハ馬所在ノ市町村ニ居住スル者ニ限ル

第三十五條中「第二十一條」ノ下ニ「第二十八條又ハ第三十條」ヲ加フ

〔参照〕

陸軍省令第十二號馬匹調査施行規則(明治四十二年七月二十六日)抄録

第三條第一項

明治四十二年十月 省令 大藏省第五十號 陸軍省第十五號

前二條ノ馬ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所有者ヨリ十日以内ニ其ノ旨ヲ現住地ノ市町村長ニ届出ヘシ但シ第六號ノ場合ニ在リテハ新舊兩地ノ市町村長ニ届出ヲ爲スモノトス
第二十八條第一項
馬ノ所有者ハ本規則ニ依ル届出及検査ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ馬ノ管理人ヲ置クコトヲ得

○海軍省令第二號

軍港要港規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十一日

海軍大臣 男爵齋藤實

第十八號第四號「山岡地盤ノ掘鑿」ヲ「地盤ノ開鑿及埋築」ニ改ム

〔参照〕

海軍省令第七號軍港要港規則(明治三十三年四月三十日)抄録
第十八條 軍港要港境域内ニ於テ左ニ掲クル諸項ノ新築若ハ變更ヲナサントスルモアルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ニ協議シテ之ヲ處理スヘシ
四 山岡地盤ノ掘鑿

○海軍省令第三號

海軍下士卒旅行證票規則中「旅行證票雛形(西ノ内核)」ヲ「旅行證票雛形(美濃核)ニツ折」ニ同雛形表中「誕辰年月」ヲ「誕辰年月日」ニ改ム但シ現在ノ舊證票ハ之ヲ混用スルコトヲ得

明治四十二年十月三十日

海軍大臣 男爵齋藤實

○司法省令第十九號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十二年十月五日

司法大臣 子爵岡部長職

大分地方裁判所ノ部杵築區裁判所瀬戸田出張所ノ管轄欄中「奈狩江村大字 横城」ノ次ニ「朝來村」ヲ加フ

同地方裁判所ノ部杵築區裁判所ノ管轄欄中「朝來村」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十二年十月十一日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第二十號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十二年十月七日

司法大臣 子爵岡部長職

名古屋地方裁判所ノ部名古屋區裁判所ノ管轄欄及名古屋區裁判所熱田出張所ノ管轄欄ヲ左ノ如ク改ム

名古屋	尾張	名古屋市内ノ内 東區 西區 中區
熱田	尾張	名古屋市内ノ内 南區 愛知郡ノ内 荒子村 八幡村 下之一色村 笠寺村 鳴海町 豊明村 常盤村 小碓村 呼坂町 大字 豊田 瑞穂
		名古屋市内ノ内 東區 西區 中區 愛知郡ノ内 村 東山村 大字 鍋屋上 猪高村 大字 猪子石 藤森 猪子石 原

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第二十一號

耕地整理登記令施行細則左ノ通相定ム

明治四十二年十月十四日

司法大臣 子爵岡部長職

耕地整理登記令施行細則

- 第一條 耕地整理登記令ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル
- 第二條 整理施行地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ渉ル場合ニ於テハ土地ニ關スル登記ノ申請ハ各登記所ノ管轄ニ屬スル地域毎ニ之ヲ爲スヘシ
- 第三條 前條ノ場合ニ於テ登記ノ申請書ニ添附スヘキ換地説明書及整理確定圖ハ各登記所ノ管轄ニ屬スル地域毎ニ分割シテ之ヲ調製スルコトヲ得
- 第四條 耕地整理登記令第五條ノ規定ニ依リ登記ノ申請書ニ添附スヘキ圖面ニハ換地ノ所在ノ郡市區町村字土地ノ番號竝方位及地役權ノ存スル換地ノ部分ノ段別若ハ坪數竝其ノ部分ノ符號ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スヘシ
- 第五條 整理確定圖及前條ノ圖面ニハ申請書受附ノ年月日受附番號及登記番號ヲ記載スヘシ
- 第六條 前條第二項ノ番號ハ整理確定圖ニ付テハ土地ノ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ、第四條ノ圖面ニ付テハ丙區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ
- 第七條 耕地整理ノ結果ニ因リ從來ノ土地登記見出帳ノ全部又ハ一部ヲ改製セムトスルトキハ登記所ハ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ但シ區裁判所出張所カ認可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ見出帳ヲ改製スルトキハ見出帳中相當備考欄ニ換地ノ番號ニ對スル既登記ノ從前ノ土地ノ番號ヲ記入スヘシ
- 第八條 前條ノ場合ニ於テ整理施行地區内ノ土地算少ナルカ爲土地登記見出帳ノ改製ヲ要セサルトキハ不動産登記法施行細則第八條ノ規定ニ從ヒ見出帳ノ整理ヲ爲スコトヲ得

- 第九條 耕地整理登記令第二十八條及第二十九條ノ通知事項通知ヲ受クヘキ者及通知ヲ發スル年月日ハ不動産登記法施行細則第十四條第五號ノ通知簿ニ之ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ
- 第十條 耕地整理登記令第二十八條及第二十九條ノ通知ハ郵便其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第十一條 耕地整理登記令第二十九條ノ通知ハ換地カ共有ナル場合ニ於テハ共有者ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル
- 第十二條 耕地整理法第九條ノ規定ニ依ル登記簿及其ノ附屬書類ノ謄寫ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十月十六日ヨリ之ヲ施行ス
 整理地登記取扱手續ハ之ヲ廢止ス但シ第六條ノ二ノ規定ハ舊耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行シタル土地ノ登記ニ關シテ仍効力ヲ有ス

○農商務省令第三十八號

遠洋漁船検査規程左ノ通改正シ明治四十二年十月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月七日

農商務大臣 男爵大浦兼武
 遞信大臣 男爵後藤新平

遠洋漁船検査規程

第一章 總則

- 第一條 本規程ハ遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受クル遠洋漁船ニ之ヲ適用ス
- 第二條 獎勵金ヲ受クル鐵製鋼製木鐵交造木鋼交造ノ遠洋漁船ノ船體及漁業獎勵金ヲ受クル船

船ノ機關若ハ漁船獎勵金ヲ受クル機關ノ構造ハ漁船検査規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス
第三條 漁業獎勵金ヲ受クル總噸數二十噸未満ノ帆船ノ船體及機關ノ屬具ハ漁船検査規程ニ準據
スルモノナルコトヲ要ス

第四條 漁業獎勵金ヲ受クル汽船及總噸數二十噸以上ノ帆船ハ近海航路以上ノ航路制限ヲ有スル
モノナルコトヲ要ス

第五條 遠洋漁船ノ上甲板ニハ海圖室、操舵室、炊事室、燈具室及厠ヲ除クノ外甲板室ヲ設クヘカ
ス但シ漁獲物處理運搬船若ハ特ニ農商務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第六條 遠洋漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クヘカラス

第七條 漁獲物處理運搬船ニハ活魚船又ハ防熱裝置若ハ冷藏機械ヲ備フルコトヲ要ス

第八條 帆船及補助機關ヲ有スル帆船ハ長深ノ十倍未満、長幅ノ四、五倍未満、幅深ノ二、八倍未
ト爲スヘシ

汽船ハ長深ノ十一倍未満、長幅ノ六倍未満、幅深ノ二、八倍未滿ト爲スヘシ但シ漁獲物處理運搬船
ニ在リテハ長深ノ十三倍未滿、長幅ノ七倍未滿ト爲スコトヲ得

検査官吏ニ於テ船體ト壓艙物、帆面積、乾舷高トノ關係ニ依リ復元力充分ナリト認メ又ハ特別ノ
補強構造ニ依リ強力充分ナリト認ムルモノハ前二項ニ該當セサルコトヲ妨ケス

第九條 遠洋漁船ニ搭載スル壓艙物カ移動シ易キ物質ナルトキハ隔板其ノ他ノ防移裝置ヲ爲スコ
トヲ要ス

第二章 木製遠洋漁船

第一節 總則

第十條 木製遠洋漁船ニ付テ長ト稱スルハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルト
キハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船又ハ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部

彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿ヒテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上
面線トノ交叉點ヨリ測ルモノトス

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ

深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第十一條 本章ニ於テ第一數ト稱スルハ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ長幅、深ヲ相乘シタル數ヲ謂フ

前二項ノ長、幅、深ハ呎ヲ本位トシ呎以下ハ一位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スヘシ

第十二條 本章ニ於テ規定シタル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモ
ノトス

第十三條 本章ニ於テ第一級漁船ト稱スルハ漁船検査規程ニ依ル第一級漁船ヲ謂ヒ第二級漁船ト
稱スルハ漁船検査規程ニ依ル第二級漁船及總噸數二十噸未満ノ遠洋漁船ヲ謂フ

第十四條 船體各部ノ寸法ハ第一級漁船ニ在リテハ第一號表乃至第四號表甲及第五號表ニ據リ第
二級漁船ニ在リテハ第一號表乃至第四號表乙及第五號表ニ據ルヘシ

第十五條 船體各部ノ構造方法及寸法カ本章ノ規定ニ該當セサルトキト雖検査官吏ニ於テ本章ノ
定ムル所ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルトキハ本章ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第十六條 第二數四千未満ノ船舶ニ在リテハ其ノ構造方法及寸法カ本章ノ定ムル所ト同一ノ效力
ヲ有セサル場合ト雖農商務大臣ニ於テ用途ニ對シ支障ナシト認ムルモノハ本章ノ規定ヲ適用セ
サルコトヲ得

第十七條 本章ニ於テ甲材ト稱スルハ樅、櫻及楡、乙材ト稱スルハ「タモ」、鹽地、檜、梅、桂及樟、丙材ト
稱スルハ椎、栗、松、杉、米松、榎及樺ヲ謂フ

前項ニ掲ケサル材料ト雖検査官吏ニ於テ其ノ強力適當ナリト認ムルトキハ其ノ程度ニ依リ各相

同トシ

當ノ材料トシテ使用スルコトヲ妨ケス

第十八條 第一號表乃至第四號表ニ掲クル甲材ノ代リニ乙材ヲ用ウルトキハ百分ノ十以上、甲材ノ代リニ丙材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十以上其ノ截面ヲ増スヘシ又丙材ノ代リニ乙材ヲ用ウルトキハ百分ノ十以下、丙材ノ代リニ甲材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十以下其ノ截面ヲ減スルコトヲ得

第十九條 曲材ハ總テ天然ノ屈曲材ニシテ木目ノ貫通セルモノナルコトヲ要ス

第二十條 船體ヲ構成スル木材ハ有害ナル節癭其ノ他ノ缺點ヲ有セスシテ充分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス但シ検査官吏ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ腐蝕ノ虞少ク且特ニ強力ヲ要セサル部分ニハ邊材ヲ使用スルコトヲ妨ケス

第二十一條 打込釘ノ徑又ハ邊ハ其ノ部分ニ用ウル敲釘ノ徑ヨリ八分ノ一吋減シタルモノヨリ小ナルヘカラス

第二十二條 蒸曲肋材ト組合肋材トヲ混用スル船舶ニ在リテハ内龍骨、側内龍骨、側内厚板、彎曲部、縱通材、梁受板其ノ他ノ内板ト肋骨又ハ肋骨及外板トヲ緊著スル敲釘ハ組合肋材間ノ距離適當ナルトキニ限リ組合肋材ノミヲ貫通スルモ妨ナシ

第二十三條 第二數八千未満ノ第二級漁船ニ在リテハ甲板上ヨリ舵ヲ引揚ケ得ル構造ト爲ニコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舵架ノ構造特ニ堅牢ナルコトヲ要ス

第二十四條 汽船及第二數八千五百未満ノ帆船ニ在リテハ適當ノ構造ヲ爲ストキハ起倒シ得ヘキ櫓ヲ用ウルコトヲ得

第二節 龍骨、船首材、船尾材、舵柱及力材

第二十五條 龍骨、船首材、船尾材、舵柱及船尾縱翼材ノ截面ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二十六條 龍骨ノ嵌接ハ鈎形水平嵌接ト爲スヘシ但シ木柱ヲ以テ固著スルトキハ平面水平嵌接ト爲スコトヲ得

ト爲スコトヲ得

龍骨嵌接ハ副龍骨、龍骨翼板ノ嵌接、櫓根及長五呎以上ノ船口ト適當ニ避距スヘシ
嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上ト爲スヘシ但シ鐵又ハ鉛龍骨ヲ有スルモノハ特ニ其ノ長ヲ増スヘシ

嵌接ノ兩端ニハ各二箇、其ノ中間ニハ十二吋以内ノ心距ニ一箇ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ
兩端ニ各二箇ノ敲釘ヲ用ウル能ハサルトキハ各一箇ト爲スコトヲ得但シ總數四箇ヲ下ルヘカラス

嵌接敲釘ノ徑ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二十七條 船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ四倍以上ト爲スヘシ

船首材ヲ二材ニテ作ルトキハ其ノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲スヘシ

敲釘ノ徑、心距及固著法ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

船首材ノ下部屈曲セスシテ龍骨ニ衝接スルトキハ箭ヲ作出シテ相嵌メ込ミ鳩尾形金具ヲ兩面ニ附シ且根曲材ニテ固著スヘシ

第二十八條 單螺旋汽船ノ舵柱ハ上甲板ニ達セシメ箭ヲ作出シテ龍骨ニ嵌メ込ミ且船尾材及龍骨ニ跨ル金具ヲ兩面ニ取付ケ三材ノ結合ヲ堅固ニ爲スヘシ但シ第二數一萬未満ノ船舶ニ在リテハ

龍骨ト船尾材及龍骨ト舵柱ヲ獨立ニ鳩尾形金具ヲ以テ固著スルコトヲ妨ケス

龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ特ニ堅牢ナル金具ヲ以テ三材ヲ結合スルコトヲ要ス

補助機關ヲ有スル帆船ニシテ舵柱及舵心材ノ一部ヲ切取リ螺旋間隙ト爲スモノニ在リテハ舵柱ノ寸法ヲ増シテ船尾材ヲ附セサルコトヲ得

第二十九條 船尾材ハ上甲板ニ達セシメ箭ヲ作出シテ龍骨ニ嵌メ込ミ鳩尾形金具ヲ兩面ニ附スヘシ但シ單螺旋汽船ニ在リテハ正甲板ニ止ムルトコトヲ得

單螺旋汽船ノ船尾材ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ船尾材ノ五分ノ三ヨリ小ナルヘカラス
第三十條 船尾管胴材ハ一材若ハ重ネ合セタル二材ノ堅材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ船尾管外徑ノ
二倍以上ト爲スヘシ

第三十一條 船ノ首尾ニ於ケル力材ノ厚ハ龍骨上面ノ厚ト等シクシ其ノ高ハ斜肋骨ヲ取附クルニ
充分ナラシムヘシ

力材ト内龍骨、龍骨、船首材若ハ船尾材トノ貫通敲釘ノ徑ハ第三號表ニ據リ其ノ心距ハ十八吋以
内ト爲スヘシ

敲釘ノ長特ニ大ナルトキハ適當ニ其ノ徑ヲ増スヘシ
第三十二條 第二級漁船ニハ中舵ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ水密ニシテ堅牢ナル中舵箱
ヲ作り且龍骨及内龍骨ニ對スル補強構造ヲ爲スヘシ

第三節 肋骨及斜帶板
第三十三條 肋骨ノ心距及截面ハ第一號表ニ據ルヘシ但シ心距ヲ減スルトキハ肋骨ノ截面及外板
ノ厚ヲ適當ニ減スルコトヲ得

第三十四條 長短肢肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ總長ハ船ノ
幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且肋根材ハ船ノ幅ノ七分ノ一以上相累接スヘシ

第三十五條 肋根材及半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長ヲ船
ノ幅ノ四分ノ一以上、半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スヘシ

第三十六條 肋材銜接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スヘシ
肋材ハ其ノ銜接ノ兩側ニ第一號表ニ掲クル敲釘若ハ木釘ヲ以テ之ヲ緊著シ且銜接ノ避距大ナル
トキハ銜接ノ中間ニ於テ木釘若ハ打込釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

第三十七條 船底ノ形狀銳尖ナル船舶及第二級四千未滿ノ第二級漁船ニ在リテハ検査官吏ノ見込
ニ依リ第二十四條、第二十五條及第二十六條第一項ニ定メタル制限ヲ輕減スルコトヲ得

第三十八條 第二級漁船ニ在リテハ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルコトヲ得
銜接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ銜接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以
上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

銜接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ同截面ヲ有スル適當ノ長ノ添材ヲ附シ銜接ノ兩側
ニ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第三十九條 第一級十八未滿ノ第二級漁船ニ在リテハ適當ナル蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルコト
ヲ得

第四十條 蒸曲肋骨ト組合肋骨ヲ混用スルトキハ肋骨ノ截面及組合肋骨ノ心距ハ第一號表乙ニ
據ルヘシ

第四十一條 船底ノ形狀銳尖ナル船舶ニ在リテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムルトキハ之ヲ第四十
八條ニ掲クル副龍骨ニ取附ケ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ緊著シ且上面ニ鍊鐵製若ハ木製ノ根曲材
ヲ附スルカ其ノ他ノ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第四十二條 活魚船ヲ有スル船舶ニ在リテ縱通隔壁ヲ有スルトキハ特ニ其ノ部分ノ肋骨ノ數ヲ減
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ活魚船兩端ノ肋骨ヲ大ニシ縱通隔壁下部ニ縱通材ヲ取附ケ且其
ノ部ノ外板ノ厚ヲ増スカ其ノ他ノ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第四十三條 船首肋材及鋪鎖孔材ハ各一材ヲ以テ作り其ノ厚ハ肋骨ノ厚ノ二倍以上ト爲スヘシ
船首材ヨリ鋪鎖孔材ノ後部適當ナル距離ノ處迄肋骨ノ間隙ニ環材ヲ挿入スヘシ

第四十四條 各肋骨ハ打込釘ヲ以テ龍骨ニ固著スヘシ

第四十五條 長深ノ八倍ヲ超エ又ハ長幅ノ五倍ヲ超ユル船舶ニシテ第二級二萬五千以上ナルトキ
ハ幅三吋厚十六分ノ六吋ノ斜帶板ヲ附シ第二級四萬二千以上ナルトキハ幅三吋半厚十六分ノ七

時ノ斜帯板ヲ附スヘシ

斜帯板ノ心距ハ長深ノ九倍未満又ハ長幅ノ六倍未満ナルトキハ八呎以下、長深ノ九倍以上又ハ長幅ノ六倍以上ナルトキハ七呎以下、長深ノ十倍以上ナルトキハ六呎以下ト爲スヘシ

第四十六條 斜帯板ハ肋材毎ニ外板ニ用ウル敲釘ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

第四節 内龍骨、側内厚板及彎曲部縦通材

第四十七條 内龍骨、側内厚板及彎曲部縦通材ノ寸法ハ第四號表ニ據ルヘシ

第四十八條 船底ノ形狀銳尖ニシテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル船舶ニ在リテハ副龍骨ヲ附シテ内龍骨及側内厚板ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ龍骨及副龍骨ノ截面ノ和ハ第三號表及

第四十九條 活魚艙ヲ有スル船舶ニ在リテ縦通隔壁ヲ有スルトキハ其ノ部ノ内龍骨及側内厚板ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ縦通隔壁下部ニ縦通材ヲ置キ之ヲ活魚艙前後ニ肋骨間ニ延長スルカ其ノ他ノ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第五十條 内龍骨ノ嵌接ハ平面水平嵌接ト爲シ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上ト爲スヘシ
内龍骨ノ嵌接ハ龍骨嵌接、汽機、汽罐及樁根ト適當ニ避距スヘシ
内龍骨ノ嵌接敲釘ノ徑ハ第四號表ニ據ルヘシ

第五十一條 汽機、汽罐ノ下部ニ於テハ内龍骨ハ堅材ヲ以テ構成スヘシ但シ第二數一萬二千五百未滿ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

汽罐ノ下部ト内龍骨ノ上面トハ充分隔離スルカ若ハ適當ノ防熱工事ヲ施スヘシ

第五十二條 樁ハ直接ニ内龍骨ニ嵌入スヘカラス

第五十三條 船ノ長百三十呎ヲ超ユルカ若ハ船ノ長九十呎以上ニシテ深ノ七倍以上ナルトキハ適當ノ側内龍骨ヲ附スヘシ

第五十四條 側内厚板ハ肋根材ト第一肋材トノ接合部ニ設クヘシ
第二數四千六百未滿ニシテ幅深ノ二、五倍ヲ超エサル船舶ニ在リテハ側内厚板ヲ省略スルコトヲ妨ケス

第五十五條 側内厚板及彎曲部縦通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第五十六條 龍骨及内龍骨ハ肋骨毎ニ第四號表ニ掲クル敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ之ヲ緊著スヘシ

第五十七條 側内龍骨ハ肋骨毎ニ第四號表ニ掲クル敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ之ヲ緊著スヘシ

第五十八條 側内厚板ハ肋骨一本置ニ第四號表ニ掲クル敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ之ヲ緊著シ其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

第五十九條 彎曲部縦通材ハ其ノ各材ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ第四號表ニ掲クル敲釘及打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ各材ノ幅五吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘一本ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘一本ヲ以テ固著スルコトヲ妨ケス

彎曲部縦通材ノ各材ノ幅八吋以上ナルトキハ適當ニ敲釘ノ數ヲ増スヘシ

第六十條 長深ノ八倍ヲ超ユルカ若ハ長幅ノ五倍ヲ超ユル船舶ニ在リテハ内龍骨ノ截面ヲ五分ノ一以上長深又ハ長幅ノ比ニ從ヒ之ヲ増スカ若ハ適當ノ側内龍骨ヲ附スヘシ但シ内龍骨ノ截面ヲ増シ若ハ側内龍骨ヲ附スルコト能ハサルトキハ龍骨ノ截面ヲ適當ニ増スヘシ

第五節 梁受板、梁壓材、船鏢及内部腰板

第六十一條 梁受板及内部腰板ノ截面ハ第四號表ニ據ルヘシ

第六十二條 梁壓材ノ截面ハ第三號表ニ據リ之ヲ定メ梁トノ接合部ノ幅ヲ梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第六十三條 第二甲板梁、船梁及第二敷一萬五千以上ノ船舶ノ上甲板梁ニハ第四號表ニ掲クル厚
ヲ有スル副梁受板ヲ附スヘシ

第六十四條 第二敷三萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三ノ間上甲板梁ニ副梁壓材
ヲ附スヘシ

第六十五條 副梁壓材ノ幅ハ中央部梁ノ幅以上ト爲シ厚ハ木甲板ノ厚ニ等シクスヘシ

第六十六條 梁受板、梁壓材、船鰐及内部腰板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ
敲釘又ハ打込釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ第二敷五千未滿ノ船舶ニ在リテハ嵌接ノ長ヲ用材ノ

幅ノ二倍迄ニ減スルコトヲ妨ケス

前項ニ掲クル各材ノ嵌接ハ適當ニ避距スヘシ

第六十七條 船鰐ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ

船鰐ヲ貫キテ舷牆柱ヲ設クルトキハ船鰐ハ二材ヲ以テ構成スルコトヲ得

第二敷一萬未滿ノ船舶ニ在リテハ梁壓材ヲ以テ船鰐ニ兼用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ梁壓
材ノ寸法ヲ適當ニ増スヘシ

第六十八條 内部腰板ハ第二甲板梁又ハ船梁ノ梁壓材上ニ設クヘシ

第六十九條 長深ノ八倍ヲ超ユルカ若ハ長幅ノ五倍ヲ超ユル船舶ニ在リテハ梁壓材ノ截面ヲ十分
ノ一以上長深又ハ長幅ノ比ニ從ヒ之ヲ増スカ若ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第七十條 上甲板梁受板及第二甲板梁受板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ固著スヘシ但シ用材
ノ幅七吋未滿ナルトキハ打込釘ヲ省略スルコトヲ妨ケス

前項ノ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

船梁ノ梁受板ハ肋骨一本置ニ敲釘二箇ヲ以テ其ノ他ノ肋骨ニハ敲釘及打込釘ヲ以テ固著スヘ
シ

各層梁ノ副梁受板ノ固著法ハ上甲板梁受板ト等シクスヘシ但シ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要
セス

第七十一條 梁壓材ハ肋骨毎ニ梁壓材、肋骨及外板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ但シ第
二甲板梁若ハ船梁ノ梁壓材ノ敲釘ハ外板ヲ貫通スルコトヲ要セス

梁壓材ハ梁若ハ梁及梁曲材ヲ貫通シ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

梁壓材ト船鰐トヲ兼ヌルモノニ在リテハ肋骨ノ中間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ舷側厚
板ニ固著スヘシ但シ第二敷五千未滿ノ船舶ニ在リテハ打込釘ノミヲ用ウルコトヲ妨ケス

七十二條 船鰐ハ肋骨ノ中間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ舷側厚板ニ固著スヘシ但シ第
二敷五千未滿ノ船舶ニ在リテハ打込釘ヲ以テ梁壓材ニ固著スヘシ

船鰐ハ梁ノ中間ニ於テ打込釘ヲ以テ梁壓材ニ固著スヘシ

船鰐ヲ貫キテ舷牆柱ヲ設クルトキハ船鰐ハ舷牆柱毎ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但シ第二敷九千未
滿ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二材ヲ以テ船鰐ヲ構成スルトキハ舷牆柱ノ間ニ於テモ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第七十三條 内部腰板ノ固著法ハ副梁受板ニ等シクスヘシ

第七十四條 副梁壓材ハ梁毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第六節 梁、梁ノ配置、船口梁、甲板諸口梁及梁柱

第七十五條 梁ノ截面ハ第二號表ニ據ルヘシ但シ特ニ梁柱ノ數ヲ増シ又ハ堅牢ナル隔壁ヲ有スル
場所ニ於ケル梁ハ適當ニ其ノ截面ヲ減スルコトヲ得

第七十六條 甲板梁ノ心距ハ肋骨心距ノ二倍ト爲スヘシ但シ四呎ヲ超ユヘカラス

第七十七條 甲板梁ノ心距カ前項ノ規定ヨリ小ナルトキハ梁ノ截面及甲板ノ厚ヲ適當ニ減スルコトヲ得

第七十七條 深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ在リテハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一ノ間上甲

板梁一本置ニ船梁ヲ設クヘシ

第七十八條 深十六呎以上十九呎未満ノ船舶ニ在リテハ船ノ首尾ヲ通シ上甲板梁一本置ニ船梁ヲ設クヘシ

第七十九條 梁ハ漸次其ノ深ヲ減少シテ梁端ニ於テ中央ノ深ノ十分ノ九ト爲スコトヲ得

第八十條 船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ノ四分ノ三ヨリ短キ梁ノ截面ハ第二號表ニ掲クル半梁ニ等シクスルコトヲ得

第八十一條 梁ハ其ノ兩端ニ於テ打込釘ヲ以テ梁受板ニ固著スヘシ

第八十二條 船口汽機室、汽罐室等ノ部分ニ於テ本節ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

揚船機、斜橋等ヲ支フル梁ハ其ノ截面ヲ適當ニ増スヘシ

第八十三條 帆船ニ在リテハ上甲板ニ於ケル橋ノ前後ノ梁ハ其ノ兩端ヲ第五號表ニ掲クル橫梁曲材ヲ以テ船側ニ取附ケ縱梁ヲ附シ填材及橫梁曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ第三號表ニ掲クル甲板ノ厚ノ一倍三分ノ一ノ厚ト橋徑ノ二倍半ヨリ小ナラサル幅ヲ有スル橋孔板ヲ設クヘシ又龍骨上面ヨリ最下層梁迄九呎以上ナルトキハ特設梁曲材ヲ取附クヘシ

第八十四條 剛ノ道ヲ有スル船舶ニ在リテハ其ノ兩側ニ縱梁ヲ附シ橫梁曲材ヲ以テ橋ノ前後ノ梁ニ固著スヘシ

第八十五條 長十呎以上ノ機關室口ノ兩端及中央ニハ第二號表ニ掲クル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材及橫梁曲材ヲ以テ船側ニ固著スヘシ但シ汽機室ト汽罐室ト隔離スルトキハ各室ノ兩端ニ特設梁ヲ設クヘシ

特設梁ノ間ニハ堅材ノ縱梁ヲ設ケ橫梁曲材ヲ以テ特設梁ニ固著スヘシ

龍骨上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深カ九呎以上ナルトキハ特設梁ニ特設梁曲材ヲ取附クヘシ

第八十六條 上甲板及第二甲板ノ船口ノ長八呎以上ナルトキハ其ノ中央ニ堅牢ノ仕切梁ヲ設ケ且長十呎以上ナルトキハ船口兩端梁ハ橫梁曲材ヲ以テ船側ニ固著シ縱梁ノ兩端ハ橫梁曲材ヲ以テ固著スヘシ

第八十七條 上甲板及第二甲板ニ於ケル汽機室口及汽罐室口ノ半梁ハ一本置ニ橫梁曲材ヲ以テ其ノ兩端ヲ固著スヘシ但シ第二號表八千五百未満ノ船舶ニ在リテハ橫梁曲材ヲ用ウルコトヲ要セス

第八十八條 梁柱ハ梁毎ニ之ヲ附シ上層梁ニ梁柱ヲ有スルトキハ其ノ下層梁ニモ亦之ヲ附スヘシ但シ梁毎ニ梁柱ヲ附セサルトキハ梁下縱通材ヲ設ケ適當ニ梁柱ノ截面ヲ増スヘシ

第八十九條 幅二十五呎未満ノ船舶ニ在リテ梁ノ截面ヲ増シ其ノ兩端ニ堅梁曲材ヲ附スルトキハ梁柱ヲ設クルコトヲ要セス

第九十條 木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深ト和ノ每一呎半ニ付一平方吋ノ割合ト爲スヘシ 鐵製中實梁柱ノ徑ハ船ノ幅ト深ト和ヨリ二呎ヲ減シタル差每一呎ニ付十六分ノ一時ノ割合ト爲スヘシ

第九十一條 甲板室、斜橋、揚船機、揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他特ニ重量ヲ支フル箇所ニハ梁柱ヲ設クヘシ

第九十二條 船口、剛ノ道、出入口、汽機室口、汽罐室口ノ兩端梁及縱梁上面ニハ堅牢ナル緣材ヲ固著スヘシ但シ特別ノ水密構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第七節 梁曲材

第九十三條 梁ト梁壓材、副梁壓材又ハ梁曲材トノ固著ハ第七十一條、第七十四條、第二百二條及第二百三條ノ規定ニ依ルヘシ

但シ第二數四千四百未満ノ船舶ニ在リテハ長五呎以上ノ船口兩端梁及檣ノ前後ノ梁ニ短梁曲材ヲ取附ケ他ノ梁ニハ適當ニ之ヲ省略スルコトヲ得

第二數四千四百以上一萬七千未満ナルトキハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數一萬七千以上ナルトキハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但シ第二數二萬五千以上ナルトキハ甲板梁三本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第九十五條 汽船ニ在リテハ第二數四千四百未満ナルトキハ甲板梁二本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但シ第二數四千四百未満ナルトキハ汽機室口、汽罐室口及長五呎以上ノ船口ノ兩端梁ニ短梁曲材ヲ取附ケ其ノ他ノ梁ニハ適當ニ之ヲ省略スルコトヲ得

第二數四千四百以上一萬七千未満ナルトキハ交互ニ甲板梁一本置ト二本置トニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數一萬七千以上二萬五千未満ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數二萬五千以上三萬三千未満ナルトキハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數三萬三千以上ナルトキハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但シ第二數四萬二千以上ナルトキハ甲板梁三本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第九十六條 二層甲板船ノ上甲板梁ニハ長梁曲材ノ代リニ短梁曲材ヲ用ウルコトヲ妨ケス

第九十七條 船梁ニハ梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第九十八條 第二數二萬五千以上ノ船舶ニシテ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ特設梁曲材ヲ船梁毎ニ取附クヘシ

第九十九條 梁曲材ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ

木製梁曲材ノ各腕ノ長ハ鍊鐵製梁曲材ニ等シクスヘシ

特設梁曲材ノ各部寸法及梁腕ノ長ハ長梁曲材ニ等シクシ側腕ノ長ハ彎曲下部ニ達セシムヘシ

第一百條 檣孔船口及機關室口ニ於ケル梁曲材ノ配置ハ第八十三條乃至第八十七條ノ規定ニ依ルヘシ

第一百一條 肋骨間ニ於テ堅梁曲材ヲ附スルトキハ該部ニ填材ヲ挿入スヘシ

第一百二條 梁曲材ハ梁及肋骨ト敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ其ノ心距ハ十二吋以下トシ且敲釘ノ總數ハ五箇以上ナルコトヲ要ス

梁曲材ノ梁腕ノ敲釘中一箇ハ第七十一條第二項ニ依リ梁壓材ヲ貫通スルコトヲ要ス

第一百三條 柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ在リテハ梁曲材ニ用ウル敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス但シ第二數九千八百未満ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第八節 船首肘材及船尾肘材

第一百四條 本節ニ於テ深ト稱スルハ船ノ中央ニ於テ龍骨上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ但シ低船首樓及低船尾樓ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ甲板梁ノ上面迄ノ距離トス

第一百五條 各層梁受板ノ端末ニハ肘材ヲ設クヘシ

第一百六條 深五呎未満ノ船舶ニ在リテハ船首肘材一箇ヲ設クヘシ

深九呎未満ノ船舶ニ在リテハ船首肘材二箇、船尾肘材一箇ヲ設クヘシ

深九呎以上十四呎未満ノ船舶ニ在リテハ船首肘材三箇、船尾肘材一箇ヲ設クヘシ

深十四呎以上十六呎未満ノ船舶ニ在リテハ船首肘材四箇、船尾肘材二箇ヲ設クヘシ

深十六呎以上ノ船舶ニ在リテハ三呎以內ノ距離ニ船首肘材ヲ設ケ且二箇以上ノ船尾肘材ヲ設クヘシ

第一百七條 肘材ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ

肘材ノ各腕ノ長ハ肋骨二本以上ニ固著スルニ充分ナルコトヲ要ス

第一百八條 肘材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ、其ノ腕ヲ每肋骨ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但

シ木製肘材ニ於テハ咽喉部釘ハ打込釘ト爲スコトヲ得

柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ在リテハ肘材ニ用ウル敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

第九節 船首樓、船尾樓、船橋樓、低船首樓及低船尾樓

第一百九條 船首樓、船尾樓、船橋樓、低船首樓、低船尾樓ノ合長ハ船ノ長ノ五分ノ三ヲ超ユヘカラス

第一百十條 船首樓、船尾樓及船橋樓ノ各材ノ截面ハ上甲板以下ノ各材截面ノ四分ノ三以上ト爲ス

船首樓、船尾樓又ハ船橋樓ヲ設クルトキハ上甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鏢ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スヘシ

第一百十一條 低船首樓及低船尾樓ノ外板其ノ他諸材ノ寸法ハ上甲板以下ニ要スルモノニ等シクス

低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板ヲ設クル船舶ニ在リテハ上甲板ノ梁壓材並梁受板ヲ肋骨心距ノ五倍以上船首尾ニ延長スヘシ但シ第二數八千八百未滿ノ船舶ニ在リテハ二倍以上、第二數四千二百未滿ノ船舶ニ在リテハ二倍以上ト爲スコトヲ得

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ在リテハ上甲板ノ舷側厚板ヲ船首尾ニ延長スヘシ

第十節 甲板

第一百十二條 上甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ第二甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

第一百十三條 上甲板及第二甲板ハ水密ト爲スヘシ

第一百十四條 木甲板ノ幅ハ十吋ヲ超ユヘカラス但シ厚二吋未滿ナルトキハ六吋以下ト爲スヘシ

第一百十五條 鄰接スル木甲板ノ横線ノ避距ハ梁心距ノ二倍以上ト爲スヘシ又木甲板三條ヲ隔ツルニ非サレハ同一梁上ニ横線ヲ置クヘカラス

第一百十六條 揚錨機、揚貨機、繫船器等ノ下部ニ於ケル甲板ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第一百十七條 木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ一箇、幅六吋ヲ超ユルトキハ二箇、幅八吋二分ノ一ヲ

超ユルトキハ三箇ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ

第十一節 外板及内張板

第一百十八條 外板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ但シ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一ノ間ハ車軸覆板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リテ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第一百十九條 内張板ノ厚ハ第四號表ニ據ルヘシ但シ第二數八千五百未滿ノ第二級漁船ニシテ外板ノ厚ヲ増シ彎曲部縱通材ノ幅ヲ増ストキ又ハ第二數四千未滿ノ船舶ナルトキハ内張板ヲ設ケサルコトヲ得

第一百二十條 外板ノ横線ノ避距ハ上下ニ鄰接スルトキハ肋骨心距ノ二倍以上、外板一條ヲ隔ツルトキハ肋骨心距ノ二倍以上、二條ヲ隔ツルトキハ肋骨心距以上ト爲スヘシ

外板ノ横線ハ三條ヲ隔ツルニ非サレハ同一ノ肋骨上ニ置クヘカラス

船ノ首尾兩端ニ在リテハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第一百二十一條 外板及内張板ノ幅ハ十二吋ヲ超ユヘカラス

第一百二十二條 兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ横線ノ避距ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ

龍骨翼板ノ横線ハ嵌接ト爲スヘシ

前項嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第一百二十三條 外部腰板ハ喫水線ノ上下ニ取附ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二數二萬五千未滿ノ船舶ニ在リテハ外部腰板ヲ設ケサルコトヲ得

第一百二十四條 舷側厚板ノ横線ハ嵌接ト爲スヘシ

前項ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ
第百二十五條 外板横縁ノ兩側ニ於テハ二箇ノ釘ヲ以テ外板ヲ肋骨ニ固著スヘシ但シ其ノ一ハ敲釘ナルコトヲ要ス

横縁ニ鄰接スル肋骨ニ敲釘ヲ以テ外板ヲ固著スルトキハ横縁ノ兩側ニハ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第百二十六條 外板ハ其ノ幅八吋二分ノ一未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋二分ノ一以上十吋二分ノ一未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋二分ノ一以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但シ外板ノ幅十吋二分ノ一以上ナルトキト雖單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ在リテハ肋骨毎ニ三箇ノ釘ヲ以テスルモ妨ナシ

前項ノ固著釘ハ肋骨一本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ水釘ナルコトヲ要ス但シ舷側厚板及龍骨翼板ハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

外板ヲ貫通スル内板ノ敲釘ハ前二項ノ敲釘ノ數ニ算入スルコトヲ得

第百二十七條 蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ在リテハ外板ハ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ此ノ場合ニ於テハ敲釘ノ徑ハ第三號表ニ據ラサルコトヲ得

第百二十八條 龍骨翼板ハ其ノ厚五吋以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三ノ間ハ肋骨ノ間ニ於テ六呎以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ龍骨ニ緊著スヘシ

第百二十九條 厚一時四分ノ一ヲ超エサル外板ハ其ノ縦縁ヲ累接ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第百三十條 長深ノ八倍ヲ超ユルカ若ハ長幅ノ五倍ヲ超ユル船舶ニ在リテハ舷側厚板ノ厚十分ノ一以上長深又ハ長幅ノ比ニ從ヒ之ヲ増スカ若ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第百三十一條 船底ニハ最大喫水線上少クモ一呎ノ處迄銅、黃銅若ハ木ノ船底包板ヲ張詰ムヘシ

但シ第二數五千未滿ノ船舶ニ在リテハ最大喫水線上六吋迄ニ減スルコトヲ妨ケス
適當ノ防腐劑ヲ塗抹スルトキハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十二節 舵

第百三十二條 舵心材ハ樫又ハ櫟ノ一材ヲ以テ作り其ノ徑ハ第三號表ニ據ルヘシ

第百三十三條 舵蝶番ノ數及舵針ノ徑ハ第三號表ニ據ルヘシ但シ下端ノ舵架ハ蝶番ノ數ニ算入スルモノトス

銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ有スル船舶ノ蝶番及舵針ハ喫水線以下ニ於テハ黃銅製ナルコトヲ要ス
第百三十四條 舵ノ重金ノ厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ、深ハ舵針ノ徑ノ一倍四分ノ一ヨリ小ナルヘカラス

第百三十五條 舵心材ハ力材ニ用ウルモノニ等シキ敲釘ヲ以テ矧材ニ固著シ其ノ心距ハ十八吋ヲ超ユヘカラス

第十三節 檣、帆架及斜檣

第百三十六條 下檣ノ上端ノ徑ハ上檣ノ下端ノ徑ヨリ小ナルヘカラス

第百三十七條 一材檣ノ寸法ヲ定ムルニハ内龍骨上面ヨリ下檣索具ヲ取附クル處迄ヲ下檣ノ長トシ第百三十八條ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十八條 檣、帆架及斜檣ノ徑ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

「シップ」ノ後檣「ブリック」ノ正檣、前檣、前上檣、正上檣及「シップ」ノ後上檣

長三呎ニ付一時

「シップ」ノ後檣「ブリック」ノ正檣、前檣、前上檣、正上檣及「シップ」ノ後上檣

長四呎ニ付一時

帆架、頂樁、バーク及「パーケンタイン」ノ後上樁、バークケンタイン及「ブリガンタイ」ノ正上樁
長四呎ニ付一時

「ラガー」ノ帆架
長三吋ニ付一時

「スクーナー」ノ帆架
長五呎ニ付一時

「スクーナー」ケッチ「ヨール」「カッター」「ラガー」ノ樁
長四呎ニ付一時

「バーク」及「パーケンタイン」ノ後樁、バークケンタイン及「ブリガンタイ」ノ正樁
長九呎ニ付二吋

斜樁
長七呎ニ付四吋

「シブブーム」「フライングシブブーム」「ブーム」
長九呎ニ付二吋

第三章 發動機
第三百二十九條 發動機ノ純馬力ヲ測定スルニハ左ノ順序ニ依ルベシ

一 發動機ヲ船舶ニ据付クル前検査官吏ノ適當ト認ムル純馬力測定器ヲ用テ計畫回轉數並其ノ

一割ヲ増シタル回轉數及其ノ一割ヲ減シタル回轉數ニ對スル荷重ニ付各一回一分間ノ回轉

數及純馬力ヲ測定スルコト

二 發動機ヲ船舶ニ据付ケタル後検査官吏ノ適當ト認ムル状態ニ於テ二十分以上船舶ヲ航走セ

シメ一分間ノ回轉數ヲ測定スルコト

發動機ノ純馬力ハ前項第一號ニ依リ測定シタル純馬力ノ平均數ヲ同號ニ依リ測定シタル回轉數

ノ平均數ニテ除シタル商ニ同項第二號ニ依リ測定シタル回轉數ヲ乘シテ之ヲ定ム

第四章 業務設備
第四百十條 鯨獵帆船ニハ漁艇、鋸、手鎗、破裂鎗、投射銃、鉛網、屠割臺、煮油釜、冷油槽、捲揚器、庖

刀、鉤、脂肪切臺及油樽ヲ設備スルコトヲ要ス

第四百十一條 旋網漁船ニハ漁艇、網、其ノ附屬具、網置臺、導車、捲揚器、魚艙及處理具ヲ設備スルコトヲ要ス

第四百十二條 「トロール」漁船ニハ網、其ノ附屬具、網吊柱、捲揚器、曳網、導車、魚艙及處理具ヲ設備スルコトヲ要ス

第四百十三條 流網漁船ニハ網、網線、網捲揚器、導車、魚艙及處理具ヲ設備スルコトヲ要ス

第四百十四條 延繩若ハ一本釣漁船ニハ延繩及其ノ附屬具若ハ一本釣及其ノ附屬具並魚留板及處理具ヲ設備スルコトヲ要ス

第四百十五條 鰹釣漁船ニハ鰹釣具及其ノ附屬具、活魚艙、鮮魚艙及處理具ヲ設備スルコトヲ要ス

第四百十六條 漁獲物處理運搬船ニハ防熱裝置及氷藏裝置若ハ冷蔵機械又ハ活魚艙並處理具ヲ設備スルコトヲ要ス

第四百十七條 冷蔵機械冷却力製氷量噸數ハ壓榨機吸入管内ノ壓力ヲ大氣壓以上一平方吋ニ付

「アムモニア」壓榨式ニ在リテハ十六封度若ハ之ニ近キ數、炭酸壓榨式ニ在リテハ二百封度若ハ

之ニ近キ數ニ保チ検査官吏ノ適當ト認ムル状態ニ於テ壓榨機回轉數ヲ測リ左ノ算式ニ據リ之ヲ

定ムベシ

「アムモニア」壓榨式ニ在リテハ

$$Q = \frac{45}{1,000,000} \times D^2 \times S \times N$$

炭酸壓榨式ニ在リテハ

$$Q = \frac{14}{100,000} \times D^2 \times S \times N$$

Qハ冷却力製氷量噸數

Dハ壓榨機氣筒徑(吋ニテ)

Sハ壓榨機ノ行長(吋ニテ)

Nハ單働壓榨機ニ在リテハ一分間ノ回轉數
 複働壓榨機ニ在リテハ一分間ノ回轉數ノ二倍

甲表號一第

材材 上以 高末 18-14	心 距	骨肋合材二		肋骨 組合 釘
		材根肋	材頂	
14-15	17	24	12	寸
15-16	17	25	18	寸
16-17	18	28	14	寸
17-18	18	29	15	寸
18-19	18	32	16	寸
19-20	18	33	17	寸
20-21	19	36	18	寸
21-22	19	39	20	寸
22-23	19	42	21	寸
23-24	20	44	22	寸
24-25	21	51	26	寸
25-26	23	59	30	寸
26-27	24	67	34	寸
27-28	25	87	44	寸
28-29	27	96	48	寸
29-30	30	105	58	寸

號一第

キトリス用温 材組合組ト材曲蒸	材曲蒸	材合組		肋骨 組合 釘
		根	頂	
20	24	2,6	1,8	寸
21	25	3,0	2,1	寸
22	26	3,5	2,5	寸
23	27	4,0	3,0	寸
24	28	5,0	3,9	寸

乙表

材材 上以 高末 9-10	心 距	二材合		單材	
		肋根材	頂材	肋根材	頂材
10-11	14			10	5
11-12	15	10	5	15	7
12-13	16	13	7	20	10
13-14	17	17	9	26	13
14-15	17	19	10	29	15
15-16	17	21	11	32	16
16-17	18	24	12	36	18
17-18	18	27	14	41	21
18-19	18	29	15	44	22
19-20	18	31	16	47	24

甲表號二第

材材 上以 高末 13-14	甲 板 梁	橋孔梁及 以上ノ船口	半 梁 及 縱 梁	特 設 梁	船 梁
14-15	37	42	28	55	
15-16	41	46	31	61	
16-17	45	51	34	67	
17-18	47	53	36	70	
18-19	50	56	38	74	
19-20	53	60	40	79	
20-21	58	65	44	86	98
21-22	62	71	47	93	108
22-23	67	78	51	100	112
23-24	74	85	56	110	125
24-25	80	92	60	121	140
25-26	87	100	67	132	158
26-27	95	106	71	142	168
27-28	101	113	76	149	171
28-29	106	120	80	157	180
29-30	112	126	84	166	187

乙表號二第

材	甲板	梁	樁孔梁及船口	半梁及縱梁	特設梁
材	松	松	松	松	樺
以上 材	材	材	材	材	材
9-10	15	17	11	22	
10-11	18	20	13	27	
11-12	21	24	16	31	
12-13	23	26	18	34	
13-14	29	33	22	43	
14-15	34	38	25	50	
15-16	39	44	29	58	
16-17	43	48	32	64	
17-18	47	53	35	70	
18-19	50	56	38	74	
19-20	53	60	40	79	

號三第

外部	舷側	甲板	木	船	上	甲	舵	舵	舵
板	板	板	板	板	板	板	板	板	板
厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
松	松	松	松	松	松	松	松	松	松
2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2	2 1/2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
37	37	37	37	37	37	37	37	37	37
38	38	38	38	38	38	38	38	38	38
39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
47	47	47	47	47	47	47	47	47	47
48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
49	49	49	49	49	49	49	49	49	49
50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
53	53	53	53	53	53	53	53	53	53
54	54	54	54	54	54	54	54	54	54
55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
56	56	56	56	56	56	56	56	56	56
57	57	57	57	57	57	57	57	57	57
58	58	58	58	58	58	58	58	58	58
59	59	59	59	59	59	59	59	59	59
60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
61	61	61	61	61	61	61	61	61	61
62	62	62	62	62	62	62	62	62	62
63	63	63	63	63	63	63	63	63	63
64	64	64	64	64	64	64	64	64	64
65	65	65	65	65	65	65	65	65	65
66	66	66	66	66	66	66	66	66	66
67	67	67	67	67	67	67	67	67	67
68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
69	69	69	69	69	69	69	69	69	69
70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
71	71	71	71	71	71	71	71	71	71
72	72	72	72	72	72	72	72	72	72
73	73	73	73	73	73	73	73	73	73
74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
76	76	76	76	76	76	76	76	76	76
77	77	77	77	77	77	77	77	77	77
78	78	78	78	78	78	78	78	78	78
79	79	79	79	79	79	79	79	79	79
80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
81	81	81	81	81	81	81	81	81	81
82	82	82	82	82	82	82	82	82	82
83	83	83	83	83	83	83	83	83	83
84	84	84	84	84	84	84	84	84	84
85	85	85	85	85	85	85	85	85	85
86	86	86	86	86	86	86	86	86	86
87	87	87	87	87	87	87	87	87	87
88	88	88	88	88	88	88	88	88	88
89	89	89	89	89	89	89	89	89	89
90	90	90	90	90	90	90	90	90	90
91	91	91	91	91	91	91	91	91	91
92	92	92	92	92	92	92	92	92	92
93	93	93	93	93	93	93	93	93	93
94	94	94	94	94	94	94	94	94	94
95	95	95	95	95	95	95	95	95	95
96	96	96	96	96	96	96	96	96	96
97	97	97	97	97	97	97	97	97	97
98	98	98	98	98	98	98	98	98	98
99	99	99	99	99	99	99	99	99	99
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

甲表

材	龍骨	龍骨	斜肋	方材	船	龍	龍	龍	龍
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
松	松	松	松	松	松	松	松	松	松
56	56	56	56	56	56	56	56	56	56
60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
65	65	65	65	65	65	65	65	65	65
72	72	72	72	72	72	72	72	72	72
81	81	81	81	81	81	81	81	81	81
90	90	90	90	90	90	90	90	90	90
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
119	119	119	119	119	119	119	119	119	119
127	127	127	127	127	127	127	127	127	127
138	138	138	138	138	138	138	138	138	138
150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
164	164	164	164	164	164	164	164	164	164
175	175	175	175	175	175	175	175	175	175

表號三第

材	方	船	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍	龍
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
材	材	材	材																	

ノ認可申請者ト爲ルコトヲ得ス但シ耕地整理組合設立ノ認可申請者ニ付テハ地方ノ狀況ニ依リ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ整理施行地區所在ノ市町村ニ事務所ヲ設クヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ之ヲ其ノ鄰接市町村ニ設クルコトヲ得事務所ニハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

共同施行者若ハ組合員タルヘキ者又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ其ノ氏名若ハ名稱、住所、整理施行地區及事務所ヲ整理施行地區ノ屬スル各市町村長ニ届出ツヘシ

第四條 耕地整理法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依ル通知又ハ公告ニハ立入ノ目的、場所及期日ヲ示スヘシ

前項ノ公告ハ立入ルヘキ土地ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ少ナクモ三日間之ヲ揭示スヘシ

第五條 整理施行地ノ地價ヲ計算スル場合ニ於テ地租ヲ課セサル土地及耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ假地價ヲ附スヘシ但シ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第六條 耕地整理事業カ府縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請書ニ其ノ團體ノ承認ヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ
前項ノ規定ハ設計書、規約又ハ整理施行地區變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 國有ニ屬スル森林原野、道路、堤塘、溝渠、溜池等又ハ府縣ノ公用若ハ公共ノ用ニ供スル土地ヲ整理施行地區ニ編入スル爲耕地整理法又ハ本則ノ規定ニ依リ認許ヲ申請スル場合ニ於テハ耕地整理施行、耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的
- 二 工事ノ計劃說明
- 三 工事施行ノ方法及順序
- 四 主要工事ノ仕様
- 五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
- 六 工事施行ニ依リテ得ヘキ利益
- 七 整理施行地及之ニ鄰接スル土地ノ現形圖
- 八 整理豫定圖
- 九 工事ノ著手及完了ノ豫定期期
- 十 工事ニ要スル費用及夫役現品ノ豫算

第九條 規約ニハ耕地整理法又ハ本則ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 事業ノ範圍
- 二 整理施行地區
- 三 耕地整理組合ニ在リテハ名稱
- 四 事務所ノ所在地
- 五 耕地整理組合ニ在リテハ組合長、組合副長及評議員ノ定數、選任、解任及任期ニ關スル規定、共同施行ニ依ル耕地整理ニシテ役員ヲ置クモノニ在リテハ其ノ名稱、定數、職務權限、選任、解任

及任期ニ關スル規定

- 六 會議ニ關スル規定
- 七 處務及會計ニ關スル規定
- 八 補償金評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 九 費用及夫役現品ノ分賦收入方法
- 十 耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於ケル土地使用ニ關スル規定
- 十一 耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分方法
- 十二 土地ノ價額評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 十三 數人共同シテ施行スル耕地整理ニ在リテハ設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ニ關スル規定
- 第十條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前第八條第七號、第八號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
 - 一 整理施行地ノ屬スル郡、市、町、村及土地各筆ノ字番號
 - 二 耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日
 - 三 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定
 - 四 耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ本則第五條ニ依リ定メタル假地價
 - 五 工事ノ著手及完了ノ豫定期
- 第十一條 工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第十二條 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ前二條ノ手續ヲ爲ス

ヘシ

- 第十三條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滞ナク換地説明書、整理確定圖及地價配當案ヲ作ルヘシ
- 前項ノ地價配當案ハ耕地整理組合ニ在リテハ耕地整理法第二十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會議ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ
- 第十四條 耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ換地説明書、整理確定圖及耕地整理組合ニ在リテハ總會又ハ總會議ノ議事録ヲ添附スヘシ
- 第十五條 耕地整理法第十五條第一號ノ規定ニ依リ地價ヲ修正又ハ設定シタル場合ニ於テ工事完了前事業ノ廢止又ハ耕地整理組合ノ解散ノ爲工事ノ利益ヲ受クルコト能ハサル土地ニ付テハ廢止又ハ解散ノ時ヨリ地價ノ修正又ハ設定ナカリシモノト看做ス整理施行地區ノ變更ニ依リ地區外ニ除斥セラレタル土地ニ付亦同シ
- 第十六條 耕地整理法第三十條第四項ノ告示アリタルトキハ整理施行者ハ地價配當案ニ耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附シテ所轄稅務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ
- 第十七條 耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル申告ハ地價ノ配賦ヲ受ケタル後遲滞ナク所轄稅務署長ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ共同施行者又ハ耕地整理組合ニ在リテハ協議一致ヲ證スル書面協議一致セサルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第十八條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニ付登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滞ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 第十九條 各筆毎ニ換地ヲ割當テサリシ土地ニシテ耕地整理法第三十條第四項ノ告示前登記ヲ爲シタルモノニ付テハ整理施行者ハ其ノ告示後遲滞ナク割當ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但

シ評議員ヲ置シ耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク前項ノ土地ニ付登記ヲ申請スヘシ

第二十條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業年度ハ一箇年トス

前項ノ事業年度ハ九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 共同施行者又ハ耕地整理組合ハ每事業年度前經費ノ收支豫算ヲ定ムヘシ但シ初年度ニ於テハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可後遲滞ナク之ヲ爲スヘシ

第二十二條 共同施行者又ハ耕地整理組合ハ每事業年度經過後遲滞ナク當該年度ノ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十三條 耕地整理法第三十五條ノ規定ニ依ル公告ハ整理施行地區ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ三日間送付スヘキ書類ノ要領ヲ揭示スヘシ

第二十四條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理ノ事業ヲ郡市町村又ハ水利組合ニ引繼グ場合ニ於テ其ノ引繼完了シタルトキハ共同施行者又ハ耕地整理組合長ハ遲滞ナク其旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十五條 耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレタルトキ又ハ耕地整理組合ノ清算終了シタルトキハ整理施行者又ハ組合長ハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ整理施行地區ノ屬スル市町村長ニ引渡スヘシ其ノ整理施行地區ニ以上ノ市町村ニ涉ルトキハ整理施行者又ハ組合長ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ書類及帳簿ヲ引渡スヘキ市町村長ヲ指定スヘシ

耕地整理法第五十三條第一項第五號ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十六條 市町村長前條第一項ノ規定ニ依リ書類及帳簿ヲ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ左ニ掲グルモノニ付テハ十年間、其ノ他ノモノニ付テハ五年間之ヲ保存スヘシ

- 一 耕地整理法又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可、認許又ハ同意ヲ證スル書面
- 二 設計書
- 三 規約
- 四 土地原簿
- 五 權利者名簿又ハ組合員名簿
- 六 議事録
- 七 換地説明書
- 八 整理確定圖
- 九 事業報告書
- 十 收支決算書

前項ノ規定ハ明治四十二年勅令第二百三十一號第三條ノ規定ニ依リ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者カ耕地整理ニ關スル書類及帳簿ヲ引繼グ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 本則中府縣、郡、市町村、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

第二章 一人施行及共同施行

第二十八條 耕地整理法第三條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スヘシ

一 一人ニテ耕地整理ヲ施行セムトスル者ニ在リテハ事業ノ範圍

二 第三十二條第一號、第二號及第三十二條第二號ノ事項

三 土地各筆ノ字番號、地目、面積、地價、等位及假地價ヲ附シタルモノニ在リテハ假地價

四 整理施行地區内ノ土地所有者ノ員數並各所有者ノ所有スル土地ノ地目別面積、地價及假地價ヲ附シタルモノニ在リテハ假地價

五 耕地整理法第四十三條ノ土地アルトキハ其ノ表示
 六 整理施行地區ヨリ特ニ除斥シタル土地アルトキハ其ノ事由
 整理施行地區内ニ耕地整理法第四十三條第一號乃至第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務
 官廳又ハ公共團體ノ認許アリタルコトヲ證スル書面同條第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其
 ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面ヲ前項ノ申請書ニ添附
 スヘシ

第二十九條 耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ付テハ國ハ之ヲ整理施行者ト看做サス

第三十條 共同施行者ハ耕地整理ノ施行ニ關シ書類又ハ通知ノ授受ノ爲代表者一人ヲ定メ耕地
 整理施行ノ認可申請ト同時ニ其ノ氏名、住所ヲ地方長官ニ届出テ且之ヲ公告スヘシ代表者又ハ
 其ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合亦同シ

第三十一條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ハ耕地整理施行ノ認可アリタル後遲滞ナ
 ク土地原簿及權利者名簿ヲ調製スヘシ

第三十二條 土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 整理施行地ノ總面積及總地價
 二 整理施行地ノ筆數、面積及地價ノ地目及等位別合計
 三 土地各筆ノ字番號及地目
 四 耕地整理法第四十三條第二號、第三號ノ土地、工作物アル土地又ハ所有權以外ノ登記シタル
 權利ノ目的タル土地アルトキハ其ノ表示

第三十三條 權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 土地所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及其ノ所有地ノ字番號、地目、面積、地價、等位及假地價ヲ附
 レタルモノニ在リテハ假地價

二 土地各筆ノ價額若ハ等位ヲ評定シ又ハ面積ヲ實測シタルトキハ其ノ價額、等位又ハ面積
 三 工作物所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及工作物ノ表示
 四 關係人又ハ整理施行地ニ存スル建物ニ付先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名若ハ
 名稱、住所及登記ノ要領

五 耕地整理法第二十五條第二項ノ訴訟當事者アルトキハ其ノ氏名若ハ名稱、住所及訴訟ノ要
 領

第三十四條 土地原簿又ハ權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ更
 正スヘシ

第三十五條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停
 止若ハ廢止ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シ之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面
 ヲ添附スヘシ
 事業ヲ廢止シ、債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更シ又ハ整理施行地區ヲ減少セムトスル場合ニ於
 テ借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 整理施行地區ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除斥セラルヘキ土地ノ
 所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ第二十八條ノ規定ハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除
 斥セラルヘキ土地ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲サムトスルトキハ認可申請
 書ニ其ノ事由ヲ記載シ協議一致ヲ證スル書面、規約、數人共同ノ施行ト爲ス爲定メタル必要ノ事
 項ヲ記載シタル書面及第二十八條第一項第四號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十七條 數人共同シテ施行スル耕地整理ニシテ整理施行地カ一人ノ所有ト爲リタルトキハ其
 ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十八條 第二十二條ノ規定ハ耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレ又ハ之ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章 耕地整理組合

第三十九條 耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ土地原簿及組合員名簿ヲ調製スヘシ

第四十條 土地原簿ニハ第三十二條ニ掲クル事項ノ外耕地整理法第四十三條第一號及第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示ヲ爲スヘシ

第四十一條 第三十三條ノ規定ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十二條 第三十四條ノ規定ハ耕地整理組合ノ土地原簿又ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス

第四十三條 耕地整理法第五十條ノ條件ヲ算定スル場合ニ於テハ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ハ之ヲ算入セス

第四十四條 耕地整理組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 第二十八條第一項第二號乃至第六號ノ事項

二 耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示

前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

一 組合設立ニ同意シタル土地所有者ノ總數及其ノ所有スル土地ノ總面積及總地價並其ノ同意ヲ證スル書面

二 組合ノ地區内ニ耕地整理法第四十三條第一號乃至第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許アリタルコトヲ證スル書面

三 組合ノ地區内ニ耕地整理法第四十三條第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者、關係人及其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面

四 組合ノ地區内ニ特別ノ價值又ハ用途ヲ有スル土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者及關係人ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得サルトキハ其ノ價值又ハ用途、土地所有者及關係人ノ氏名若ハ名稱並同意セサル事由及之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面

第四十五條 組合設立ノ認可アリタルトキハ申請者ハ遲滞ナク總會ヲ招集スヘシ

前項ノ總會ニ於テハ組合長、組合副長、評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員ノ選舉並組合設立ニ關スル費用其ノ他必要ナル事項ニ付表決ヲ爲スヘシ

第四十六條 組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ノ認可申請書ニハ總會、組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

前項選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ特別ノ事情ニ依リ組合員ニ非サル者ヲ選任シタル場合ニ於テハ尙其ノ事情ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條 組合長ノ就任アリタルトキハ組合設立ノ認可申請者ハ遲滞ナク組合ニ關スル一切ノ事務及書類、帳簿ヲ之ニ引繼クヘシ

第四十八條 耕地整理法第四十七條ノ規定ニ依ル代表者アルトキハ組合長ハ其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ組合員名簿ニ記載スヘシ

第四十九條 組合會ハ三百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス組合會ヲ設グムトスルトキハ規約中ニ職員ノ定數並任期及選舉ニ關スル規定ヲ設クヘシ

第五十條 組合會職員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第五十一條 組合會ニ於テハ第四十五條第二項ノ表決ヲ爲シ又ハ耕地整理法第二十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲スニトヲ得ス

第五十二條 組合會議員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

第五十三條 組合會ニ於テ耕地整理法第五十四條第一項又ハ第六十一條第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ組合會議員總數ノ過半數ノ同意アルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 組合會議員ハ組合會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第五十五條 總會又ハ組合會ハ少ナクモ每事業年度一回之ヲ開クヘシ

第五十六條 耕地整理法第五十五條第一項ノ總會議ニ於テハ編入區域ノ土地所有者ハ其ノ編入區域ノ土地所有者ニ非サル者ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得ス

第五十七條 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合設立ノ認可申請者又ハ組合長ニ差出スヘシ

第五十八條 評議員ハ三人以上トス

評議員ハ組合長又ハ組合副長ト相兼ヌルコトヲ得ス

第五十九條 評議員會ハ組合長之ヲ招集ス

評議員總數ノ五分一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合長カ前項招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル評議員ハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得

評議員會ノ議事ハ評議員ノ半數以上出席シ其ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

第六十條 組合設立ノ認可申請者、組合長、組合副長、臨時代理者、評議員及組合會議員ハ規約ニ別段ノ規定アルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第六十一條 總會、總會議、組合會及評議員會ノ議長ハ組合長之ニ當ル但シ第四十五條ノ總會ニ在リテハ認可申請者ノ一人、耕地整理法第五十五條ノ總會議ニ在リテハ編入區域ノ土地所有者ノ一人之ニ當ル

評議員會ノ議事カ業務又ハ財産ノ狀況ノ監査ニ關スルトキハ評議員ノ一人其ノ議長ト爲ル第五十九條第三項ニ依ル評議員會ニ付亦同シ

第六十二條 總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議長ハ會議ノ議事録ヲ作リテ左ノ事項ヲ記載シ之ニ議長及出席シタル組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員二人以上記名捺印スヘシ

一 開會ノ日時及場所

二 組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員ノ現在總數及出席シタル者ノ氏名若ハ名稱

三 議事ノ要領

四 表決シタル事項

五 贊否ノ數

耕地整理法第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要スル表決ヲ爲ス總會又ハ總會議ノ議事録ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 組合ノ地區若ハ編入區域内ノ土地ノ所有者總數、總面積及總地價

二 贊成者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ總面積及總地價

總會又ハ總會議ノ表決ニ付規約ノ規定ニ依リ特別ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ前二項ニ依ル記載ニシテ其ノ條件ヲ具備シタルコトヲ明カニスルコト能ハサルトキハ之ヲ示スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第六十三條 組合長ハ耕地整理法第五十五條ノ規定ニ依ル總會議ヲ開カムトスルトキハ招集ノ通知ヲ發スル日ヨリ少ナクモ十日日前三日間編入區域ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ編入セムトスル區域及總會議ノ日時、場所及目的ヲ揭示スヘシ

第六十四條 耕地整理法第八十七條ノ規定ニ依ル申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ願末書ヲ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ
地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ協議ノ相手方ニ交付シ且交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘキ旨ヲ附記スヘシ
協議ノ相手方前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定スルコトヲ得申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第六十五條 耕地整理法第五十四條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ設計書若ハ規約ノ變更組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ノ事由及之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シ總會總會議、組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ原本ヲ添附スヘシ

組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更セムトスル場合ニ於テ組合債アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面、組合ヲ解散セムトスル場合ニ於テハ尙事業報告書及收支決算書ヲ添附スヘシ

第四十四條ノ規定ハ第二項第一號ヲ除クノ外地區變更ノ認可申請ノ場合ニ於テ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地ニ付之ヲ準用ス

編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ總會議ニ代ヘタル場合ニ於テハ同意シタル土地所有者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ面積、地價ヲ記載シタル書面並其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第六十六條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第一號、第二號、第七號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ組合長又ハ最終ニ組合員アリシ者ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ添附シテ其ノ旨ヲ遲滯ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第六十七條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第四號乃至第六號ノ事由ニ依リ解散シタルトキ

ハ遲滯ナク組合長ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ
第六十八條 組合カ合併シタルトキハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十九條 清算終了シタルトキハ組合長ハ遲滯ナク清算ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ總組合員ニ報告シ且之ヲ添附シテ清算終了ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

附則
第七十條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年農商務省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

第七十一條 耕地整理法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タルモノニ付テハ本則第四條、第十條、第十一條、第十九條乃至第二十二條及第二十七條ノ規定ヲ準用スルノ外舊則ノ規定ヲ適用ス但シ舊則第三十一條中農商務大臣トアルハ地方長官トス

第七十二條 耕地整理法施行前耕地整理ノ發起ノ認可ヲ得タル者ヲ耕地整理組合ト爲サムトスルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總會ヲ召集シテ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ並組合長、副會長、評議員ヲ置グモノニ在リテハ評議員ヲ選舉シ總會ノ議事録ヲ添附シテ明治四十四年十月十五日迄ニ耕地整理組合ト爲スノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

前項ノ總會ニハ耕地整理法及本則ノ規定ヲ適用ス
耕地整理法第七十三條第三項ノ認可申請ハ第一項ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ本則第四十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七十三條 前條ノ場合ニ於テ三百人以上ノ參加土地所有者アルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總

代選舉規程ヲ作りテ地方長官ノ認可ヲ得タル後其ノ選舉規程ニ依リ選舉シタル總代ヲ以テ組織スル總代會ヲ招集シ總會ニ代フルコトヲ得

前項ノ總代會ニハ耕地整理法第六十六條第六十八條第一項並本則第五十二條第五十三條及第六十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七十四條 前二條ノ總會又ハ總代會ニ在リテハ第七十二條ニ記載シタル事項ノ外必要ナル事項ヲ表決スルコトヲ得

第七十五條 耕地整理法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ニシテ耕地整理組合設立ノ申請ト爲サムトスルトキハ發起人ハ參加土地所有者ノ總會議ヲ招集シ本則第八條第五號第十號及第九條第一號乃至第五號第九號第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ總會議ノ議事録ヲ添附シ明治四十三年四月十五日迄ニ耕地整理組合設立ノ申請ト爲ス旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第七十二條第二項及第七十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 第七十二條第一項ノ認可申請又ハ前條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ耕地整理法第四十三條又ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要スルモノニ付テハ本則第七條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

〔參照〕

明治三十三年六月十日 農商務省令第十四號ハ耕地整理施行ノ認可アリタルトキ申告事項ノ件ナリ

○農商務省令第四十號

明治三十八年農商務省令第二十三號ヲ左ノ通改正シ明治四十二年十月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月十二日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條 耕地整理ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ整理地區ノ屬スル地ノ地方長官ニ委任ス

一 耕地整理法第二十六條ノ規定ニ依ル整理施行ノ認可ニ關スル件

二 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル設計書若ハ規約ノ變更又ハ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ認可ニ關スル件

第二條 耕地整理法第五十一條第一項ニ規定シタル書類ハ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 地方長官第一條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク農商務大臣ニ報告スヘシ

○農商務省令第四十一號

鯨漁取締規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月二十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

鯨漁取締規則

第一條 汽船又ハ帆船ヲ使用シテ鯨漁ヲ爲サムトスル者ハ一隻毎ニ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 鯨漁ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ操業區域ヲ記載シ船舶國籍證書寫及船舶検査證書寫ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船舶カ製造前若ハ製造中ナルトキハ第一號書式ノ船舶件名書ヲ添附スヘシ

第三條 鯨漁ノ根據地ヲ設ケムトスル者ハ一根據地毎ニ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

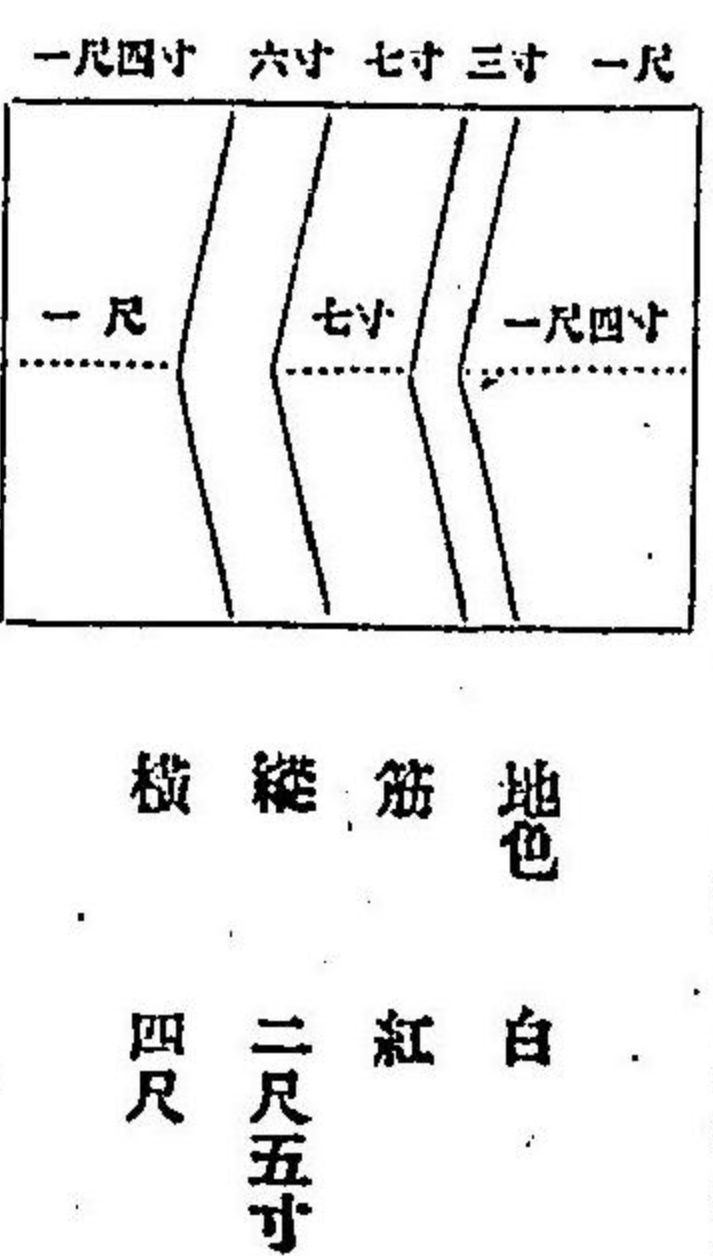
第四條 根據地設置ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其願書ニ設計圖設計說明書設置地及其附近ノ圖面ヲ添附シ根據地所轄地方長官ヲ經由シテ差出スヘシ

第五條 根據地ノ設備ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ根據地所轄地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 農商務大臣鯨漁ヲ許可シタルトキハ第二號書式ノ許可證ヲ交付ス

許可ノ期間ハ五年トス

許可證ハ之ヲ船舶内ニ保持スヘシ
 許可證ヲ亡失毀損シ又ハ許可證ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ許可證
 ノ再交付又ハ訂正ノ願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
 第七條 鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ハ左記雛形ノ旗章ヲ船舶ノ見易キ場所ニ掲揚スヘシ



第八條 鯨漁又ハ根據地設置ノ許可ハ正當ノ事由ナクシテ引續キ二年間許可ヲ受ケタル船舶ヲ使
 用シテ鯨漁ヲ爲サヌ又ハ許可ヲ受ケタル根據地ニ於テ業務ヲ爲ササルトキハ其效力ヲ失フモノ
 トス

第二條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ船舶國籍證書ノ交付アリタル日ヨリ之ヲ起算ス

第九條 農商務大臣必要アリト認ムルトキハ鯨ノ種類、鯨漁ノ時期、區域又ハ船數ヲ定メ鯨漁ヲ禁
 止若ハ制限シ又ハ其船舶ニ標章ヲ附セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ之ヲ告示スヘシ

第十條 農商務大臣ハ鯨ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキハ鯨漁ノ許可ヲ制限シ又ハ
 之ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 農商務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ根據地設備ノ制限若ハ變更ヲ命シ又ハ設
 置ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

根據地設置ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタルトキ亦前項
 ニ同シ

第十二條 鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ許可ヲ取消サレ、許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ業務ヲ廢止シ
 タルトキハ一箇月以内ニ許可證ヲ返納スヘシ

鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ解散シタルトキハ其相續人又ハ清算人ヨリ前項ノ手續ヲ爲
 スヘシ

第十三條 鯨漁ノ許可ヲ受ケタル者ハ各事業年度終了ノ日ヨリ一箇月以内ニ事業報告書ヲ農商務
 大臣ニ差出スヘシ

農商務大臣必要アリト認ムルトキハ隨時報告書其他ノ書類ノ提出ヲ命シ又ハ鯨ニ關スル調査ヲ
 命スルコトアルヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ情狀ニ因リ漁具及漁獲物ヲ沒
 收ス

一 許可ヲ受ケスシテ鯨漁ヲ爲シ又ハ根據地ヲ設置シタルトキ

二 第九條ニ依リ告示シタル鯨ノ種類、鯨漁ノ時期及區域ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルトキ

三 鯨漁又ハ根據地設置ノ許可ノ條件若ハ制限ニ違背シタルトキ

第十五條 第六條第三項、第七條、第十二條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處
 ス

第九條ニ依リ告示シタル鯨漁船舶ニ附スヘキ標章ヲ附セサルトキ又ハ第十三條第二項ニ依ル命
 令ニ從ハサルトキ亦前項ニ同シ

附則

第十六條 本則ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 本則ニ依リ許可ヲ受クヘキ船舶ヲ使用シテ本則施行前ヨリ鯨漁ニ従事シ又ハ根據地ヲ有スル者ハ明治四十三年一月三十一日迄本則ノ規定ニ拘ハラズ引續キ鯨漁ヲ爲シ又ハ根據地ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ漁業者カ前項ノ期日迄ニ鯨漁ノ許可又ハ根據地設置ノ許可ヲ出願シタルトキハ其許可ノ處分ヲ受クル迄ノ間亦前項ニ同シ

(第一號書式)

船舶件名書

- 一 船種
- 二 外板及船骨材料
- 三 許量噸數
- 四 機關ノ種類及數
- 五 許量馬力
- 六 起工年月日又ハ起工スヘキ年月日
- 七 竣工スヘキ年月日
- 八 造船所ノ名稱及所在

(第二號書式)

鯨漁許可證	
番號	住所
氏名又ハ名稱	船種及船名

操業區域	許可期間	條件	
		根據地	又ハ鯨漁時期
明治年月日	農商務省	制限	
		其他	其他

○農商務省令第四十二號

特許法施行細則左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

特許法施行細則

第一章 總則

第一條 特許局ニ對シテ爲ス特許ニ關スル出願 請求其ノ他ノ手續ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ本則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

書面ハ一件毎ニ一通ヲ作り差出人ノ住所 住所ヲ有セサル者ニ在リテハ居所又ハ營業所及差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ但シ第三十五條ニ掲クル請求ニ在リテハ一件毎ニ一通ヲ作ルコトヲ要セス

本則ニ書式ノ定アル書面ハ其ノ書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二條 書面ハ日本語ヲ以テ明瞭ニ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書其ノ他添附ヲ要スル書類ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其ノ譯文ヲ添附スヘシ

第三條 書面ヲ以テ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ關係人又ハ相手方アルトキハ其ノ圖數ニ應スル副本ヲ添附スヘシ

第四條 特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ承繼人タルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ差出スヘシ但シ其ノ事由ヲ附記シ被承繼人ト違署スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 代理人カ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ其ノ代理權ヲ證明スルニ足ル書面ヲ差出スヘシ但シ法人ノ代表者其ノ法人ノ名義ヲ以テスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 外國人ニシテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ストキハ國籍證明書、萬國工業所有權保護同盟條約國若ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ニ在リテハ尙帝國若ハ萬國工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的ノ營業所ヲ有スルコトヲ證明書ヲ差出スヘシ外國法人ニ在リテハ法人タルコトヲ證明スヘシ

第七條 同時ニ數箇ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ前條ニ依リ差出スヘキ證明書ハ一通ヲ差出シ之ヲ添附セサル書面ニハ其ノ旨ヲ附記シテ證明書ノ差出ニ代ユルコトヲ得

第八條 前二條ノ場合ニ於テ他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタル者ハ其ノ謄本ヲ添附シテ證明書ノ差出ニ代ユルコトヲ得

特許局長必要ナシト認ムルトキハ前二條ノ場合ニ於テ證明書ノ差出ヲ免除スルコトヲ得
第九條 特許權ニ關シ又ハ特許ニ關スル出願後其ノ出願ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ストキハ之ニ其ノ特許番號若ハ願書番號及發明ノ名稱ヲ表示シ審判又ハ抗告審判ノ請求後其ノ事件ニ關

シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ストキハ之ニ審判番號又ハ抗告審判番號ヲ表示スヘシ

第十條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニシテ特許法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シ若ハ成規ノ手数料ヲ納メス又ハ差出シタル書類、雛形若ハ見本カ不明瞭若ハ不完備ナル場合ニ於テハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ訂正、補充又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルモノハ此ノ限ニ在ラス

書類ノ書損又ハ之ニ類スル著シキ誤謬アルトキハ特許局長又ハ審判長ハ適宜之ヲ訂正又ハ補充スルコトヲ得

特許局ニ差出シタル書類、雛形又ハ見本ニ付差出人ハ之ヲ訂正、補充又ハ改造スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルモノ又ハ審査、再審査、審判若ハ抗告審判ノ繫屬中ニ非サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ特許願ヲ追加特許願ニ、追加特許願ヲ特許願ニ變更シ又ハ差出人カ明細書ニ記載シタル事項ノ範圍内ニ於テ特許請求ノ範圍ヲ増減、變更シ又ハ審査、再審査、審判若ハ抗告審判ノ繫屬中書損又ハ之ニ類スル著シキ誤謬ヲ訂正若ハ補充スルハ其ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

第十二條 特許局長又ハ審判長ハ職權又ハ當事者ノ請求ニ因リ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若ハ期間ヲ變更スルコトヲ得

相手方又ハ關係人アル事件ノ期日若ハ期間ノ變更ノ請求ハ其ノ合意又ハ顯著ナル理由アル場合ニ限り之ヲ許可ス

第十三條 特許法第十五條第一項ノ規定ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ同時ニ其ノ旨ヲ代理人ニ通知スヘシ

第十四條 特許法第十三條第二項又ハ第十七條第二項ノ規定ニ依ル屆書ニハ其ノ事實ヲ證明スル

ニ足ル書面ヲ添付スヘシ

第十五條 他人ノ爲特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者代理權ヲ有セサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ追完ヲ命シ假ニ其ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ特許局長又ハ審判長ノ指定シタル期間内ニ代理權ノ欠缺ヲ追完セサルトキハ其ノ手續ハ之ヲ却下スヘシ

第十六條 特許法第二十條第二項ノ規定ニ依リ請求ヲ爲ス者ハ請求書ニ障礙ノ事實、其ノ發生及消除ノ年月日ヲ記載シ且之ヲ説明スヘシ

第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ其ノ代理人若ハ代表者カ其ノ氏名名稱、住所又ハ印章ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ住所ヲ有セサル者其ノ居所又ハ營業所ヲ變更シタルトキ又ハ特許權者カ印章ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十八條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者又ハ特許權者カ死亡シタルトキハ其ノ承繼人又ハ親族ヨリ遲滞ナク其ノ旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ

第十九條 審査、再審査、審判若ハ抗告審判ニ關シ必要アルトキハ出願人當事者又ハ關係人ニ對シ特許局長又ハ審判長ハ離形若ハ見本ノ差出ヲ命シ又ハ其ノ負擔ニ於テ試験ヲ爲サシムルコトヲ得

製品ノ原料カ發明ノ要部ヲ爲ストキハ離形又ハ見本ハ其ノ原料ヲ用井テ之ヲ作ルヘシ物質ノ發明ニ付見本ヲ差出ストキハ試験用ニ供スルニ足ル分量及其ノ成分ヲ提出スヘシ

第二十條 離形又ハ見本カ破損、變化、紛失若ハ腐敗シ易キモノナルトキ又ハ危險ノ虞アルモノナルトキハ差出人ハ相當ノ手當ヲ爲シテ之ヲ差出スヘシ

離形又ハ見本カ有毒ナルモノナルトキ又ハ爆發若ハ發火シ易キモノナルトキハ物品、容器又ハ其ノ包装上ニ其ノ旨ヲ表示シテ之ヲ差出スヘシ

第二十一條 特許局ニ差出シタル離形、見本又ハ證據物件ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ差出ノ際豫メ其ノ旨ヲ申出ツヘシ

前項ノ申出ヲ爲シタル者ハ事件確定ノ日ヨリ六十日以内ニ其ノ受取ノ手續ヲ爲スヘシ但シ離形又ハ見本ニシテ特許局長カ必要ト認メタルモノハ之ヲ還付セス

差出人カ第一項ノ申出ヲ爲ササリシトキ又ハ前項ノ手續ヲ怠リタルトキハ特許局長ニ於テ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第二十二條 郵便ニ依リテ書類其ノ他ノ物件ヲ差出シタルトキハ消印記號ニ記載シタル日時ニ於テ差出シタルモノト看做ス

郵便物受領證ニ依リテ消印記號ニ記載シタル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ消印記號ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受領證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第二十三條 前條ノ場合ノ外書類其ノ他ノ物件ノ差出ノ效力ハ特許局ニ於テ之ヲ受領シタル日ニ於テ生ス

第二十四條 特許局ニ於テ爲スヘキ書類ノ送達ハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ規定ニ從ヒ郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス

一 審判、抗告審判又ハ權利確認ノ査定ニ關スル書類ノ送達ハ民事訴訟法第三百二十八條乃至第四百四十條、第四百四十二條、第四百四十四條乃至第四百四十九條、第五百一十一條第一項、第二項、第五百一十四條及第五百十五條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ使丁又ハ郵便配達夫ヲ以テ送達吏ニ準視ス

二 前號ノ書類ヲ除クノ外査定書其ノ他期日若ハ期間ノ定アル書類又ハ特許法第四十四條ニ依ル處分書ノ郵便ニ依ル送達ハ逕信省令ヲ以テ定ムル特別ノ手續ニ依リ之ヲ爲スヘシ

特許局ノ使丁ヲ以テ送達ヲ爲ストキハ使丁ハ其ノ書類ノ封皮ニ送達ノ年月日時ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ書類ノ送達ヲ受ケタル者ハ其ノ受領ノ年月日時ヲ記載シタル受領證ヲ使丁ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ受取人受取ヲ拒ミ若ハ受領證ノ交付ヲ拒ミタルトキ又ハ受領證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ使丁ハ其ノ旨ヲ記載シタル調書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

三 其ノ他ノ書類ハ普通郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百九條ノ規定ハ前項第二號及第三號ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ因リテ書類ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ官報掲載ノ日ヨリ起算シテ二十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二十六條 特許法第十三條第一項ノ規定ニ依リ代理人ノ選任ノ登録ヲ受ケサル者ニ對スル送達ハ郵便ニ付シタル日ヲ以テ完了シタルモノト看做ス

第二十七條 特許ニ關シ出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル者カ死亡シタルトキハ承繼人カ其ノ特許局ニ繫ル手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス審判若ハ抗告審判ノ被請求人又ハ權利確認ノ査定ニ關スル關係人カ死亡シタルトキ亦同シ

第二十八條 特許ニ關スル出願、再審査、審判若ハ抗告審判ノ當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ手續カ破産財團ニ關スルトキハ破産ニ付テノ規定ニ從ヒ手續ヲ受繼キ又ハ破産手續ヲ解止スルマテ之ヲ中斷ス

第二十九條 特許ニ關スル出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル者、審判若ハ抗告

審判ノ被請求人若ハ權利確認ノ査定ニ關スル關係人カ訴訟能力ヲ失ヒ、其ノ法定代理人カ死亡シ又ハ其ノ代理權カ出願人、請求人、被請求人若ハ關係人ノ訴訟能力ヲ得ル前ニ消滅シタルトキハ特許局ニ繫ル手續ハ法定代理人又ハ新法定代理人カ其ノ任設ヲ特許局ニ届出テ又ハ相手方カ其ノ手續ヲ續行セムトスルコトヲ特許局ニ届出ツルマテ之ヲ中斷ス

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ之ヲ相手方ニ通知スヘシ

第三十條 委任ニ因ル代理人ニ依リ特許ニ關スル出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ代理權カ消滅シタルトキハ其ノ届出ニ因リ本人若ハ其ノ代理人カ特許局ニ繫ル手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス但シ委任ノ解除ニ因ル代理權消滅ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

審判若ハ抗告審判ノ被請求人又ハ權利確認ノ査定ニ關スル關係人ノ委任ニ因ル代理人ノ代理權カ消滅シタルトキ亦前項ニ同シ

第三十一條 特許ニ關スル出願又ハ再審査、審判若ハ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ出願人、請求人、被請求人又ハ權利確認ノ査定ニ關スル關係人カ戰時兵役ニ服スルトキ又ハ戰爭其ノ他ノ障礙ニ因リ特許局ト交通ノ絶エタル地ニ在ルトキハ特許局長又ハ審判長ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ障礙ノ止ムマテ特許局ニ繫ル手續ヲ中止スルコトヲ得

第三十二條 特許局ニ繫ル手續ノ中斷及中止ハ期間ノ進行ヲ止メ及中斷又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス

中斷及中止ノ間其ノ事件ニ關スル手續ヲ爲スモ、出願人、當事者及關係人ニ對シ其ノ效力ヲ有セサルモノトス

事件カ査定又ハ審決ヲ爲スニ熟シタル時期以後ニ生シタル中斷ハ其ノ事件ニ付査定又ハ審決ヲ爲スヲ妨グルコトナシ

第三十三條 中斷又ハ中止シタル特許局ニ繋ル手續ノ受繼ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ特許局ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 相手方アル場合ニ於テハ特許局長又ハ審判長ハ其ノ書面ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ
中斷又ハ中止シタル特許局ニ繋ル手續ニ付受繼ヲ怠リタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ職權又ハ申立ニ因リ相當ノ期間ヲ定メ受繼ヲ命スヘシ

第三十五條 前項ノ期間内ニ受繼ヲ爲ササルトキハ特許局長又ハ審判長ハ受繼キタルモノト看做スコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ當事者ニ通知スヘシ

第三十六條 書類ノ謄本若ハ謄寫圖面ノ調製書類、雛形又ハ見本閱覽ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 書類ノ謄本ニハ其ノ末尾ニ原本ト相違ナキコトヲ認證スル旨ヲ記載シ特許局官吏之ニ署名捺印スヘシ

第三十八條 圖面ノ調製ヲ請求セムトスル者ハ請求ノ際雛形、見本又ハ下圖ヲ特許局ニ差出スヘシ但シ特許局ニ存スル雛形、見本又ハ圖面ニ依リ調製スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 特許局ニ帳簿ヲ備ヘ特許證ノ再下付、特許證ノ複本又ハ原簿ノ謄本下付ノ年月日、事由及請求人ノ氏名ヲ記載スヘシ第八十七條第二項ノ規定ニ依ル特許證ノ下付ニ付亦同シ

第四十條 特許法第四十四條ノ規定ニ依ル特許權ノ制限又ハ特許ノ取消ハ主務官廳ノ請求アリタル場合ニ於テ特許局長之ヲ爲スヘシ

第四十一條 前項ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ特許局長ハ特許權者及其ノ特許權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ付登録シタル權利ヲ有スル者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第四十二條 特許法第十一條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ特許ヲ受クルノ權利若ハ特許權ヲ收用シ又ハ特許發明ヲ實施セムトスルトキハ主務官廳ハ特許出願者、特許權者及其ノ特許權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ付登録シタル權利ヲ有スル者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二章 出願

第四十二條 特許ヲ受ケムトスル者ハ一發明毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ願書ニハ明細書及必要ノ圖面各二通ヲ添付スヘシ

第四十三條 明細書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願人署名捺印スヘシ

一 發明ノ名稱

二 發明ノ性質及目的ノ要領

三 圖面ノ略解

四 發明ノ詳細ナル説明

五 特許請求ノ範圍

他ノ發明ノ改良若ハ擴張ニ係ル發明又ハ他ノ特許發明若ハ登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル發明ノ明細書ニ在リテハ其ノ發明ト他ノ發明又ハ實用新案トノ關係ヲ前項第四號ノ事項中ニ明確ニ記載シ他ノ發明又ハ實用新案カ特許又ハ登録ニ係ルモノナルトキハ其ノ特許番號又ハ登録番號、出願中ニ係ルモノナルトキハ其ノ願書番號又ハ符號ヲ併セテ記載スヘシ

第四十四條 圖面ニハ發明ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

第四十五條 特許法第三條第一項ノ規定ニ依ル權利者カ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ權利ヲ證

明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第四十六條 特許權ノ改訂ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ改訂明細書及必要ノ圖面各二通並特許證ヲ添附スヘシ

前項ノ出願ニシテ特許法第四十三條ノ規定ニ依リ第三者ノ承諾ヲ要スヘキ場合ニ於テハ其ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第四十七條 特許權ノ分割ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ其ノ分割シタル各發明ニ對スル明細書及必要ノ圖面各二通並特許證ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ追加特許權ノ附随スルトキハ願書ニ其ノ追加特許權ノ特許番號及其ノ附随スヘキ分割シタル特許權ノ符號ヲ記載スヘシ

第四十八條 數人共同シテ特許ヲ出願シ又ハ特許法第十條第二項ノ規定ニ依リ名義變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ出願人又ハ届出人ノ權利ニ付持分若ハ分割ノ定アルトキ又ハ特許ヲ受クルノ權利カ組合員ノ共有ニ屬スルトキハ願書又ハ届書ニ其ノ旨ヲ記載シ其ノ事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第四十九條 特許ヲ出願スル者其ノ出願ニ付條約ニ依ル優先權ヲ主張セムトスルトキハ最初ニ發明保護ノ條約國ニ特許ヲ出願シタル年月日及發明ヲ證スルニ足ル明細書及圖面ノ謄本ニシテ其ノ政府ノ認證シタルモノ又ハ其ノ政府ノ發行シタル公報若ハ特許證ヲ差出スヘシ

第五十條 特許法第八條第一項ノ規定ニ依リ出願ヲ爲サムトスル者ハ博覽會又ハ共進會ノ開會前三月以内ニ其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届書ニハ其ノ發明ニ關スル説明書及必要ノ圖面ヲ添附スヘシ

第五十一條 特許法第八條第一項ノ規定ニ依ル特許願書ニハ博覽會又ハ共進會ニ出品シタルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品シタル發明ニ關スル特許願書ニハ前項ノ書面ノ外其ノ開會ノ日ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第五十二條 特許願書又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其ノ番號、發明ノ名稱、出願人及代理人ノ氏名並願書差出ノ年月日ヲ記載シ其ノ番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第五十三條 特許法第九條第一項但書又ハ第十條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスルトキハ特許局長ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ期間内ニ協議ニ依リ權利者ヲ定メ之ヲ届出ツヘキ旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

前項ノ期間内ニ届出ナキトキハ協議調ハサルモノト看做ス

第五十四條 特許法第七條ノ規定ニ依リ特許出願ヲ分割セムトスル者ハ其ノ分割部分ニ對シ新ナル出願ヲ爲シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第三章 審査及再審査

第五十五條 特許局長ニ於テ特許出願ニ係ル發明ニシテ軍事上秘密ヲ要スルモノヲ除クノ外特許法第十一條第一項ノ規定ニ該當スト認ムルトキハ之ヲ主務官廳ニ通知スヘシ

第五十六條 特許法第十一條第一項ノ規定ニ依ル處分ハ主務官廳ノ請求ニ依リ之ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ヲ爲ストキハ特許スヘシトノ査定ト共ニ其ノ處分書ヲ出願人ニ送達スヘシ

第五十七條 特許法第六十二條第二項ノ規定ニ依ル査定ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

- 一 願書番號
- 二 發明ノ名稱
- 三 出願人及代理人ノ氏名

四 査定ノ主文及理由
五 査定ノ年月日

追加特許權ノ附隨スヘキ場合ニ於テ特許權ノ分割ヲ許可スヘシトノ査定ヲ爲ストキハ前項ノ各號ニ掲ケタル事項ノ外其ノ附隨スヘキ分割シタル特許權ヲ表示スヘシ

第五十八條 特許法第六十三條ノ規定ニ依ル査定ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 抵觸スヘキ發明ノ願書番號又ハ特許番號

二 抵觸スヘキ發明ノ名稱

三 抵觸スヘキ發明ノ出願人又ハ特許證主ノ氏名住所居所又ハ營業所

前項ノ査定ヲ送達スルトキハ特許局長ハ之ニ抵觸番號ヲ附スヘシ

第五十九條 特許法第六十四條ノ規定ニ依ル査定ニハ前條第一項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 抵觸番號

二 關係人ノ申立ノ要領

第六十條 特許法第六十二條ノ規定ニ依ル査定ニ對スル再審査ノ査定ニハ第五十七條第一號第二號、第四號及第五號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一 再審査請求人及代理人ノ氏名

二 不服理由ノ要領

第六十一條 發明抵觸ノ査定ニ對スル再審査ノ査定ニハ第五十八條第一項及前條ニ掲ケタル事項並抵觸番號ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

第六十二條 特許法第六十四條第二項ニ依リ特許局ニ差出スヘキ始末書ニハ發明ノ完成ニ至ルマ

テノ願末ヲ詳細ニ記載スヘシ

第六十三條 發明抵觸ノ査定ヲ送達シタル後其ノ事件ニ關シ差出スヘキ書面ニハ抵觸番號ヲ表示スヘシ

第六十四條 始末書、答辯書其ノ他權利確認ノ査定ニ關シテ差出ス書面ニハ其ノ事實ノ證據方法ヲ記載シ證據物件アルトキハ之ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ證據物件カ書面ナルトキハ其ノ謄本其ノ他ノ物件ナルトキハ其ノ圖面、雛形

若ハ見本ヲ特許局及關係人ノ數ニ應シ證據物件ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第十九條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 特許局ニ於テ特許法第二十三條ノ規定ニ依リ權利確認ノ査定ニ關スル手續ヲ承繼人ニ對シテ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第六十六條 發明抵觸ノ原因カ消滅シタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第六十七條 査定アリタルトキハ特許局長ハ其ノ査定ノ謄本ヲ出願人又ハ請求人及關係人ニ送達スヘシ

第四章 審判及抗告審判

第六十八條 審判又ハ抗告審判ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 請求人及被請求人ノ氏名住所居所又ハ營業所、審査官カ請求人又ハ被請求人ナルトキハ其ノ官氏名

二 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示

三 一定ノ申立及理由

第六十九條 特許法第三十八條ノ規定ニ依ル審判ノ請求書ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ補償金額ノ計算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

- 一 使用ヲ要スル特許發明ノ名稱及特許番號
 - 二 使用セラルヘキ特許發明又ハ實用新案ノ名稱及特許番號若ハ登録番號並其ノ登録ノ年月日
- 第七十條 答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 審判番號又ハ抗告審判番號
 - 二 請求人及被請求人ノ氏名、審査官カ請求人又ハ被請求人ナルトキハ其ノ官氏名
 - 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
 - 四 答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由
- 第七十一條 審判又ハ抗告審判ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ帳簿ニ其ノ番號審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示、當事者及代理人ノ氏名並請求書差出ノ年月日ヲ記載シ其ノ番號ヲ當事者ニ通知スヘシ
- 第七十二條 數人ノ所有ニ係ル特許權ニ付特許權者ニ對シ審判又ハ抗告審判ヲ請求セムトスルトキハ其ノ特許權者ノ全員ヲ以テ被請求人ト爲スヘシ
- 第七十三條 第六十四條ノ規定ハ審判及抗告審判ニ之ヲ準用ス
- 第七十四條 參加請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 審判番號又ハ抗告審判番號
 - 二 當事者
 - 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
 - 四 參加人及其ノ代理人ノ氏名、住所又ハ營業所
 - 五 利害關係
 - 六 參加ノ申立
- 第七十五條 參加ニ付異議ノ申立アリタルトキハ當事者及參加請求人ヲ審訊シタル後參加ノ許否

- ヲ決定スヘシ
- 第七十六條 特許局ニ於テ特許法第二十三條ノ規定ニ依リ審判又ハ抗告審判ニ關スル手續ヲ承繼人ニ對シテ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ當事者及關係人ニ通知スヘシ
- 第七十七條 口頭審理ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知スヘシ
- 第七十八條 口頭審理ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但シ日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用ニルコトヲ得
- 第七十九條 口頭審理ニ於テハ圖書ヲ作り審判長及之ヲ作リタル官吏署名捺印スヘシ
- 第八十條 特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル審判又ハ抗告審判ニ付其ノ審理若ハ審決ヲ併合シ又ハ之ヲ分離スルコトヲ得
- 第八十一條 審判又ハ抗告審判ノ請求人カ其ノ請求ヲ取下ケタルトキハ特許局長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ
- 第八十二條 審決又ハ決定アリタルトキハ特許局長ハ其ノ審決又ハ決定ノ原本ヲ當事者ニ送達スヘシ
- 第八十三條 審決ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ
- 一 審判番號又ハ抗告審判番號
 - 二 當事者及代理人ノ氏名、住所又ハ營業所
 - 三 審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示
 - 四 當事者ノ申立ノ要領
 - 五 審決ノ主文及理由
 - 六 審決ノ年月日
- 第八十四條 大審院ニ於テ審決ヲ破毀シ其ノ事件ヲ特許局ニ差戻シタル場合ニ於テハ抗告審判ノ

規定ニ依リ更ニ審判ヲ爲シ再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ單ニ其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決アリタルトキハ特許局長ハ審査官ヲシテ更ニ査定ヲ爲サシムヘシ
第八十五條 審判、抗告審判又ハ出訴ノ費用額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ費用計算書其ノ他必要ノ書類ヲ添附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

第五章 特許證、特許標記及特許料

第八十六條 特許證ハ第七號乃至第十三號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ
特許證ニハ明細書及必要ノ圖面ヲ添附スヘシ但シ祕密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 特許證ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ヲ差出スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ證明シ別ニ定ムル手数料ヲ納付シテ特許證ノ差出ノ免除ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ新ニ特許證ヲ下付スヘシ

第八十八條 特許證カ亡失又ハ毀損シタルトキハ特許證主又ハ其ノ承繼人ハ其ノ事由ヲ疏明シテ特許證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得
第八十九條 前二條ノ場合ニ於テ特許局長カ新ニ特許證ヲ下付シタルトキハ舊特許證ハ之ヲ無効トス此ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報及特許公報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第九十條 特許ノ無効又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ無効ノ審決確定シタルトキ若ハ判決アリタルトキ又ハ特許權カ消滅シタルトキハ特許證主又ハ特許證複本ノ所有者ハ遲滞ナク其ノ特許證及其ノ複本ヲ返納スヘシ

第九十一條 特許標記ハ「特許」ノ文字及其ノ特許番號ヲ表示スヘシ
特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル特許標記ハ前項ニ依リ記載ニ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ

第九十二條 第一年乃至第三年分ノ特許料又ハ追加特許料ハ特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ若ハ判決アリタルトキ又ハ特許權ノ存續期間ノ延長ヲ許可スヘシトノ決定アリタル場合ニ於テ其ノ査定、審決又ハ決定書ノ送達アリタル日ヨリ、權利確認ノ査定又ハ之ニ對スル審決ニ在リテハ其ノ確定ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ特許權ノ分割ヲ許可スヘシトノ査定若ハ審決アリタル場合ニ於テ其ノ分割ニ依リ發生スヘキ特許權ノ當該年分ノ特許料亦同シ

第九十三條 特許料又ハ追加特許料ヲ納付セムトスル者ハ納付書ニ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

第九十四條 特許法第五十八條第二項ノ規定ニ依リ特許料又ハ追加特許料ノ納付ノ猶豫又ハ減免ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ所轄市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ
前項ノ證明書ニハ請求人ノ身分、職業、財産並其ノ納付スヘキ税額ヲ記載シ特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ資力ナキコトヲ證明スヘシ

附則

第九十五條 本則ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九十六條 第九十一條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル特許標記ニ之ヲ適用セス

第九十七條 本則施行前審決又ハ判決ヲ爲シタル審判又ハ出訴ニ關スル費用ノ負擔及費用額ノ決定ニ關シテハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

(書式)

第一號書式

特許願

一 發明ノ名稱

一發明完成ノ年月日
一發明者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業
(本項ハ出願人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)
私(私共)僱別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

出願人(發明者) 氏

名印
(法人ナルトキハ
代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏

名殿

第二號書式

追加特許願

一發明ノ名稱
一發明完成ノ年月日
一原發明ノ特許番號(願番番號又ハ符號)
一發明者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業
(本項ハ出願人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)
私(私共)僱別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

出願人(發明者) 氏

名印
(法人ナルトキハ
代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏

名殿

添附書類目録

一何々 何通
一何々 何通

第三號書式

特許權改訂願

一特許番號
一發明ノ名稱
私(私共)僱別紙改訂明細書(改訂圖面)ノ通特許權改訂ノ許可相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

出願人(發明者) 氏

名印
(法人ナルトキハ
代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏

名殿

添附書類目録

一何々 何通
一何々 何通

第四號書式

特許權分割願

一特許番號
一發明ノ名稱
一追加特許權ノ附隨スル場合ニ於テハ其ノ追加特許權ノ特許番號及其ノ附隨スヘキ分割シタル特許權ノ符號
私(私共)僱別紙明細書(及圖面)ノ通特許權分割ノ許可相受度此段相願候也

年 月 日

特許局長 氏

名殿

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業
出願人(發明者) 氏

名印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

添附書類目録
一何々 何通
一何々 何通

第五號書式

特許權存續期間延長願

數

一特許番號
一發明ノ名稱
一延長ノ年限

私(私共)儀前記特許權ニ付存續期間ノ延長ノ許可相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

出願人 氏

名印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏

名殿

添附書類目録
一何々 何通
一何々 何通

第六號書式

發明品出品届

數

一發明ノ名稱
一發明者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)
(本項ハ届出人カ發明者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙説明書(及圖面)ニ記載スル發明品ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ付此段及御願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

氏

名印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏

名殿

添附書類目録
一何々 何通
一何々 何通

第七號書式

特許證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

發明者 何縣何階
一發明ノ名稱

前記發明ハ特許局審査官ニ於テ特許スヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏

名印

第八號書式

第九號(原特許番號)
特許證(追加特許證)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

明治何年何月何日第何號特許ニ係ル前記發明ノ特許權(追加特許權)改訂ノ出願ニ對シ特許局審査官ニ於テ特許權(追加特許權)ノ改訂ヲ許可スヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第九號書式

第九號(原特許番號)ノ一、二、三
特許證(追加特許證)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

明治何年何月何日第何號特許ニ係ル前記發明ノ特許權(追加特許權)分割ノ出願ニ對シ特許局審査官ニ於テ特許權(追加特許權)ノ分割ヲ許可スヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第十號書式

第十號
追加特許證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

前記發明ハ明治何年何月何日第何號ノ特許發明ニ付改良(擴張)ヲ爲シタルモノニシテ特許局審査官ニ於テ追加特許ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第十一號書式

第十一號(原特許番號)
特許證(追加特許證)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

前記特許權(追加特許權)ニ付何年間存續期間ノ延長ヲ許可シ特許原簿ニ登錄シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第十二號書式

第十二號
特許證複本(追加特許證複本)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一特許番號

一發明ノ名稱

一特許權(追加特許權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日
前記發明ノ特許權(追加特許權)ニ付特許證(追加特許證)複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第十三號書式

第何號

特許證(追加特許證)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

發明者 何縣何誰

一發明ノ名稱

一特許權(追加特許權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

前記發明ノ特許證(追加特許證)何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長 氏 名印

第十四號書式

納付書

印紙

特許番號又ハ願書番號

發明ノ名稱

一金何圓也

右納付候也

第何年分特許料(追加特許料)

住所(居所又ハ營業所)

氏 名印 (法人ナルトキハ
ノ法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏 名殿

○農商務省令第四十三號

意匠法施行細則左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

意匠法施行細則

第一條 意匠ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一意匠ニ付第十三條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作

リ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

願書ニハ圖面三通ヲ添附スヘシ

第二條 雛形又ハ見本カ貼附シ得ヘキモノナルトキハ之ヲ紙面ニ貼附シタルモノ三箇ヲ差出シ圖

面ノ差出ニ代ユルコトヲ得寫眞ヲ紙面ニ貼附シタルモノ三箇ヲ差出ストキ亦同シ

前項ニ依リ差出ス寫眞ニハ臺紙ヲ附スヘカラス

第三條 同一物品ニ應用スヘキ自己ノ登録意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ニ付登録ヲ受ケ

ムトスル者ハ類似意匠トシテ登録ヲ出願スヘシ

同一物品ニ應用スヘキ登録意匠ニ類似スル類似意匠ノ登録ヲ出願スル者ハ願書ニ其ノ登録意匠

ノ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル意匠ヲ登録シタルトキハ願書ニ添附シタル登録證ニ其ノ登録番號

ヲ記載シ特許局長署名捺印シテ之ヲ還付スヘシ

第四條 意匠法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ意匠ヲ秘密ニセムコトヲ請求スル者ハ圖面其ノ他其ノ

意匠ヲ表示スル物件ヲ密封シ「秘密意匠」ト朱書シ之ヲ願書ニ添附スヘシ

第五條 秘密ニスヘキ意匠ハ意匠權者ノ承諾ヲ得タル者若ハ裁判所ノ請求アリタル場合又ハ其ノ

意匠ニ關スル審査再審査審判若ハ抗告審判ニ付利害關係ヲ有スル者ヨリ請求アリタル場合ノ

外之ヲ意匠權者以外ノ者ニ示スコトヲ得ス

第六條 秘密ニスヘキ登録意匠ニ付利害關係人カ登録標記ヲ附シタル意匠又ハ之ヲ認識スルニ足

ルモノヲ差出シ其ノ登録ノ存否登録番號登録ノ年月日意匠ヲ應用スヘキ物品又ハ意匠權者ノ

氏名、住所、居所若ハ營業所ノ通知ヲ受ケムコトヲ請求スルトキハ特許局長ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第七條 意匠法第七條ノ規定ニ依ル登録願書ニハ實用新案ノ登録ノ出願ニ對スル最初ノ査定ノ騰本ヲ添附スヘシ

第八條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ意匠法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 登録出願ニ係ル意匠ヲ應用スヘキ物品カ第十三條ニ定メタルニ以上ノ類別ニ互ルニ依リ願書ヲ訂正セムトスルトキハ他類ニ屬スル物品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第十條 第三條ノ規定ニ依リテ出願シタル意匠ニ付登録スヘシトノ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ類似意匠ノ登録番號、願書番號又ハ符號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ

第十一條 登録證ハ第四號乃至第七號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ
登録證ニハ圖面ヲ添附スヘシ

第十二條 意匠登録ノ標記ハ「登録意匠」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ
意匠法第二十二條ニ基ク特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル意匠登録ノ標記ハ前項ニ依リ記載ニ「二部」ノ文字ヲ附加スヘシ

第十三條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ應用セムトスル物品ヲ指定スヘシ

第一類 被服、被服地
衣服、袴、帶、襪、肩掛、領卷等

第二類 頭飾、服飾、裝身具
飾髮、髮掛、胸飾、腕環、指環、鈕釦、襟針、徽章等

第三類 時計及其ノ附屬品
秋時計、置時計、掛時計、鎖下ク物等

第四類 傘、杖、鞭

第五類 携帶品
紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手提箱等

第六類 家具、飲食器、室内裝飾品、商品ノ容器包裝類
棚、單筒机、椅子、卓子、燈臺、額屏風、衝立、暖爐、火鉢、花瓶、膳碗、皿、鉢、杯、菓子器、茶器、珈琲具、磁器等

第七類 敷物
綴通、油圍、花邊等

第八類 文房具
硯、筆筒、筆架、硯屏、文鎮、墨臺、水滴、印材、肉池、文臺、硯箱、筆臺、インキ蓋、ペン、軸等

第九類 燈器
兩燈、手燭、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈、提燈、燈臺、火屋等

第十類 建築物ノ附屬品
障子、襖、屏、欄間、欄干、引手、釘隠、櫓等

第十一類 他類ニ屬セサル織物、編物、組物及其ノ製品
秋紗、手巾、卓袱、レース、羽織紐、帶締紐、時計紐、飾總等

第十二類 冠物
帽子、頭巾、笠等

第十三類 履物及其ノ附屬品
下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等

第十四類 扇、團扇

第十五類 樂器、玩具、遊戲具

第十六類 菓子及其ノ他ノ食用品

第十七類 紙、皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品
紋紙、紋革、擬革紙、襪紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、書簡箋、書簡筒等

第十八類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、土器、玻璃器、七寶製品、煉瓦、瓦

第十九類 他類ニ屬セサル漆器、假漆器、油漆塗器ノ類

第二十類 他類ニ屬セサル金屬又ハ石材ノ製品

第二十一類 他類ニ屬セサル木、竹、甲、角、牙、介類ノ製品

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

第十四條 第一乃至第三年分ノ意匠料又ハ類似意匠ノ意匠料ハ登録スヘシトノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第十五條 特許法施行細則第一條乃至第三十九條、第四十四條、第四十五條、第四十八條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第十六條 本則ハ意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル意匠登録ノ標記ニ之ヲ適用セス

第十八條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行前登録シタル意匠又ハ登録スヘシトノ査定アリタル意匠ヲ應用スヘキ物品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル
(書式)

第一號書式

意匠登録願

- 一 意匠ノ名稱
 - 一 登録請求ノ範圍
 - 一 意匠ヲ應用スヘキ物品
 - 一 案出者ノ氏名、住所又ハ營業所及職業
(本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)
- 私(私共) 備前記意匠ニ付登録相受度此段相願候也

本籍(附籍)
 住所(居所又ハ營業所)
 職業

出願人(案出者) 氏

名印
(法人ナルトキハ
 ノ法人ノ各稱及其
 ノ代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏 名殿

添附書類目録

- 一 何々 何通
- 一 何々 何通

第二號書式

類似意匠登録願

- 一 意匠ノ名稱
 - 一 登録請求ノ範圍
 - 一 意匠ヲ應用スヘキ物品
 - 一 案出者ノ氏名、住所又ハ營業所及職業
(本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)
 - 一 同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ登録番號
(願番號又ハ符號)
- 私(私共) 備前記意匠ニ付登録相受度此段相願候也

年 月 日

特許局長 氏

名殿

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業
出願人(案出者) 氏

名印
(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

添附書類目録

一何々 何通
一何々 何通

第三號書式

意匠品(意匠圖案)出品届

一 意匠ノ名稱
一 案出者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)
(本項ハ届出人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)領別紙說明書及圖面ニ記載スル意匠品(意匠圖案)ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何道何府何廳)ノ開設スル博覽會(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ付此段及御届候也

年 月 日

特許局長 氏

名殿

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

氏 名印
(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

添附書類目録

一何々 何通
一何々 何通

第四號書式

意匠登録證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

案出者 何照何誰

一 意匠ノ名稱
一 意匠ヲ應用スヘキ物品

(一同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登録第何號)

前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ意匠原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第五號書式

類似意匠登録證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

案出者 何照何誰

一 意匠ノ名稱
一 意匠ヲ應用スヘキ物品

(一合體スヘキ意匠權登録第何號)

前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ意匠原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第六號書式

複第何號

意匠登錄證複本(類似意匠登錄證複本)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

- 一案出者 何縣何誰
- 一登錄番號(類似意匠第何號)
- 一意匠ノ名稱
- 一意匠ヲ應用スヘキ物品
- 一意匠權存續期間 自明治何年何月何日(合體スヘキ意匠) 至明治何年何月何日(權登錄第何號)
- (同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登錄第何號)
- 前記意匠ノ意匠權ニ付意匠登錄證(類似意匠登錄證)複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日 特許局長 氏 名印

第七號書式

第何號

意匠登錄證(類似意匠登錄證)

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

- 案出者 何縣何誰
- 一意匠ノ名稱
- 一意匠ヲ應用スヘキ物品
- 一意匠權存續期間 自明治何年何月何日(合體スヘキ意匠) 至明治何年何月何日(權登錄第何號)
- (同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登錄第何號)

年 月 日 特許局長 氏 名印

第八號書式

收入

納付書

- 登錄番號又ハ願書番號
- 意匠ノ名稱
- 一金何圓也 第何年分意匠料
- 右納付候也

住所(居所又ハ營業所)

氏 名印 (法人ナルトキハ 代理人ノ名稱及其ノ代表者氏名印)

年 月 日 特許局長 氏 名殿

○農商務省令第四十四號 商標法施行細則左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十六日 農商務大臣 男爵大浦兼武

商標法施行細則

- 第一條 商標ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ一商標ニ付第二十條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作リ之ヲ特許局ニ差出スヘシ
- 願書ニハ商標見本ヲ添附スヘシ
- 第二條 商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ色ヲ指定シ著色シタル見本ヲ添附スヘシ
- 第三條 登錄商標ト互ニ相類似スル商標ヲ聯合商標トシテ登錄ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ登

錄商標ノ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル商標ヲ登録シタルトキハ願書ニ添附シタル登録證ニ其ノ登録番號ヲ記載シ特許局長署名捺印シテ之ヲ還付スヘシ
 第四條 商標法第三條第三項ノ規定ニ依リテ出願シタル聯合商標ニ付登録スヘシトノ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ聯合商標ノ登録番號、願書番號又ハ符號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ
 第五條 商標ノ見本ハ強靱ナル紙料ヲ以テ之ヲ作ルヘシ見本ハ五通之ヲ差出スヘシ但シ特許局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得
 第六條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ヲ承繼シタル者ノ差出ス出願人ノ名義變更ノ届書ニハ其ノ承繼人タルコト及營業ヲ讓受ケタルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ
 第七條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ商標法第四條第二項但書ノ規定ニ依リ關係者ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス
 第八條 商標法第三條第二項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ善意ニ其ノ商標ヲ使用シタル事實ヲ證明スヘシ
 第九條 共同シテ使用スル商標ノ登録ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ
 第十條 商標法第二條第七號乃至第九號ニ該當スル商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ各號ノ但書ノ規定ニ依リ登録ヲ受ケルコトヲ得ヘキ事實ヲ證明スヘシ
 第十一條 外國ノ登録商標トシテ帝國ニ於テ其ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ本國ノ登録證其ノ他本國ノ登録ニ係ル商標及其ノ登録ノ年月日ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ
 外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付其ノ本國ニ於テ商標權存續期間更新ノ登録出願カ許可セラレタル後帝國ニ於テ其ノ商標權存續期間更新ノ登録ヲ出願セムトスル者ハ願書ニ其

ノ本國ニ於テ許可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ
 第十二條 特許局長必要ト認ムルトキハ商標ノ登録出願人ニ對シ商標ニ關スル説明書ノ差出ヲ命スルコトヲ得
 第十三條 登録出願ニ係ル商標ヲ使用スヘキ商品カ第二十條ニ定メタルニ以上ノ類別ニ互ルニ依リ願書ヲ訂正セムトスルトキハ他類ニ屬スル商品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ
 第十四條 商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ期間満了ノ日ヨリ三月前ニ願書ニ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ
 前項ノ期限後ト雖モ商標權存續期間満了以前ニ在リテハ別ニ定ムル手数料ヲ納付シ前項ノ願書ヲ差出スコトヲ得
 第十五條 登録スヘシトノ査定又ハ審決アリタルトキハ出願人又ハ請求人ハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ商標料ヲ納付シ且商標ノ印版一箇ヲ特許局長ニ差出スヘシ
 第十六條 商標ノ印版ハ木版、細網版其ノ他活版印刷ニ適スルモノヲ用井長サ及幅各曲尺三寸三分(七)サンチメートル)以内、厚サ七分九厘二毛(二)サンチメートル)四(ト)文字ヨリ成ル商標ノ印版ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ
 第十七條 特許法施行細則第二十條及第二十一條ノ規定ハ商標ノ印版ニ之ヲ準用ス
 第十八條 登録證ハ第四號乃至第八號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ
 登録證ニハ商標見本ヲ貼附スヘシ
 第十九條 商標法第二十條ノ規定ニ依リ標章ノ登録ヲ受ケムトスル者カ主務官廳ノ認可ヲ得テ設立シタルモノナルトキハ願書ニ其ノ認可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第二十條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用セムトスル商品ヲ指定スヘシ
第一類 化學品、藥劑及醫療補助品

酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、樹脂、糖、酒精、福里設林、規那鹽、莫兒比涅丁、藥劑、舍利別、煎劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、香精、石灰、硫黃、鹹水、辟香、打粉、食鹽、艾、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、綳帶、綿紗、綿線、絲、脫脂綿、海綿、ラフト等

第二類 染料、顏料、煤染料及塗料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠、青、燐、洋靛、鉛白、胡粉、金銀粉、藤黃、染菌料、綠礬、明礬、漆、假漆、油漆、油、漆、油、靛、墨、平油、防蝕料、水料等

第三類 香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品

香水、香油、白粉、髮膏、香袋、線香、炷香、化粧下等

第四類 石鹼

第五類 他類ニ屬セサル洗料、磨料

洗粉、齒粉、洗液、磨液等

第六類 他類ニ屬セサル金屬及其ノ半加工品

鐵、鐵、鋼、鐵、條、鐵、線、鋼、鋼、板、鋼、絲、鉛、鉛、板、亞鉛、亞鉛板、錫、アルミニウム、ニッケル、水銀、合金等

第七類 他類ニ屬セサル金屬製品

鑄物、打物、彫鑿品、編物等

第八類 利器及尖刃器

鐵錐、鑿、錐、斧、鋸、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鉋針、釘、馬蹄等

第九類 貴金屬及其ノ模造物、アルミニウム、金、ニッケル、銀、ブリタニヤ、メタル及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鑿品

金銀、四分一、紫銅其ノ他貴金屬ノ合金、鍍品、モール等

第十類 寶石類、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鑿品

金剛石、珊瑚、真珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等

第十一類 礦物類

第十二類 石材、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品

第十三類 漆喰及土砂類

漆喰、セメント、石膏、土、瀝青、土砂、火山灰等

第十四類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、七寶製品、土器、瓦、煉瓦類

第十五類 玻璃及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鑿品

玻璃板、玻璃管、玻璃球等

第十六類 護謨及他類ニ屬セサル其ノ製品

汽機、汽機、發電機、電動機、變壓器、機械、紡織機、裁縫機、印刷機、揚水機、消火器、潛水器、調帶等

第十七類 他類ニ屬セサル機械、器具及其ノ各部

電信機、電話機、電氣開閉器、電池、試驗管、外科用器械、度量衡器、感光膜、製圖器、體操用器具、望遠鏡、顯微鏡、被覆電線、電氣絕緣用磚子、電氣器械器具用炭素等

第十八類 農工器具

犁、鋤、鍬、稻拔、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、綑墨、銼、迴シ、スコップ、シローベル、鋤嘴等

第十九類 運搬用機械、器具及其ノ各部

荷車、馬車、人力車、自動車、自轉車、小兒用車、船舶、鐵道用車輛、車輪、タイヤ等

第二十類 時計及其ノ附屬品及其ノ各部

第二十一類 樂器

第二十二類 銃砲、彈丸及爆發物類

大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、縮火藥、ダイナマイト、雷管、煙火、水雷等

第二十三類 蠶種、野蠶種及繭

- 第二十五類 眞綿、木綿綿、麻苧、羽毛ノ類及其ノ粗製品
- 第二十六類 生絲、絹絲、野蠶絲、天蠶絲、琴絲、金絲及銀絲
- 第二十七類 綿絲
- 第二十八類 毛絲
- 第二十九類 麻絲及第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木綿織物
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織物
- 第三十四類 第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物
- 第三十五類 他類ニ屬セサル絲類ノ編物、組物、撚物、「レース」、「リボン」類、他類ニ屬セサル刺繍品及各種ノ紐類
- 第三十六類 被服、手巾、鈕釦及裝身用「ピン」類
- 第三十七類 衣服冠、帽子、「カラ」、「カフス」、「領飾」、「襪衣」、「ソボン」下、手袋、足袋、「ハンカチーフ」、「手拭」、「タオル」、「襪紗」、「風呂敷」等
- 第三十八類 寢具及他類ニ屬セサル室内裝置品
- 第三十九類 清酒
- 第四十類 葡萄酒、麥酒、「ブランデー」、「メルトモット」、「ウヰスキー」、「味淋」、「白酒」、「燒酎」、「國酒」、「燗酒」、「直シ」等
- 第四十一類 醬油、「ソース」及酢類

- 第四十二類 砂糖、蜜類
 - 第四十三類 菓子及麵類
 - 第四十四類 茶、珈琲、「チョコレート」、「珈琲入角砂糖」ノ類
 - 第四十五類 他類ニ屬セサル食料品及加味品
 - 第四十六類 獸乳及其ノ製品及其ノ模造品
 - 第四十七類 穀菜類、種子、果物、穀粉、澱粉及其ノ製品
 - 第四十八類 煙草類
 - 第四十九類 煙具及袋物
 - 第五十類 紙、他類ニ屬セサル其ノ製品、各種ノ元結及水引
 - 第五十一類 文房具
 - 第五十二類 皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品及各種ノ鞆類
 - 第五十三類 燃料類
- 白砂糖、黒砂糖、「アラメ」、水砂糖、糖蜜、蜂蜜等
- 干菓子、煮菓子、掛ケ物、飴、砂糖漬等
- 肉類、越前類、卵、鹽、海苔、昆布、荒布、佃煮、味噌、醬物、漬物、胡椒等
- 凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
- 米、麥、粟、黍、稗、豆、粟、乾瓢、球根、麵種、「モヤシ」、「ベーキング」、「パウダー」、「イースト」、「パウダー」、「麥粉」、「葛粉」、「澱粉」、「湯葉」、「蒟蒻」、「凍豆腐」、「凍蒟蒻」等
- 煙管、煙袋、煙筒、煙筒、「パイプ」、「懷中物」等
- 日本紙、西洋紙、板紙、摺紙、壁紙、油紙、濾紙、書簡筒、張文匣、「一閑張」、「帳簿」等
- 筆、墨、印肉、印材、「インキ」、「印刷用インキ」、「石筆」、「鉛筆」、「ペン」、「ペン軸」、「硯」、「インキ」等、文鎮、筆筒、筆架、石盤、紙綴具、鉛筆削等
- 毛皮、皮革、馬具、文匣、革帶、唐弓、絛等
- 石炭、「コールス」、「薪炭」、「附木」、「懷爐灰」等

- 第五十四類 摺附木
- 第五十五類 油、蠟類
石油、種油、魚油、蠟燭、脂肪等
- 第五十六類 肥料
干鱈、鱈粉、油粕、肉粉、骨粉、血粉、糠、磷酸肥料、調合肥料、硫酸安母尼亞等
- 第五十七類 木竹材、木皮、竹皮及經木類
- 第五十八類 他類ニ屬セサル木、竹、籐、木皮、竹皮ノ類ノ製品及其ノ漆塗品、蒔繪品ノ類
指物、挽物、曲物、組物、桶、輕木、真田等
- 第五十九類 甲、角、牙、介類、他類ニ屬セサル其ノ製品及其ノ模造品並「セルロイド」及他類ニ屬セサル其ノ製品
- 第六十類 葉草及他類ニ屬セサル其ノ製品
麥稈、燕麥、蕪、筍、繩、麥稈、真田等
- 第六十一類 傘、杖、履物及其ノ附屬品
傘、編繩傘、杖、鞋、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等
- 第六十二類 扇子及團扇類
- 第六十三類 燈器及其ノ各部
洋燈、燭臺、提燈、電燈球、燈罩、電燈承口、電燈線條、瓦斯「バーナー」、瓦斯「マントル」、弧光燈用炭棒、燈中電燈燭心等
- 第六十四類 刷子及鬚類
- 第六十五類 玩具、遊戲具、造花及花簪ノ類
鞠、毬、將棋、人形、獨樂、弓、球、突、具、押、輪、骨、牌、等
- 第六十六類 圖畫、寫真、ブック、書籍、新聞紙、雜誌類
- 第六十七類 他類ニ屬セサル商品

第二十一條 特許法施行細則第一條乃至第三條、第五條乃至第二十九條、第四十八條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十二條 本則ノ規定ハ標章ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 本則ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十五條 本則施行前登錄シタル商標又ハ登錄スヘシトノ査定アリタル商標ヲ使用スヘキ商品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

(書式)

第一號書式

商標(標章)登録願(外國登録商標登録願)

商標(標章)ヲ附スヘキ商品

私(私共)隨前掲商標(標章)ニ付登錄相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

年 月 日

特許局長 氏

名殿

出願人 氏

名印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

添附書類目録
一何々 何通
一何々 何通

第二號書式 聯合商標(聯合標章)登録願

見本

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品
一聯合商標(聯合標章)登録番號(願書番號又ハ符號)
私(私共)儀前掲商標(標章)ヲ聯合商標(聯合標章)トシテ登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

年月日

特許局長 氏 名殿

出願人 氏

名印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

第三號書式 商標權(標章權)存續期間更新登録願

見本

添附書類目録
一何々 何通
一何々 何通

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品
一聯合商標(聯合標章)登録第何號)
私(私共)儀前掲商標(標章權)ニ付存續期間更新ノ登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

年月日

特許局長 氏 名殿

出願人 氏

名印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

第四號書式 商標登録證(標章登録證)

見本

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品
一聯合商標(聯合標章)登録第何號)
前掲商標(標章)ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

年月日

特許局長 氏 名殿

出願人 氏

名印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

第五號書式 商標登録證(標章登録證)

見本

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品
一聯合商標(聯合標章)登録第何號)
前掲商標(標章)ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

年月日

特許局長 氏 名殿

出願人 氏

名印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

第六號書式

第何號

外國商標登錄證

本見

一 商標(標章)ヲ附スヘキ商品
 一 商標權存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日
 (一聯合商標登錄第何號)
 前掲商標ハ何國ノ登錄商標ニシテ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

國籍(本籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

特許局長 氏 名印

第七號書式

第何號

商標登錄證複本(標章登錄證複本)

本見

一 登錄番號

一 商標(標章)ヲ附スヘキ商品
 一 商標權(標章權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日
 (一聯合商標(聯合標章)登錄第何號)
 前記商標權(標章權)ニ付商標登錄證(標章登錄證)複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

特許局長 氏 名印

第八號書式

第何號

商標登錄證(標章登錄證)

本見

一 商標(標章)ヲ附スヘキ商品
 一 商標權(標章權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日
 (一聯合商標(聯合標章)登錄第何號)
 前記商標(標章)ノ登錄證何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

特許局長 氏 名印

第九號書式

納付書

願書番號
 一金何圓也 商標料(標章料)
 右納付候也

住所(居所又ハ營業所)

氏 名印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名殿

○農商務省令第四十五號
實用新案法施行規則左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

實用新案法施行規則

- 第一條 實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ
- 願書ニハ圖面ニ通テ添附スヘシ
- 第二條 圖面ニハ實用新案ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ之ニ其ノ説明及登録請求ノ範圍ヲ記載スヘシ但シ其ノ説明及登録請求ノ範圍ハ之ヲ別紙ニ記載シ圖面ノ一部トシテ差出スコトヲ得
- 第三條 實用新案法第七條ノ規定ニ依ル登録願書ニハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ニ對スル最初ノ査定ノ附木ヲ添附スヘシ
- 第四條 審査又ハ再審査ニ關シ必要アルトキハ特許局長ハ出願人又ハ請求人ニ對シ解説書ノ提出ヲ命スルコトヲ得
- 解説書ニハ實用新案ノ詳細ナル説明ヲ記載スヘシ
- 第五條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ實用新案法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス
- 第六條 發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル者ハ其ノ出願ニ對シ最初ノ査定ヲ受ケサル場合ニ限リ其ノ出願ヲ實用新案登録願ニ變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前出願ヲ訂正スヘシ
- 前項ニ依リ變更シタル實用新案登録願ハ最初ノ出願ノ日ニ於テ爲シタルモノト看做ス
- 第七條 實用新案權存續期間延長ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ其ノ存續期間満了ノ日ヨリ一月前ニ

請求書ニ登録料ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ
前項ノ期限後ト雖モ存續期間満了以前ニ在リテハ別ニ定ムル手数料ヲ納付シ前項ノ請求書ヲ差出スコトヲ得

第八條 登録證ハ第五號乃至第八號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ
登録證ニハ圖面ヲ添附スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 實用新案登録ノ標記ハ「登録新案」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ
實用新案法第二十條ニ基テ特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル實用新案登録ノ標記ハ前項ニ依リ記載ニ一部ノ文字ヲ附加スヘシ

第十條 登録料ハ登録スヘシトノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ
第十一條 特許法施行細則第一條乃至第四十一條、第四十五條、第四十八條乃至第五十二條、第五十五條乃至第五十七條、第六十條、第六十七條、第七十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十二條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第十二條 本則ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十三條 第九條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル實用新案登録ノ標記ニ之ヲ適用セス
第十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

(書式)
第一號書式
實用新案登録願

一 實用新案ノ名稱

一 考案者ノ氏名住所又ハ營業所及職業
(本項ハ出願人カ考案者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共) 鐵別紙圖面ニ記載スル物品ニ付實用新案登錄相受度此段相願候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

出願人(考案者) 氏

名印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

年月日

特許局長 氏

名殿

添附書類目錄

一何々 何通
一何々 何通

第二號書式

存續期間延長請求書

一登錄番號

一實用新案ノ名稱

私(私共) 鐵別紙實用新案權ニ付存續期間延長致度此段請求候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

請求人 氏

名印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

年月日

特許局長 氏

名殿

添附書類目錄

一何々 何通
一何々 何通

第三號書式

實用新案出品届

一實用新案ノ名稱

一考案者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)

(本項ハ届出人カ考案者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共) 鐵別紙圖面ニ記載スル實用新案ニ係ル物品ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會

(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ付此段及御届候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

氏

名印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

年月日

特許局長 氏

名殿

添附書類目錄

一何々 何通
一何々 何通

第四號書式

出願變更請求書

一願書番號

一發明(意匠)ノ名稱

私(私共) 鐵別紙發明(意匠)ノ特許願(意匠登錄願)ヲ實用新案登錄願ニ變更致度此段請求候也

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)
職業

請求人 氏

名印
(法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

年月日

特許局長 氏

名殿

添附書類目録

一何々 何通
一何々 何通

第五號書式

第何號

實用新案登録證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

考案者 何縣何誰

一實用新案ノ名稱

前記實用新案ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第六號書式

第何號(原登録番號)

實用新案登録證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

考案者 何縣何誰

一實用新案ノ名稱

前記實用新案權ノ存續期間ノ延長ヲ實用新案原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第七號書式

複第何號

實用新案登録證複本

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

一考案者 何縣何誰

一登録番號

一實用新案ノ名稱

一實用新案權存續期間

前記實用新案權ニ付登録證複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第八號書式

第何號(原登録番號)

實用新案登録證

本籍(國籍)
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

考案者 何縣何誰

一實用新案ノ名稱

一實用新案權存續期間

前記實用新案ノ登録證何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名印

第九號書式

納付書

願書番號

實用新案ノ名稱
一金何圓也 登錄料
右納付候也

年 月 日

特許局長 氏 名殿

住所(居所又ハ營業所)

氏 名印 (法人ナルトキハ
ノ代表者氏名印)

○農商務省令第四十六號

特許登錄令施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月二十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

特許登錄令施行規則

第一章 登錄ニ關スル帳簿

第一條 特許原簿ハ第一號様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二條 特許原簿ハ一特許權ニ付一用紙ヲ備フ

第三條 共同人名簿ハ第二號様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 登錄申請受附簿ハ第三號様式ニ依リ毎年之ヲ作ルヘシ

第五條 特許局ニハ特許原簿、共同人名簿及登錄申請受附簿ノ外登錄ニ關スル左ノ帳簿ヲ備フ

一 通知簿

二 異議ニ關スル書類送込帳

三 特許法第十七條第一項但書ノ規定ニ依ル代表者届出書類送込帳

第六條 前條第一號乃至第三號ノ帳簿ハ一年毎ニ別冊ト爲スヘシ

前條第一號ノ帳簿ニハ特許登錄令又ハ本則ノ規定ニ依ル通知事項、通知ヲ受クル者及通知ヲ發

スル年月日ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第七條 特許原簿ノ特許番號欄ニハ各特許ニ付特許原簿ニ始メテ登錄ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ特許權ノ表示ヲ爲シ、並其ノ變更、消滅、特許法第四十四條ノ制限及特許ノ效力又ハ特

許權ノ範圍ノ確認ニ關スル確定審決又ハ判決ニ關スル事項ヲ記載シ、表示番號欄ニハ表示欄ニ登

録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ特許權ノ設定、移轉及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ特許法第三十二條ノ制限附特許權ニ關スル事項及其ノ權利ヲ目的トスル質權ニ

關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ實施權、使用權及此等ノ權利ヲ目的トスル質權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ質權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

代理人欄ニハ特許法第十三條第一項ノ規定ニ依ル代理人ノ選任若ハ變更又ハ代理權ノ變更若ハ

消滅ヲ記載ス

追加特許番號欄ニハ其ノ特許ニ關スル追加特許ノ番號ヲ記載ス

第二章 登錄手續

第一節 通則

第八條 表示欄ニ登錄ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ、事項欄ニ登錄ヲ爲ストキハ順位番

號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第九條 表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ劃シ、事項欄ニ登錄ヲ爲シタ

ルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シ、餘白ト分界スヘシ

代理人欄及追加特許番號欄ニ登錄又ハ記載ヲ爲シタルトキハ同欄ニ縱線ヲ劃シ、餘白ト分界スヘシ

第十條 附記ニ依ル登録ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登録ノ番號ヲ用井其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登録ノ順位番號ノ左側ニ附記登録番號ヲ記載スヘシ

第十一條 表示欄、事項欄又ハ代理人欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ其ノ末尾ニ登録年月日ヲ記載シ登録官吏捺印スヘシ

第十二條 特許原簿ニ住所ヲ記載スヘキ場合ニ於テ住所ナキモノハ居所又ハ營業所、外國人ニ在リテハ尙其ノ國籍ヲ記載スヘシ

第十三條 職權又ハ申請若ハ囑託ニ依リ事項欄ニ登録ヲ爲ス場合ニ於テ特許權者又ハ登録權利者多數ナルトキハ願書又ハ申請書ニ掲ケタル代表者若ハ筆頭者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並他ノ人員ヲ登録用紙ニ記載シ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ共同人名簿ニ記載スルコトヲ得登錄義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ登録用紙ニ記載スルコトヲ要スル場合ニ於テ登録義務者カ多數ナルトキ亦同シ

第十四條 登録ヲ完了シタルトキハ申請又ハ囑託ニ依ルモノニ在リテハ申請書、囑託書及其ノ附屬書類、職權ニ依ルモノニ在リテハ其ノ原因ノ書類ヲ當該特許權ノ特許願書ニ添附スヘシ

第十五條 登録用紙中表題部又ハ或區カ登録ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中特許番號欄ニ前用紙ノ特許番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル特許原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中特許番號欄ニ新用紙ヲ編綴セル特許原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ新用紙中特許番號ノ左側ニ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中特許番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ

前用紙中表題部又ハ他ノ區ニ餘白アルトキハ表題部又ハ其ノ區ニ登録スヘキ事項ニ付テハ仍之

ニ登録ヲ爲スヘシ

前三項ノ規定ハ代理人欄又ハ追加特許番號欄カ登録又ハ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 前條ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ共同人名簿ニ特許權者又ハ登録權利者若ハ登録義務者ノ全員ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載シ備考欄ニ特許番號、出願日附又ハ申請書受附ノ年月日、願書番號又ハ受附番號及順位番號ヲ記載シ登録官吏捺印スヘシ

第十八條 共同人名簿ニ特許權者又ハ登録權利者若ハ登録義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載シタルトキハ共同人名簿及持分欄ニ於ケル縦線ヲ番號欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

登錄原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニ朱線ヲ交叉スヘシ

第十九條 共同人名簿ニ記載シタル特許權者又ハ登録權利者若ハ登録義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若ハ變更ニ付特許原簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登錄ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登録官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ抹スヘシ

第二十條 前條ノ場合ニ於テ備考欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ共同人名簿ニ特許權者又ハ登録權利者若ハ登録義務者ノ氏名又ハ名稱ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ備考欄ニ登録ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登録官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ登録用紙中相當區事項欄ニ爲シタル登録ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第二十二條 登録用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及其ノ年月日ヲ記載シ登録官吏捺印シ特許權ノ表示、表示番號及登録番號ヲ朱抹スヘシ

第二節 職權ニ依ル登録手續

第二十三條 登録ハ査定若ハ審決確定シ又ハ判決若ハ許可アリタル順序ニ從ヒ、特許登錄令第三條第二號ノ登録ハ審判ノ請求又ハ査定確定シ若ハ審決アリタル順序ニ從ヒ、異議ノ決定又ハ訴願ノ裁決ニ依ル登録ハ決定又ハ裁決アリタル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ但シ特許權ノ設定、特許權ノ分割ノ許可及特許權ノ存續期間延長ノ許可ノ登録ハ料金納付ノ猶豫又ハ免除アリタル場合ヲ除ク、外料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 特許權ノ設定ノ登録ヲ爲スニハ特許番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ出願日附、願書番號、特許發明ノ名稱、査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ甲區事項欄ニ特許權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

特許法第三十一條ニ依ル特許權設定ノ登録ヲ爲スニハ前項ノ外表示欄ニ其ノ旨、無効トナリタル特許番號及其ノ登録日附ヲ記載スヘシ

第二十五條 追加特許權設定ノ登録ヲ爲スニハ特許番號欄ニ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ原特許權ノ特許番號其ノ登録日附及其ノ追加特許ナル旨ヲ記載シタル後特許權設定ノ登録ヲ爲シ原特許ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ其ノ番號ヲ記載スヘシ

第二十六條 特許法第四十四條ニ依リ特許權ヲ制限シタルトキハ表示欄ニ其ノ原因、制限及其ノ日附ヲ記載スヘシ

第二十七條 特許權改訂許可ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ出願日附、願書番號改訂許可ノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ特許發明ノ名稱ヲ變更シタルトキハ尙其ノ名稱ヲ記載スヘシ

第二十八條 特許權ヲ分割シテ甲及乙ノ二箇ノ特許權ト爲シタル場合ニ於テ分割許可ノ登録ヲ爲スニハ乙特許權ニ對シ新ニ登録用紙ヲ起シ特許番號欄ニ前番號ヲ記載シ其ノ下ニ「一」ト記シ表示欄ニ第二十四條ノ規定ニ準シ乙特許權ノ表示ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ原特許權ノ登録用紙中特許番號欄ノ番號ノ下ニ「一」ト記シ表示欄ニ第二十四條ノ規定ニ準シ甲特許權ノ表示ヲ爲シ分割ニ依リテ乙特許權ヲ特許第何號ニ移シタル旨ヲ記載シ且乙特許權ヲ登録シタル特許原簿ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第二十九條 前條第一項ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登録用紙中相當區事項欄ニ原特許權ノ登録用紙ヨリ特許權其ノ他ノ權利ニ關スル登録ヲ轉寫シ且甲區ニ記載シタル特許權以外ノ權利ニ關スル登録中ニ甲特許權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨、出願日附、願書番號、査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載スヘシ

原特許權ノ登録用紙ヨリ乙特許權ノ登録用紙ニ甲區ニ記載シタル特許權以外ノ權利ニ關スル登録ヲ轉寫シタルトキハ甲特許權ノ登録用紙中其ノ權利ニ關スル登録ニ乙特許權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

登録名義人カ登録上乙特許權ニ關シ其ノ權利ナキトキ又ハ分割許可ノ査定又ハ審決確定前ニ該名義人カ其ノ權利ノ消滅ヲ承認シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ甲特許權ノ登録用紙中其ノ權利ニ關スル登録ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登録用紙中ニ其ノ權利ニ關スル登録ヲ轉寫スルコトヲ要セス

第三十條 特許權ヲ分割シテ甲及乙ノ二箇ノ特許權ト爲シタル場合ニ於テ登録上乙特許權ノミ

カ制限附移轉ニ依ル特許權又ハ特許權以外ノ權利ノ目的タルトキハ乙特許權ノ登録用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登録ヲ移シ出願日附願書番號、査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲特許權ノ登録用紙中制限附移轉ニ依ル特許權又ハ特許權以外ノ權利ニ關スル登録ニ乙特許權ノ表示ヲ爲シ分割ニ依リテ特許第何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其ノ登録ヲ抹スヘシ

分割許可ノ査定又ハ審決確定前ニ制限附移轉ニ依ル特許權又ハ特許權以外ノ權利ノ登録名義人カ其ノ權利ノ消滅ヲ承認シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ甲特許權ノ登録用紙中其ノ權利ニ關スル登録ニ其ノ旨ヲ附記シ其ノ登録ヲ抹スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登録用紙中ニ其ノ權利ニ關スル登録ヲ移スコトヲ要セス

第三十一條 第二十八條ノ場合ニ於テ原特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ追加特許番號ノ記載アルトキハ乙特許權ノ登録用紙中ノ當該欄ニモ之ヲ記載スヘシ但シ査定、審決又ハ判決ニ依リ甲特許權ノミニ對スル追加特許權トナリタルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

追加特許權カ査定、審決又ハ判決ニ依リ乙特許權ノミニ對スルモノトナリタルトキハ甲特許權ノ登録用紙中ノ當該欄ニ於ケル該番號ヲ抹シ乙特許權ノ登録用紙中ノ當該欄ニ該番號ヲ記載スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ當該追加特許權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ追加特許權ノ附隨スル原特許權タルヘキ特許權ノ特許番號ヲ附記シ舊原特許番號ヲ抹スヘシ

第三十二條 第二十八條ノ場合ニ於テ原特許權ノ登録用紙中表示欄ニ特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登録アリタルトキハ乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ之ヲ轉寫シ甲特許權ト共ニ審決又ハ判決ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ甲特許權ノ登録用紙

中其ノ登録ニ乙特許權ト共ニ審決又ハ判決ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ
特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決カ登録上甲特許權ノミニ關スルモノナルトキハ甲特許權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登録用紙ニ其ノ審決又ハ判決ノ登録ヲ轉寫スルコトヲ要セス

特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決カ登録上乙特許權ノミニ關スルモノナルトキハ乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ審決又ハ判決ノ登録ヲ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲特許權ノ登録用紙中表示欄ノ確定審決又ハ判決ノ登録ニ乙特許權ノ表示ヲ爲シ分割ニ依リテ特許第何號ニ移シタル旨ヲ附記シ其ノ登録ヲ抹スヘシ

第三十三條 前條ノ規定ハ第二十八條ノ場合ニ於テ原特許權ノ表示欄ニ特許法第四十四條ノ規定ニ依ル制限又ハ特許權存續期間延長ノ許可アリタル場合ニ於テ爲シタル制限ノ登録アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 第二十八條ノ場合ニ於テ代理人欄ニ特許法第十三條第一項ノ規定ニ依ル代理人ノ登録アルトキハ乙特許權ノ登録用紙中相當欄ニ之ヲ轉寫スヘシ

第三十五條 前七條ノ規定ハ特許權カ三箇以上ニ分割セラレタル場合ノ登録ニ之ヲ準用ス

第三十六條 特許權存續期間延長許可ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ出願日附願書番號許可アリタル旨及其ノ日附、延長ノ期間並制限ヲ附シタルトキハ其ノ制限ヲ記載スヘシ

第三十七條 特許權改訂ノ許可カ無効トナリタルトキハ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、改訂許可無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ改訂ノ登録ヲ抹スヘシ

第三十八條 特許權分割ノ許可カ無効トナリタルトキハ分割許可ニ依リ新ニ登録用紙ヲ起シタル乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、分割許

可無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ特許權ノ表示、表示番號及特許番號ヲ朱抹スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲特許權ノ登録用紙中特許番號欄ノ番號ノ下ノ「一」ノ文字ヲ朱抹シ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、特許權分割許可無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載シ分割許可ノ登録ヲ朱抹シ表示欄中分割許可ノ登録前ノ登録ニ關シテハ之ヲ其ノ原狀ニ回復シ分割許可後ノ登録ニ關シテハ其ノ登録ニ甲特許權タリシ部分ノミニ關スル旨ヲ附記スヘシ

分割許可ノ登録後乙特許權ノ登録用紙中表示欄ニ特許權分割許可ノ登録以外ノ登録アルトキハ之ヲ轉寫シ其ノ登録カ乙特許權タリシ部分ノミニ關スル旨、審判請求書受附ノ年月日及審判、抗告審判又ハ判決ノ番號ヲ記載スヘシ

第三十九條 前條ノ場合ニ於テハ甲特許權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ乙特許權ノ登録用紙ヨリ制限附移轉ニ依ル特許權以外ノ特許權ニ關スル登録ヲ移シ其ノ登録カ乙特許權タリシ部分ノミニ關スル旨、審判請求書受附ノ年月日及審判、抗告審判又ハ判決ノ番號ヲ記載スヘシ

乙特許權ノ登録用紙ニ制限附特許權又ハ特許權以外ノ權利ニ關スル登録アルトキハ甲特許權ノ登録用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登録ヲ移シ乙特許權タリシ部分ノミカ其ノ權利ノ目的タル旨、審判請求書受附ノ年月日及審判、抗告審判又ハ判決ノ番號ヲ記載スヘシ

第四十條 特許權分割ノ許可カ無効トナリタル場合ニ於テ分割許可ノ登録以前ニ原特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ追加特許番號ノ記載アリタルトキハ當該追加特許權カ無効トナリ又ハ消滅セザリシ場合ニ限り之ヲ原狀ニ回復シ特許權分割許可ノ登録後分割許可ニ依リ新ニ登録用紙ヲ起シタル特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ追加特許番號ノ記載アルトキハ原特許權ノ登録用紙中追加特許番號欄ニ其ノ番號及乙特許權ニ附隨シタルモノナル旨ヲ記載スヘシ

第四十一條 前條ノ場合ニ於テハ當該追加特許權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ追加特許權ノ附隨スル原特許權タルヘキ特許權ノ特許番號ヲ附記シ舊原特許番號ヲ朱抹スヘシ

第四十二條 前四條ノ規定ハ特許權カ三箇以上ニ分割許可ノ登録アリタル場合ニ於テ分割許可カ無効トナリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 特許權分割許可ノ登録アリタル後其ノ一若ハ二以上ノ特許權ノ無効ノ登録アリタル場合ニ於テ特許權分割ノ許可カ無効トナリタルトキハ殘存スル特許權ノ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、特許權分割許可ノ無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨及其ノ日附ヲ記載スヘシ

特許權分割許可ノ登録アリタル後其ノ各特許權又ハ一若ハ二以上ノ特許權ノ消滅ノ登録アリタル場合ニ於テ特許權分割許可カ無効トナリタルトキハ各特許權ノ表示欄ニ前項ニ準シ記載ヲ爲スヘシ

第四十四條 拋棄ニ依ル場合ヲ除クノ外特許權カ消滅シタルトキハ原因及其ノ年月日ヲ記載シ特許權ノ表示、表示番號

第四十五條 特許權カ無効トナリタルトキハ原因及其ノ年月日ヲ記載シ特許權ノ表示、表示番號及特許番號ヲ朱抹シ登録用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四十六條 前二條ノ場合ニ於テ、其ノ特許權カ他ノ特許權ト共ニ制限附移轉ニ依ル特許權又ハ特許權以外ノ權利ノ目的タリシトキハ他ノ特許權ノ登録用紙中相當區事項欄ニ其ノ無効トナリ又ハ消滅シタル特許權ノ表示ヲ爲シ、無効トナリ又ハ消滅シタル旨、原因及其ノ年月日ヲ附記シ其ノ特許權ト共ニ制限附移轉ニ依ル特許權又ハ特許權以外ノ權利ノ目的タル旨ヲ記載シタル登録中無効トナリ又ハ消滅シタル特許權ノ表示ヲ朱抹スヘシ

號欄ニ於ケル其ノ番號ヲ朱抹スヘシ

第四十七條 異議ノ決定又ハ訴願ノ裁決ニ依リテ爲ス登録ハ表示欄又ハ相當區事項欄ニ原因及其ノ年月日ヲ記載シ其ノ登録ヲ爲シ更正又ハ變更ノ登録ニ在リテハ更正又ハ變更シタル登録ヲ朱抹スヘシ

第四十八條 特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ審判請求書受附ノ年月日、審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、審決又ハ判決アリタル旨及其ノ日附、效力又ハ範圍ニ關スル審決又ハ判決ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四十九條 特許登錄令第三條第二號ノ規定ニ依ル豫告登録ハ登録用紙中表示欄ニ之ヲ爲スヘシ但シ使用權設定ノ請求ノ審判ノ請求アリタルトキハ相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ登録ヲ爲スニハ審判請求書受附ノ年月日、審判番號及一定ノ申立又ハ抵觸番號及發明抵觸ノ査定若ハ審決ノ要旨及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第五十條 特許法第四十四條ノ規定ニ依リ特許權ヲ制限シタル場合ニ於テ其ノ登録ヲ完了シタルトキハ登録官吏ハ特許證主ニ特許證ノ提出ヲ命シ原因及其ノ年月日並制限ヲ記載シタル上之ヲ特許權者ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許證ヲ提出セサルトキハ新ニ特許證ヲ作り之ニ其ノ記載スヘキ事項ヲ記載シ之ヲ特許證主ニ下付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ新ニ特許證ヲ下付シタルトキハ舊特許證ハ之ヲ無効トス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ官報及特許公報ニ公告スヘシ

第三節 申請及囑託ニ依ル登録手續

第五十一條 登録ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ登録ヲ申請スルニ必要ナル事項ヲ記載シ登録税法第十一條第三號及第五號ノ登録ニ付テハ尙課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ

第五十二條 登録申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ契印ナキモノニ付テハ登録官吏ニ於テ契印スヘシ

第五十三條 特許登錄令第三十三條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登録濟證カ滅失シタル旨ヲ記載スヘシ

第五十四條 申請書ノ提出アリタルトキハ登録申請受附簿ニ登録ノ目的、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト看做ス

前項ノ受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ特許權ニ關シ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ登録申請受附簿ニ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登録權利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名又ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第五十六條 受附番號ハ毎年之ヲ更新スヘシ

第五十七條 登録ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

特許法第五十二條第三項ノ登録ノ申請ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第五十八條 表示欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登録ノ目的、他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ特許權ノ表示ニ關スルモノヲ記載スヘシ

事項欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、登録權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、登録原因、其ノ日附、登録ノ目的、他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ登録スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載スヘシ

特許登錄令第二十七條ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ前項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載スヘシ

代理人欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、代理人ノ氏名及住所、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他申請書ニ掲ケタル事項ニシテ代理權ニ關スルモノヲ記載スヘシ

第五十九條 假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第六十條 假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第六十一條 假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第六十二條 特許登錄令第三條第一號ニ依ル豫告登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第六十三條 登錄ノ更正、登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ權利ノ變更ノ登錄ヲ爲ストキハ更正又ハ變更シタル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第六十四條 登錄シタル質權ノ順位ヲ讓渡シ又ハ拋棄シタル場合ニ於テ變更登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ質權ノ登錄ノ順位番號ノ左側ニ變更登錄ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第六十五條 登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ特許番號、申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號及登錄濟ノ旨ヲ記載シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付スヘシ

申請書ニ添附シタル特許證、登錄濟證又ハ特許登錄令第二十三條ニ掲ケタル書面ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、登錄原因、其ノ日附、登錄ノ目的及登錄濟ノ旨ヲ記載シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登錄義務者ニ還付スヘシ但シ特許證ハ制限附移轉ニ依ル特許權以外ノ特許權移轉ノ場合ニ於テハ之ヲ登錄權利者ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登錄名義人多數ニシテ其ノ一部カ登錄義務者ナルトキハ登錄義務者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル代表者又ハ筆頭者ノミノ氏名又ハ名稱及住所並他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

特許登錄令第二十七條ノ申請ニ依ル登錄ヲ完了シタル場合ニ於テハ代位原因ヲ證スル書面ニ第一項ノ規定ニ準シ記載ヲ爲シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ第一項及第二項ノ規定ニ依リ登錄權利者ニ還付スヘキ書類ト共ニ之ヲ債權者ニ還付スヘシ

第六十六條 判決又ハ審決ニ依リ特許證主ヨリスル特許權ノ移轉實施權若ハ使用權ノ設定又ハ制限附移轉ニ依ル特許權以外ノ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定ノ登錄ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲シタルトキ特許證ノ添附ナキ場合ニ於テハ登錄官吏ハ前特許權者又ハ當該特許權者ニ特許證ノ提出ヲ命シ前條第二項以下ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ特許登錄令第四十三條又ハ第四十四條ノ登錄ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十條第二項及第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 特許登錄令第三十三條ノ場合ニ於テ登錄官吏カ登錄ヲ完了シタルトキハ特許權ノ表示登錄原因、其ノ日附、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、登錄ノ目的及登錄濟ノ旨ヲ登錄義務者又ハ其ノ一人ニ通知スヘシ

第六十八條 官廳又ハ公署カ登錄權利者ノ爲ニ登錄ヲ囑託シタル場合ニ於テ特許局ヨリ特許證又ハ登錄濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ登錄權利者ニ交付スヘシ

第六十九條 登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ回復スルニハ回復ノ登錄ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第七十條 使用權設定ノ登錄ヲ爲シタルトキハ使用ヲ要スル特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄

ニ被使用特許權ノ表示ヲ爲シ其ノ特許權カ使用權ノ目的タル旨、使用權ノ範圍其ノ他申請書ニ記載セル事項ニシテ使用權ニ關スル事項ヲ記載シ使用ヲ要スル特許證ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登錄原因及其ノ日附及第何號ノ特許權カ本特許權ノ使用權ノ目的タル旨及登錄ノ年月日ヲ記載シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付スヘシ

第七十一條 一箇ノ債權ヲ擔保スル爲數箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ヲ目的トスル債權設定ノ登錄ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ一箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ニ付登錄ヲ爲ストキハ其ノ特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ他ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利カ共ニ質權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第七十二條 前條ノ登錄アリタル場合ニ於テ其ノ一箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ヲ目的トスル質權ノ變更又ハ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ノ表示ヲ爲シ且其ノ權利ノ變更又ハ消滅シタル旨ヲ附記シ前條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登錄中變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ其ノ一箇ノ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ニ付變更ノ登錄ヲ爲シタルトキ亦同シ

第七十三條 特許登錄令第四十八條ノ規定ニ依ル登錄ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲ストキハ登錄用紙中相當區事項欄ニ權利者ノ氏名又ハ名稱及住所並何權利ノ登錄ヲ命スル裁判ニ依リテ何權利ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第七十四條 特許登錄令第四十九條ノ規定ニ依ル登錄ノ申請アリタル場合ニ於テ登錄ヲ爲ストキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 特許登錄令第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ特許權ノ表示、登錄原因、其ノ日附、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所登錄ノ目的及登錄濟ノ旨ヲ特許權者及特許權以外ノ權利者ニ通知スヘシ

第七十六條 特許登錄令第二十二條ノ規定ニ依リ官廳又ハ公署ヨリ權利移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ滯納處分ニ關スル處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ若シ其ノ權利ヲ目的トスル質權ノ登錄アルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第七十七條 特許登錄令第二十三條ノ規定ニ依リ特許權ノ收用ニ依ル特許權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テ其ノ特許權ノ登錄用紙中特許權以外ノ權利ニ關スル登錄アルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第七十八條 登錄ヲ抹消スルニハ抹消ノ登錄ヲ爲シタル後抹消スヘキ登錄ヲ朱抹スヘシ
前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登錄アルトキハ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登錄ヲ抹消スルニ依リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

追加特許權ノ拋棄ニ依ル抹消ノ登錄アリタルトキハ當該追加特許權カ附隨スル原特許權ノ登錄用紙中追加特許番號欄ノ該番號ヲ朱抹スヘシ

附則

第七十九條 本則ハ特許登錄令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十條 特許登錄令附則ノ規定ニ依リ舊特許原簿ヨリ登錄ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ舊特許原簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊特許原簿ノ相當欄ニ新特許原簿第何冊第何丁ニ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第八十一條 受附番號ハ明治四十二年分ニ限り本則施行ノ日ヨリ之ヲ起シ十二月三十一日ニ止ムヘシ

第一號樣式
(樣式)

特許 番號		表題部	甲區	乙區	丙區	丁區	代理人
表示 番號	表示欄	順位 番號	事項欄	順位 番號	事項欄	順位 番號	事項欄
共同人名欄		持分		備考		追加特許 番號欄	

第二號樣式

受附年月日	受附番號	登錄ノ目的	申請人ノ氏名又ハ名稱	備考

第三號樣式

○農商務省令第四十七號
明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム
明治四十二年十月二十六日 農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行規則

第一條 意匠ノ登録ニ關シテハ本則ニ定アルモノヲ除クノ外特許登録令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令施行規則ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ハ意匠法又ハ意匠ノ登録ニ關スル件ニ依リ準用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

第三條 意匠原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 意匠原簿ノ表題部ハ之ヲ分チテ第一區及第二區トシ第一區ニハ意匠權、第二區ニハ類似意匠ノ意匠權ニ關シ表示欄ニ記載スヘキ事項ヲ記載スヘシ

第五條 意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ意匠ヲ應用スル物品ノ類別及物品ヲ記載スヘシ

第六條 類似意匠ノ意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ最先ニ發生シタル意匠權ノ登録用紙中表示欄ニ類似意匠ナル旨及其ノ番號ヲ記載シ前條ノ規定ニ準シ登録ヲ爲スヘシ

第七條 類似意匠ノ意匠權ヲ消滅シ又ハ無効トナリタルトキハ最先ニ發生シタル意匠權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ原因ヲ記載シ消滅又ハ無効トナリタル意匠權ノ表示及表示番號ヲ朱抹スヘシ但シ最先ニ發生シタル意匠權ヲ消滅シ又ハ無効トナリタルトキハ特許登録令施行規則第四十四條乃至第四十六條ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ

第八條 意匠ヲ應用スル物品ニ依ル意匠權分割移轉ノ登録ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ特許權分割ノ許可ニ依ル登録ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙中表示欄ニ意匠權ノ表示ヲ爲ス場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ準シ尙移轉シタル意匠權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ取得者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

附則
第九條 本則ハ明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(別記様式)

登録番號		表題部		甲區		乙區		丙區		丁區		代理
表示番號	表示欄	表示番號	表示欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄	人欄

○農商務省令第四十八號
明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月二十六日 農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行規則

第一條 商標ノ登録ニ關シテハ本則ニ定アルモノヲ除クノ外特許登録令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令施行規則ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シタル特許

法又ハ特許登録令ノ條項ハ商標法又ハ商標ノ登録ニ關スル件ニ依リ準用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

第三條 商標原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 聯合商標登録番號欄ニハ其ノ登録商標ト類似スル聯合商標ノ登録番號ヲ記載スヘシ

第五條 商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ商標ヲ使用スル商品ノ類別及商品ヲ記載スヘシ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ出願シタル商標ノ商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ其ノ商標權ノ存續期間、外國登録商標タル旨及其ノ外國ニ於テ登録ヲ受ケタル年月日ヲ記載スヘシ

第六條 聯合商標ノ商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ登録番號欄ニ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ聯合商標ナル旨ヲ記載シタル上前條ノ規定ニ依リ商標權設定ノ登録ヲ爲シタル後其ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録番號ヲ記載シ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ其ノ登録番號ヲ記載スヘシ

商標權ノ設定後當該登録商標カ聯合商標トナリタルトキハ表示欄ノ商標權設定ノ登録ニ聯合商標トナリタル旨ヲ附記スヘシ

第七條 商標權存續期間更新ノ登録ハ第五條ノ規定ニ準シ之ヲ爲スヘシ

第八條 聯合商標中ノ一箇若ハ數箇ノ商標權カ消滅シ又ハ無効トナリタル爲特許登録令施行規則第四十四條又ハ第四十五條ノ規定ニ準シ登録ヲ爲シタルトキハ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ於ケル其ノ登録番號ヲ朱抹スヘシ拋棄ニ依リ抹消ノ登録アリタルトキ亦同シ

第九條 商標ヲ使用スル商品ニ依ル商標權分割移轉ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ特許權分割許可ノ登録ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙ノ表示欄ニ商標權ノ表示

ヲ爲ス場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ準シ尙移轉シタル商標權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ取得者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十條 明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件第七條第二項ノ規定ニ依リ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ變更ノ登録ヲ爲シタル後營業ヲ廢止シタル商品ヲ朱抹スヘシ

第十一條 本則ノ規定ハ標章ニ關スル登録ニ之ヲ準用ス

附則 第十二條 本則ハ明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式)

登録番號		表題部		甲區		代理人欄	聯合商標登録番號欄
番號	表示	番號	表示欄	番號	事項欄		

○農商務省令第四十九號
明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月二十六日 農商務大臣 男爵大浦兼武
明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行規則

實用新案ノ登録ニ關シテハ特許登録令施行規則ノ規定ヲ準用ス但使用權設定ノ登録ヲ爲シタルトキハ使用ヲ要スル特許權ノ登録用紙中相當區事項欄ニ被使用實用新案權ノ表示ヲ爲シ其ノ實用新案權カ使用權ノ目的タル旨、使用權ノ範圍其ノ他申請書ニ記載セル事項ニシテ使用權ニ關スル事項ヲ記載シ使用ヲ要スル特許證ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登録原因及其ノ日附及實用新案登録第何號カ使用權ノ目的タル旨及登録ノ年月日ヲ記載シ特許局ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録權利者ニ還付スヘシ

附 則

本則ハ明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
○農商務省令第五十號
特許辦理士試驗規則左ノ通相定ム
明治四十二年十月二十六日 農商務大臣 男爵大浦兼武

特許辦理士試驗規則

第一條 特許辦理士試驗ハ特許局ニ於テ特許辦理士試驗委員之ヲ行フ
第二條 試驗委員長及試驗委員ハ特許局高等官中ヨリ主務大臣之ヲ命ス

第三條 試驗委員長ハ委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 試驗ノ期日ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 特許辦理士令第四條ニ該當スル者ハ試驗ヲ受ケルコトヲ得ス

第六條 特許辦理士試驗ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ第二號書式ニ依ル履歷書ヲ添附シ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ

第七條 特許辦理士試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗手数料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

納付シタル手数料ハ願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス

第八條 特許辦理士試驗ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル法令、條約類
- 二 民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法及國際私法
- 三 數學(代數、幾何、三角術)、物理學及化學

特許辦理士試驗委員ハ前項第一號及第二號ノ科目又ハ第一號及第三號ノ科目ニ限り試験ヲ行フコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ第四條ノ公告中ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第一項第二號及第三號ノ科目ハ前項ノ場合ヲ除クノ外試験ヲ受ケムトスル者ニ於テ其ノ一ヲ選擇スルコトヲ得

第九條 特許辦理士試験ハ筆記トス

試驗委員必要ト認ムルトキハ筆記試験ニ合格シタル者ニ對シテ口述試験ヲ行フコトヲ得

第十條 不正ノ方法ニ依リ試験ニ合格シタルトキハ其ノ合格ハ無効トス

第十一條 試験合格者ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

第十二條 試験合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十三條 試驗合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

附則

第十四條 本則ハ特許辨理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許代理業者試驗規則ハ之ヲ廢止ス

(書式)

第一號書式

試驗願書(用紙美濃紙)

族籍

氏名

生年月日

現住所

氏名印

年 月 日

特許辨理士試驗委員長氏名殿

第二號書式

履歷書(用紙美濃紙)

族籍

氏名

生年月日

學 卒

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ何學校ニ於テ何學ヲ修メ又ハ何學科卒業

一何年何月何々ノ試験ヲ受ケ及第ス
其ノ證書寫別紙ノ如シ

職業

一何年何月何官職拜命或ハ何業ニ從事、現在何々、

一何々
右ノ通相違無之候也

年 月 日

現住所

氏 名 印

○農商務省令第五十一號
特許辨理士組合規則左ノ通相定ム

農商務大臣 男爵大浦兼武

特許辨理士組合規則

第一條 本則ニ於テ特許辨理士組合ト稱スルハ特許辨理士令第十六條ノ組合ヲ云フ

第二條 特許辨理士組合ハ組合員ノ風紀ヲ保持シ共同ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第三條 特許辨理士組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 特許辨理士組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組合長 一名

一 副組合長 一名若ハ二名

前項ノ外規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第五條 組合長ハ組合ノ事務ヲ掌理シ組合ヲ代表ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障アルトキハ之ヲ代理ス

副組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

第六條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
 - 二 名稱
 - 三 事務所
 - 四 組合員ノ資格及加入脱退ニ關スル規定
 - 五 役員ノ資格、權限、任期及其ノ選任或解任ニ關スル規定
 - 六 會議ニ關スル規定
 - 七 會計ニ關スル規定
 - 八 風紀保持及違約者ノ處分ニ關スル規定
 - 九 規約變更ニ關スル規定
 - 十 解散ニ關スル規定
- 第七條 主務大臣又ハ特許局長ノ諮問アルトキハ特許辦理士組合ハ之ニ答申スヘシ
- 第八條 特許辦理士組合ハ特許局ノ主管事務若ハ特許辦理士ノ業務上ノ利害ニ關シ主務大臣又ハ特許局長ニ建議スルコトヲ得
- 第九條 組合長ハ左ニ掲クル事項ヲ遲滞ナク主務大臣ニ報告スヘシ
- 一 組合員ノ加入及脱退
 - 二 役員ノ選任及解任
 - 三 違約者ノ處分
 - 四 其ノ他主務大臣ニ於テ隨時報告ヲ求ムル事項
- 附則
- 第十條 本則ハ特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 特許代理業者組合規則ハ之ヲ廢止ス

○農商務省令第五十二號

明治三十八年農商務省令第四號及第十五號左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條 特許、意匠、商標又ハ實用新案ニ關シ特許局ニ對シ左ニ掲クル請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

- 一 特許證再下付ノ請求 每一件 金二圓五十錢
- 二 追加特許證再下付ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 三 特許證差出免除ノ請求 每一件 金二圓五十錢
- 四 追加特許證差出免除ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 五 意匠登錄證再下付ノ請求 每一件 金五十錢
- 六 意匠登錄證差出免除ノ請求 每一件 金五十錢
- 七 意匠法施行細則第六條ノ規定ニ依ル請求 每一件 金五十錢
- 八 實用新案登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓
- 九 實用新案登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓
- 十 實用新案權存續期間滿了前一月以内ニ於テ爲ス實用新案權存續期間延長ノ請求 每一件 金一圓
- 十一 實用新案法施行規則第六條ノ規定ニ依ル出願變更ノ請求 每一件 金一圓
- 十二 商標登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 十三 商標登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 十四 商標權存續期間滿了前三月以内ニ於テ爲ス商標權存續期間更新ノ請求 每一件 金一圓五十錢

- 十五 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル届出 每一件 金一圓
 - 十六 期日又ハ特許法、意匠法、商標法又ハ實用新案法ニ定アル期間以外ノ期間變更ノ請求 每一件 金一圓
 - 十七 雛形又ハ見本閱覽ノ請求 每一件 金五十錢
 - 第二條 前條ノ規定ハ國ノ請求又ハ届出ニ付之ヲ適用セス
 - 第三條 第一條第五號、第六號、第十二號乃至第十五號ニ規定スル手数料ハ同一ノ物品ニ應用スル互ニ相類似スル意匠及聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
 - 第四條 手数料ハ收入印紙ヲ請求書又ハ届書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
- 附則
- 第五條 本令ハ特許法施行細則、意匠法施行細則、商標法施行細則及實用新案法施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十八年一月農商務省令第四號ハ特許意匠商標ニ關スル請求書申請書手数料同 十四日ニ同第十五號ハ實用新案ニ關シ差出又請求書ニ要スル手数料ナリ

○農商務省令第五十三號

國有林野法施行規則第七條第十號ヲ左ノ通改正ス

明治四十二年十月三十日

農商務大臣 男爵大浦兼武

耕地整理施行地區ニ編入セル林野ニ在リテハ其ノ地區内ノ土地所有者又ハ耕地整理組合

〔參照〕

農商務省令第二十五號國有林野法施行規則(明治三十二年八月三日)抄録
第七條 國有林野法第八條第四號ノ條故者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ
十 耕地整理地區ニ編入セル林野ニ在リテハ參加土地所有者

○遞信省令第四十二號

漁船検査規程左ノ通定メ明治四十二年十月十六日ヨリ施行ス

明治四十二年十月七日

遞信大臣 男爵後藤新平

漁船検査規程

第一編 總則

第一條 漁船ノ検査ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ

第二條 検査官吏漁船ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

一 第一級漁船

二 第二級漁船

三 第三級漁船

四 第四級漁船

第三條 船體要部カ本規程ニ合格スル漁船ニ於テハ左ノ標準ニ依リ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

第一級漁船	汽船	上甲板下噸數	百噸以上
	帆船	最 強 速 力	八節以上
		上甲板下噸數	三十噸以上
第二級漁船	汽船	上甲板下噸數	十五噸以上
	帆船	最 強 速 力	五節以上
		上甲板下噸數	無 制 限

第三級漁船	汽船	上甲板下噸數	同
第四級漁船	帆船	最快速力	同
		上甲板下噸數	同

船體要部ノ或部分カ本規程ニ合格セサル漁船ニ於テハ検査官吏カ航行ニ差支ナシト認ムルトキハ検査官吏ノ相當ト認ムル資格ヲ定ムヘシ

第四條 検査官吏漁船ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ左ノ標準ニ依リ船體又ハ機關ノ特別検査ノ期間ヲ定ムヘシ

船體及ヒ機關(發動機ヲ除ク)

製造後十年未満ノモノ 五年

製造後十年以上十八年未満ノモノ 四年

製造後十八年以上ノモノ 三年

製造中検査ヲ受ケ製造シタル船體又ハ機關ハ年齢十五年未満ノモノニ限リ各特別検査ノ期間ヲ一年ツツ延長スルコトヲ得

第五條 第三條ニ掲クル船體要部トハ外板、甲板、肋骨、梁及ヒ以上各部ノ固著方ヲ謂フ

第六條 漁船ノ航路制限ハ其ノ資格ニ依リ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ定ム

第一級漁船 遠洋航路、近海航路、沿海航路、平水航路

第二級漁船 近海航路、沿海航路、平水航路

第三級漁船 沿海航路、平水航路

第四級漁船 平水航路

第三級漁船ハ特ニ選信大臣ノ認可ヲ受クルトキハ季節ヲ限リ沿海航路外ノ漁場ニ航行スルコトヲ得

第七條 検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ總噸數五十噸又ハ積石數五百石未満ノ漁船ハ据船ノ上又總噸數二十噸未満ノ漁船ハ碇泊ノ儘特別検査ヲ執行スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ漁船ノ大小、年齢及ヒ現狀ニ依リ検査準備ヲ變更若ハ増減セシムルコトヲ得

第九條 漁船ノ検査ニ關シ本規程ニ規定ナキモノニ付テハ船舶検査規程、發動機船検査規程ヲ適用ス

第十條 本規程及ヒ前條ニ掲クル規程ニ規定ナキモノニ付テハ漁業ノ種類ニ依リ航行ノ適否ヲ目的トシ船體、機關、器具、船員常用室及ヒ船員ニ關スル設備ヲ検査スヘシ

第二編 船體部

第一章 船體

第十一條 上甲板下噸數二百噸以上ノ鐵製汽船及ヒ上甲板下噸數五百噸以上ノ木製汽船ニ於テハ機關室ヨリ船尾車軸管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但船尾ニ機關室ヲ有スル漁船ニシテ検査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スルモノト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁及ヒ船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ鉛板、鐵板若ハ亜鉛板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃焼ノ豫防ヲ爲スヘシ

第十三條 上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ノ縁材ハ其ノ高甲板上面ヨリ第二級漁船ニ於テハ六吋以上、第一級漁船ニ於テハ九吋以上ト爲スヘシ但直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ縁材ノ高ヲ減シ若ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第十四條 上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽罐室口ニハ甲板上面ヨリ第二級漁船ニ於テハ一呎半以上、第一級漁船ニ於テハ二呎以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窓ヲ設クヘシ

第十五條 艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ様覆布及ヒ適當ノ絨具ヲ備フ

ヘシ但検査官吏カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
暴露甲板ノ機關室口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及ヒ覆布並ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密ト爲ルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但検査官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 木製漁船

第十六條 第二數四千未満ノ漁船ニ於テハ船體ノ構造及ヒ寸法カ本章ノ定ムル所ト同一ノ強力ヲ有セサル場合ト雖モ検査官吏カ用途ニ差支ナシト認ムルトキハ第二級漁船ノ資格ヲ與フルコトヲ得

第十七條 漁船ノ内龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ寸法ト等ク爲スコトヲ得

第十八條 漁船ニ於テハ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第十九條 船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニシテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋根材ヲ連結スヘシ此ノ場合ニ於テハ内龍骨及ヒ側内厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十條 活魚船ヲ有スル漁船ニシテ縦通隔壁ヲ設クルトキハ該隔壁ノ下部ニ縦通材ヲ取附ケ之ヲ活魚船ノ前後ニ二肋骨間延長シ活魚船兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ増シ且該部外板ノ厚ヲ増ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及ヒ外板ノ幅ヲ増加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且内龍骨、側内厚板、内張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條 蒸曲肋骨ト組合肋骨トヲ混用スル漁船ニ於テハ内龍骨、側内龍骨、側内厚板、彎曲部縦通材、梁受板等ヲ貫通スル固著敲釘ハ組合肋骨間ノ距離適當ナルトキハ組合肋骨ノミヲ貫通セシムルモ妨ナシ

第二十二條 第二數四千六百未満ニシテ幅深ノ二倍二分ノ一ヲ超エサル漁船ニ於テハ側内厚板ヲ取附ケサルモ妨ナシ

第二十三條 彎曲部縦通材ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第二十四條 梁壓材ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ノ五分ノ四以上ト爲シ且梁トノ接面ニ於ケル幅ハ梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二十五條 第二數五千未満ノ漁船ニ於テハ梁受板、梁壓材、船鏢、彎曲部縦通材及ヒ側内厚板ノ接ノ長ハ用材ノ幅ノ二倍以上ト爲シ適當ノ固著釘ヲ以テ固著スヘシ

第二十六條 第二數一万未満ノ漁船ニ於テハ梁壓材ヲ以テ船鏢ヲ兼用スルコトヲ得

第二十七條 梁ノ寸法ハ乙材ヲ用井タルトキハ木船検査規程第四號表ニ據ルヘシ

汽船ノ甲板梁ノ心距ハ木船検査規程ニ定ムル肋骨ノ心距ノ二倍二分ノ一ト爲スコトヲ得但四呎ヲ超過スヘカラス

甲板梁ノ心距木規程ニ定ムル心距ヨリ小ナルトキハ心距ノ割合ニ應シ梁ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ増ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第二十八條 木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深ノ和每一呎半ニ付一平方呎ノ割合ト爲スヘシ

第二十九條 深五呎未満ノ漁船ニ於テハ船首肘材ノ數ハ一箇ト爲シ船尾肘材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十條 第二數四千四百未満ノ漁船ニ於テハ汽機室口、汽罐室口、長五呎以上ノ艙口兩端梁及ヒ檣ノ前後ノ梁ノ外梁曲材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 第三十一條 第二敷一万二千五百未満ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ニ用ウル敲釘ハ外板迄貫通セシムルヲ要セス
- 第三十二條 第二敷四千未満ノ漁船ニ於テハ内張板ヲ設クルコトヲ要セス又第二敷八千五百未満ノ漁船ニ於テ外板ノ厚ヲ増シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ増ストキハ内張板ヲ設クルコトヲ要セス
- 第三十三條 第二敷二万五千未満ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ設クルコトヲ要セス
- 第三十四條 長深ノ八倍ヲ超ユルカ又長幅ノ五倍ヲ超ユル漁船ニ於テハ梁壓材及ヒ舷側厚板ハ十分ノ一以上内龍骨ハ五分ノ一以上適當比例ニ從ヒ適當ニ其ノ截面ヲ増スカ若ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ
- 第三十五條 低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及ヒ上甲板ノ梁壓材並ニ梁受材又ハ梁受板ハ第二敷八千八百未満ナルトキハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、第二敷四千二百未満ナルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以上相累ヌヘシ
- 第三十六條 漁船ノ汽機室口及ヒ汽罐室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張ルヲ要セス且第二敷八千五百未満ノ漁船ニ於テハ汽機室口及ヒ汽罐室口ノ半梁ニ附スル橫梁曲材ハ適當ニ其ノ敷ヲ減スルコトヲ得
- 第三十七條 長十呎未満ノ機關室口ニハ木船検査規程第十五章第八條ニ規定スル構造ヲ爲ササルモ妨ナシ
- 第三十八條 彎曲部縱通材ノ各材ノ幅五吋未満ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著スルコトヲ得
- 第三十九條 梁受材又ハ梁受板ノ幅七吋未満ナルトキハ肋骨毎ニ敲釘一箇ヲ以テ固著スルコトヲ得
- 第四十條 内部腰板及ヒ各層梁ノ副梁受板ノ固著敲釘ハ外板迄貫通セサルモ妨ナシ

- 第四十一條 第二敷五千未満ノ漁船ニ於テハ船鏝ト舷側厚板トノ固著ニ打込釘ノミヲ用ウルコトヲ得
 - 第四十二條 梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ五箇迄減スルコトヲ得
 - 第四十三條 外板ハ其ノ幅八吋半未満ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋半以上十吋半未満ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋半以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但外板ノ幅十吋半以上ナルトキト雖モ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル漁船及ヒ肋骨毎ニ木釘ヲ用ウル漁船ニ於テハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルモ妨ナシ
 - 第四十四條 漁船ノ舵心材ノ寸法ハ検査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減スルコトヲ得
 - 第四十五條 第二敷五千未満ノ漁船ニ於テハ船底包板ハ最大喫水線上六吋ノ所迄強詰ムルモ妨ナシ
 - 第四十六條 漁船ノ「シッブーム」「フライイング」「シッブーム」「ブーム」ノ徑ハ長九呎ニ付二吋「スクーナー」ノ「ガフ」ノ徑ハ長五呎ニ付二吋ト爲スコトヲ得
- 第三章 鐵製漁船
- 第四十七條 第二級漁船ニシテ漁業上輕快ナル動作ヲ要スル漁船ニ於テハ第二敷六千未満ノモノニ限リ検査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スルト認ムルトキハ左ノ規定ニ從ヒ各部ノ寸法ヲ輕減スルコトヲ得
 - 一 正肋材及ヒ副肋材ノ横邊ノ幅ヲ各二分ノ一吋減少シ且肋骨ノ心距ヲ二十四吋迄ニ爲スコト
 - 二 船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニ於テ肋板ノ高又ハ厚ヲ増加スルトキハ二箇ノ内龍骨用山形材ヲ以テ中心線内龍骨ヲ構成スルコト
 - 三 梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト等クシ又梁上側板、梁上帶板、梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ヲ鐵鋼船検査規程ニ定ムル寸法ノ四分ノ一以內輕減スルコト

四 舵心材及ヒ舵針ノ寸法ハ検査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減スルコト
第四章 屬具

第四十八條 近海航路以上ノ帆船ニハ左ノ豫備帆ヲ備フヘシ

横帆ヲ備ヘサル船	スクーナー	フオールステール	一箇
	カッター、ケツ	フオール	一箇
	チ、スルー、プ	フオールステール	一箇
	ラッガー	フオール	一箇
横帆ヲ備フル船		フオール又ハメインスル	一箇
		フオールステール	一箇
		トップスル	一箇

第四十九條 總噸數三十噸以上若ハ積石數三百石以上ニシテ沿海航路以上ノ漁船ニハ其ノ噸數及ヒ業務ノ種類ニ應シ左ノ規定ニ從ヒ第一號表ニ據リ漁艇ヲ備フヘシ此ノ場合ニ於テハ船舶検査規程ニ定ムル端艇ヲ備フルコトヲ要セス

- 一 漁艇ニハ船首其ノ他見易キ場所ニ其ノ容積、船名及ヒ船籍港ヲ表示スヘシ
- 二 漁艇ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ權權架、放水口ノ栓、塗杓及ヒ鉤竿各一箇以上ヲ備フヘシ
- 三 漁艇ニハ適當ナル揚卸装置ヲ備フヘシ但容積百立方呎未満ノ漁艇ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

第五十條 屬具ハ第二號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第五章 船員常用室

第五十一條 近海航路以上ノ漁船ノ船員常用室ハ検査官吏ノ適當ト認ムル場所ニ設クルコトヲ得
第五十二條 近海航路以上ノ鰹釣漁船ニ於テハ船員總數ノ三分ノ一カ必要ノ場合ニ於テ休息ヲ得

ヘキ船室ヲ甲板下ニ有スルトキハ別ニ船員常用室ヲ設ケサルモ妨ナシ

第五十三條 近海航路以上ノ漁船ノ船員常用室ニハ適當ノ通風管ヲ設ケ其ノ截面ハ船員常用室ノ定員一人ニ付二平方呎半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十四條 近海航路以上ノ漁船ノ船員定員ヲ算出スルニハ船員室ノ容積及ヒ面積ヲ漁船ノ航路定限ニ應シ船舶検査法施行細則附錄旅客定員算出表ニ規定スル三等旅客定員一人分最小容積及ヒ面積ヲ以テ除去シ其ノ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ少數ヲ以テ該室ノ船員定員ト爲スヘシ

第三編 機關部

第一章 汽機、汽罐及ヒ發動機

第五十五條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

- 一 汽機ノ汽筒、冷汽器、唧筒、船尾管等ノ仕上ヲ了リタルトキ及ヒ諸軸諸錐ノ粗削ヲ爲シタルトキ
 - 二 汽罐各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ
 - 三 發動機ノ氣筒吸鏢、諸軸諸錐、諸瓣及ヒ推進器逆轉機又ハ推進器轉翅機ノ仕上ヲ了リタルトキ
 - 四 瓦斯發生爐及ヒ瓦斯洗滌器ノ組立ヲ了リタルトキ
 - 五 水壓試驗執行ノトキ
 - 六 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ
- 第五十六條 汽筒ハ之ヲ新製シタルトキ、大修繕ヲ行ヒタルトキ又ハ其ノ現状ニ依リ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶検査規程第一百一條ニ定ムル水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

第五十七條 機關検査規程第三章第一條乃至第十二條、第十六條、第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ之ヲ漁船ノ機關ニ適用セス

第二章 唧筒、瓣、管子、管及ヒ器具等

第五十八條 機關室ニハ正給水唧筒及ヒ正給水唧筒各一箇ヲ備フヘシ

第五十九條 上甲板下ノ噸數百噸未満ノ近海航路以上ノ漁船ニ於テハ船舶検査規程第百十五條ノ裝置ヲ備フルヲ要セス

第六十條 器具ハ第三號表及ヒ第四號表ニ據リ之ヲ備フヘシ但平水航路ノ漁船ニ於テハ汽船ニ在リテハ船舶検査規程第八號表、發動機船ニ在リテハ發動機船検査規程別表ニ據ルヘシ

第一號表

漁艇表		總噸數	最少艇數	一隻ノ最小容積	備	要
三十噸以上五十噸未満	一	七十立方呎	一	一	腰虎、腰胴獸獵船ハ二隻以上ヲ要ス	
五十噸以上百噸未満	一	八十立方呎	一	一	腰虎、腰胴獸獵船ハ四隻以上、旋網帆船ハ二隻以上ヲ要ス	
百噸以上二百噸未満	一	八十立方呎	一	一	腰虎、腰胴獸獵船及ヒ旋網帆船ハ二隻以上、延繩帆船ハ三隻以上、腰胴獸獵船ハ五隻以上ヲ要ス	
二百噸以上三百噸未満	一	八十立方呎	一	一	一本釣帆船ハ三隻以上、腰胴獸獵船及ヒ延繩帆船ハ四隻以上、腰胴獸獵船ハ六隻以上ヲ要ス又腰胴獸獵船ハ一隻ニ減スルコトヲ得此ノ場合ニハ漁艇ノ容積ヲ適當ニ増スヘシ	
三百噸以上四百噸未満	一	九十五立方呎	一	一		
四百噸以上五百噸未満	一	二百二十五立方呎	一	一		
五百噸以上	一	三百五十立方呎	一	一		

備考 旋網帆船及ヒ腰胴獸獵船ニ於テハ各艇ノ容積百五十立方呎以上ナルヲ要ス 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ積石數十石ヲ總噸數一噸ニ換算シテ本表ヲ適用ス

第二號表

船體部屬具表

名	航路定限				救命浮環	救命燈	積燈	舷燈	碇泊燈	漁業燈	紅燈	黒球	火箭若ハ星火ヲ發スル榴彈	霧中號角	號鐘	國旗	信號旗
	汽船	帆船	汽船	帆船													
汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船
汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船
汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船	帆船

總噸數百五十噸未満及ヒ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶及ヒ總噸數五十噸未満ノ汽船ニハNC旗ノミヲ備フルヲ要ス但NC旗ノミヲ備フル船舶ト雖モ信號旗ノ點附アルモノハ其ノ符號ニ對スル信號旗ヲ備フヘシ

信 號 書	船 名 録	時 計	羅 針 盤	時 辰 儀	六 分 儀	手 用 測 程 具	砂 漏 計	手 用 測 鉛	晴 雨 計	寒 暖 計	雙 眼 鏡	航 海 曆	消 防 用 手 桶	斧
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第三號表

名 稱	機 關 屬 具 表		數	備 考
	遠洋航路	近海航路以下		
吸 罈 彈 環	各吸罈一組	各吸罈一組	1	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得又機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
吸 罈 發 條	各吸罈一組	各吸罈一組	1	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルモ妨ナシ
吸 罈 釘 及 ヒ 母 螺	各付一組	各付一組	1	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
滑 艇	各付一箇宛	各付一箇宛	1	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
接 續 鉚 上 下 ノ 螺 釘	上下各一組	上下各一組	1	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
主 軸 受 螺 釘 及 ヒ 母 螺	一 組	一 組	1	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
接 軸 螺 螺 釘 及 ヒ 母 螺	一 組	一 組	1	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
冷 汽 管 煖 箱	總數ノ三十分	總數ノ三十分	1	但十本ヲ最少ノ限度トス
冷 汽 管 煖 箱	總數ノ二十分	總數ノ二十分	1	但三十箇ヲ最少ノ限度トス
排 氣 唧 筒 瓣	一 組	一 組	1	單瓣裝置ナルトキ
排 氣 唧 筒 瓣	半 組	半 組	1	多瓣裝置ナルトキ
循 環 唧 筒 瓣	一 組	一 組	1	單瓣裝置ナルトキ
循 環 唧 筒 瓣	半 組	半 組	1	多瓣裝置ナルトキ
給 水 唧 筒 瓣 及 ヒ 座	一 組	一 組	1	多瓣裝置ナルトキ
給 水 唧 筒 瓣 及 ヒ 座	二 組	二 組	1	多瓣裝置ナルトキ

鋼限機及ヒ座	一組	上	金屬製ナルトキ
海水唧筒機及ヒ座	一組	上	監製製ナルトキ
安全舞發條	一箇	上	但四箇ヲ最少ノ限度トス
火床架	總數ノ五分ノ	上	
水器硝子	各罐ニ付四箇	上	
管換器	一箇	上	
管塞器	八箇	上	但内半數ハ汽鑪前面ニ於テ直ニ使用シ得ヘキモノナルヲ要ス
滑車及ヒ帆	一組	上	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
螺旋切道具	一組	上	
鐘孔器	一箇	上	
掃附萬力	一箇	上	
鐵板	若干	上	
鐵棒	若干	上	
螺釘及ヒ母螺	若干	上	
機關室用小道具	一揃	上	
磁器	一箇	上	

寒 暖 計 一 箇 同 上

第四號表

備考 汽機ニ至以上ヲ備フルモノニ在リテハ表中ノ吸錘彈環乃至海水唧筒機及ヒ座ハ汽機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

發動機器具表

名稱	種類	電氣點火式	火管點火式	自然點火式
吸入	吸錘彈環	氣筒二箇每ニ一組	同	同
排出	吸錘	氣筒二箇每ニ一箇	同	同
發條	各種一揃	同	同	同
給油唧筒機	給油唧筒一箇每ニ一組	同	同	同
冷箱唧筒機	氣筒二箇每ニ一組	同	同	同
點火器	—	氣筒一箇每ニ二箇	同	同
電氣點火器	氣筒二箇每ニ一箇	—	氣筒一箇每ニ一箇	—
發電機	一箇	—	—	—
電池	四箇	—	—	—
起動用燈	氣筒一箇每ニ一箇	同	同	同
同	燈一箇每ニ一箇	同	同	同

接續、鉸上下螺釘	一組 同	上 同
螺釘及ヒ母螺	各種 若干 同	上 同
機關室用小道具	一揃 同	上 同

○遞信省令第四十三號

明治三十三年十月十二日 遞信省令第八十七號船舶検査法施行細則中左ノ通改正シ明治四十二年十月十六日ヨリ施行ス

明治四十二年十月七日

遞信大臣 男爵後藤新平

第十四條第一項第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

六 業務種類(漁船ニ在リテハ)

第二十六條ニ左ノ三項ヲ加フ

漁船ニハ甲種船舶検査證書ニ代ヘテ漁船検査證書ヲ交付ス

漁船検査證書ハ第一號ノ二書式ニ依ル

漁船ト稱スルハ漁獵ニノミ從事スル船舶及ヒ専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶ヲ謂フ

第三十八條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

四 漁船検査證書ヲ受有スル船舶カ第二十六條第六項ニ該當セサルニ至リタルトキ

第一號ノ二書式(並九寸横一尺三寸)

第 號

漁 船 檢 査 證 書

本船番號	船名	航路	航期	船員定員	船長	信符號	船籍	港名	所有者	汽機種類	汽鍋種類	汽壓	汽艇數	業務種類

右検査ヲ遂ケ船舶検査法第六條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス
明治 年 月 日
管海官廳名印

○遞信省令第四十四號

明治三十三年十月十二日 遞信省令第八十八號船舶検査規程中左ノ通改正シ明治四十二年十月十六日ヨリ施行ス

明治四十二年十月七日

遞信大臣 男爵後藤新平

第二十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
 第二十三條ノ二 漁船ノ検査ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル
 ○逓信省令第四十五號
 私製葉書製式規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月十三日

逓信大臣 男爵後藤新平

私製葉書製式規則

- 第一條 郵便規則第十八條ノ私製葉書製式ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 私製葉書ノ表面ニハ其ノ上部又ハ側部ノ中央ニ郵便葉書タルコトヲ表示スヘキ本邦又ハ外國ノ文字ヲ明瞭ニ印刷又ハ筆書スヘシ但シ之ヲ併記スルモ妨ケナシ
- 第三條 私製葉書ノ表面ニハ宛名ノ記入ヲ妨ケサル限リ左ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得
 - 一 「萬國郵便聯合」ノ文字
 - 二 郵便葉書表面ノ記載方及郵便切手貼附方ノ注意文
 - 三 發行所、賣捌店ノ所在、名稱
 - 四 模様付輪廓但シ廣告文等或ル意味ヲ成ス文字ヲ用ユルコトヲ得ス
- 前項第一號乃至第三號ノ文字ノ種類ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 私製葉書ハ縦四寸五分以上四寸七分以内横二寸八分以上三寸以内トシ其ノ厚サハ政府發行ノ郵便葉書ヲ以テ標準トス
- 私製葉書ノ重量ハ一枚八分ヲ以テ標準トス
- 第五條 私製葉書ハ強靱ニシテ曲折ノ虞ナク且政府發行ノ郵便葉書ト同質以上ノ紙タルコトヲ要ス

寫眞又ハ裝飾トシテ薄キ紙片、織物若ハ木羽ノ全面ヲ紙ニ密著セシメ之ヲ裏面トシタルモノハ容易ニ剝脱毀損ノ虞ナク且前項ノ主旨ニ抵觸セサル限リ之ヲ私製葉書ト爲スコトヲ得

- 第六條 透シ又ハ浮出ノ文字、畫紋ハ宛名ノ記入ニ妨ケナク且前條第一項ノ主旨ニ抵觸セサル限リ之ヲ施スコトヲ得
- 第七條 私製葉書表面ノ色合ハ白色又ハ他ノ淡色タルコトヲ要ス
- 第八條 私製葉書ニハ他ノ郵便物ヲ汚斑スヘキ著色ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 本規則ノ規定ニ違背シタル私製葉書ハ第八條ノ場合ヲ除クノ外第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二條ノ表示ナキモノハ實物ニ就キ種類相當ノ取扱ヲ爲ス

附則

第十條 本規則ハ明治四十二年十月二十一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十六年十月十二日 逓信省令第六十一號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十六年十月十二日 逓信省令第六十一號ハ本號ト同伴ナリ
 ○逓信省令第四十六號
 通常郵便物市内特別取扱規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月二十日

逓信大臣 男爵後藤新平

通常郵便物市内特別取扱規則

- 第一條 同一郵便區市内ニ發著スル左ノ郵便物ヲ同時ニ百箇以上差出ストキハ本規則ノ定ムル所ニ依リ市内特別取扱ト爲スコトヲ得
- 一 全部又ハ大部分ヲ印刷シタル同文ノ有封又ハ無封書狀但シ有封書狀ニハ其ノ全部ニ對シ同

様ニ返信用ノ郵便葉書、郵便切手、封筒又ハ印刷シタル各種ノ用紙並之ニ必要ナル收入印紙ヲ封入スル場合ニ限り之カ添附ヲ妨ケス

二 同一内容ノ第三種及第四種郵便物

連接スル數箇ノ郵便區市内ハ之ヲ前項ノ同一郵便區市内ト看做ス

第二條 市内特別取扱郵便物ノ料金左ノ如シ

一 有封同文書狀 一箇ニ付 重量四匁迄金一錢五厘四匁以上ハ四匁迄毎ニ金一錢ヲ加フ

二 無封同文書狀 一箇ニ付 重量十匁迄金一錢五厘十匁以上ハ十匁迄毎ニ金一錢ヲ加フ

三 第三種郵便物 一箇ニ付 重量二十匁迄金四厘二十匁以上ハ二十匁迄毎ニ金三厘ヲ加フ

四 第四種郵便物 一箇ニ付 重量三十匁迄金六厘三十匁以上ハ三十匁迄毎ニ金五厘ヲ加フ

第三種及第四種市内特別取扱郵便物ニシテ別ニ定ムル原簿配達ノ方法ニ依ルモノハ前項ノ外百箇迄金五錢百一箇以上ハ十箇迄毎ニ金五厘ヲ加ヘ徵收ス

第三種及第四種市内特別取扱郵便物料金切手徵收ノ際六厘以上一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ五厘トシテ計算シ五厘未滿ノトキハ之ヲ切捨ツ

第三條 市内特別取扱郵便物ハ約束郵便ニ依ルモノノ外料金前納トス

第四條 市内特別取扱郵便物ハ約束郵便以外ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第五條 有封同文書狀ハ差出ノ際郵便局ニ其ノ見本一箇ヲ提出スヘシ

同文書狀ハ取扱中之ヲ開披點檢スルコトアルヘシ

第六條 第三種及第四種市内特別取扱郵便物ニシテ原簿配達ノ方法ニ依ルモノニハ受取人宿所氏名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ郵便物ニハ郵便局ニ於テ受取人ノ氏名ヲ記入スルコトアルヘシ

第七條 市内特別取扱郵便物ハ其ノ表面看易キ場所ニ「市内特別」ノ文字ヲ表記スヘシ但シ原簿配達ノ方法ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 市内特別取扱郵便物ハ所轄一等郵便局ノ指定スル郵便局ニ差出スヘシ

第九條 市内特別取扱郵便物ニシテ約束郵便ニ依ラサルモノハ箇數ヲ記載シタル適宜ノ用紙ニ料金相當ノ郵便切手ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

第十條 市内特別取扱郵便物ニハ郵便日附印ノ押捺ヲ省略スルコトアルヘシ

第十一條 市内特別取扱郵便物ニシテ第一條ノ區域内ニ於テ配達ヲ了シ能ハサルモノハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十二條 市内特別取扱トシテ差出タル郵便物中内容ノ異ナリタルモノアルトキハ之ヲ差出人ニ還付シ其ノ郵便物ノ全部ニ對シ更ニ差出人ヨリ一般郵便料金ノ二倍ニ對スル不足額ヲ徵收ス

第十三條 市内特別取扱郵便物ハ十二月十五日ヨリ翌年一月十日迄之カ取扱ヲ爲サス但シ差出郵便局ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本規則ニ定ムル事項ノ外ハ一般ノ規定ニ依ル

附則

本規則ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第四十七號

明治四十年ハ逓信省令第三十五號第三種郵便物認可規則中左ノ通改正シ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十日

第四條ヲ第四條ノ一トシ其ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ定期刊行物發行ノ際之

逓信大臣 男爵後藤新平

明治四十二年十月 省令 逓信省第四十七號

五五三

ヲ差出スヘキ郵便局ノ郵便物ノ集配事務ヲ豫メ發行地所轄一等郵便局ニ届出ツヘシ、之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條中「許可」ヲ「認可」ニ改ム
第七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ手数料ハ郵便局ノ指示ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第八條本文中「ニシテ」ヲ「並其ノ發行人」ニ改メ、第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

二 第四條ノ二ノ届出ヲ怠リタルトキ

第九條ヲ第九條ノ一トシ本條中「第四條第二項」ヲ「第四條ノ一第二項」ニ改メ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第九條ノ二 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケサル刊行物ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタルコトヲ表示スヘキ文字ヲ印刷シタルトキハ發行人ヲ百圓以内ノ罰金ニ處ス

〔參照〕

逓信省令第三十五號第三種郵便物認可規則(明治四十年八月十七日)抄録

- 第六條 第三條第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ發行人ヨリ發行地所轄ノ一等郵便局ニ届出テ其ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ發行人ヲ變更セムトスルトキハ新舊發行人連署スヘシ若舊發行人連署スルトキハハサルトキハ其ノ事由ヲ願書ニ證明スヘシ
- 第三條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ廢刊、休刊、發行禁止ノトキハ其ノ發行人ヨリ三日以内ニ發行地所轄ノ一等郵便局ニ届出ツヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ發行所ヲ他ノ一等郵便局ノ所轄區内ニ移轉セムトスルトキハ認可ヲ受ケタル一等郵便局ヲ經由シ移轉先ヲ所轄スル一等郵便局ニ届出テ其ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 第三條及前條第一項及第三項ノ出願人ハ左記ノ割合ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ
 - 一 新ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスルトキ又ハ第三條中二事項以上變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金十圓
 - 二 第三條中其ノ一事項ニ對シ變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金五圓
- 前項ノ手数料ハ郵便切手ヲ用井願書ニ貼附スヘシ若認可セザルトキハ之ヲ還付ス

第八條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物及其ノ臨時増刊ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ認可ヲ取消スヘシ

- 一 第二條各號ノ條件ヲ缺キタルトキ
- 二 第五條見本ノ差出ヲ怠リタルトキ
- 三 第六條ノ手續ヲ怠リタルトキ
- 四 届出ノ事項ト其ノ事實ト相違アルトキ

○逓信省令第四十八號

明治三十五年八月逓信省令第三十六號電氣事業取締規則中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

逓信大臣 男爵後藤新平

明治四十二年十月二十五日

一 第一百十五條ニ左ノ一項ヲ加フ
第三十四條ニ依ル工事落成届ハ第一項ニ依ラス直接電報又ハ電話ニ依リ届出ツルコトヲ得但シ同時ニ其旨ヲ地方廳ニ申報スルコトヲ要ス

○逓信省令第四十九號

明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則中左ノ通改正ス

逓信大臣 男爵後藤新平

明治四十二年十月二十七日

第一條第二號ヲ左ノ如ク改ム
二 爆發性、發火性其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件但シ爆發性、發火性以外ノ藥品及生活セル病原菌並病原菌含有ノ疑アル検査材料ニシテ別ニ定ムル所ニ依リ特別ノ包裝ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 郵便物ノ包裝方ハ別ニ之ヲ定ム
第十三條 削除

第六十五條ノ二 廣告郵便物ノ料金ハ百通又ハ其ノ端數毎ニ同一郵便區内ハ金五錢同一郵便區外ハ金十二錢トス同時ニ三千一通以上ヲ差出ストキハ三千一通分ヨリハ百通又ハ其ノ端數毎ニ同一郵便區内ハ金四錢同一郵便區外ハ金十錢トス

第六十五條ノ三ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第六十五條ノ四ヲ第六十五條ノ五ニ改メ以下順次繰下ク
第六十五條ノ四 廣告郵便物ニハ看易キ場所ニ「廣告郵便」ノ文字ヲ表記スヘシ
第七十二條ノ一第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
連接スル數箇郵便區市内ハ第一項ノ同一郵便區ト看做ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

逓信省令第四十二號郵便規則(明治三十三年九月一日)抄錄

第一條 左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス

一 爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件

第十二條 郵便物ハ其ノ品質、形狀ニ應シ危險損害若ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第六十五條ノ二 廣告郵便物ノ料金ハ百通又ハ其ノ端數毎ニ同一郵便區内ハ金二十錢同一郵便區外ハ金三十錢トス

○逓信省令第五十號

郵便物包裝規則左ノ通相定ム

逓信大臣 男爵後藤新平

明治四十二年十月二十七日

郵便物包裝規則

第一條 郵便規則第十二條ニ依ル郵便物ノ包裝ハ特ニ定ムル場合ノ外本規則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 郵便物ハ其ノ遞送距離、容積、重量及内品ノ性質等ニ應シ摩擦、壓迫、動搖、乾燥、浸濕等ニ

耐ニ内容ヲ保護シ且他ニ損傷ヲ與ヘサル様適當ニ之ヲ包裝スヘシ

第三條 無封書狀定期刊行物、書籍、印刷物、業務用書類、寫真、書、畫、圖ハ開封ト爲シ又ハ帶紙若ハ紐等ヲ以テ結束シ商品見本及雛形、博物學上ノ標本、農產物種子ハ開閉自在ナル箱又ハ囊ニ納ムル等容易ニ内容ヲ検査シ得ヘキ様包裝スヘシ但シ蠶種ハ郵便局ノ承認ヲ受ケ之ヲ密閉スルコトヲ得

第四條 小包郵便物ハ強靱ナル紙若ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ包ミ又ハ箱若ハ罐等ニ入レ毀損セサル様包裝スヘシ但シ品質形狀ニ依リ其ノ儘第二條ノ目的ヲ達シ得ヘキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ妨ケス

同一郵便區市内ニ發著スル價格表記以外ノ小包郵便物ニシテ取扱上差支ナキモノハ適當ニ之ヲ結束シ其ノ他ノ包裝ヲ省略スルコトヲ得

數箇連接シタル郵便區市内ハ前項ノ同一郵便區市内ト看做ス

第五條 郵便物ノ保護ニ關シテハ前各條ニ依ルノ外包装上尙左ノ事項ニ注意スヘシ

一 帶紙ハ遞送中最モ損傷シ易キニ依リ特ニ紙質ノ強靱ナルモノヲ使用スルコト

二 臺紙ナキ寫真、書、畫、圖等ニシテ平面ノ儘ナルモノハ厚紙又ハ板等ニ挟ミテ差出スコト

三 二箇以上ノ物件ヲ合裝スルトキ又ハ郵便物自體ノ重量ニ依リ包裝ヲ破損シ脫離スルノ虞アルモノハ麻絲等ヲ以テ十字形ニ結束スルコト

四 汽車ノ便ナキ陸路又ハ水路ヲ經テ遠隔ノ地ニ達スヘキ郵便物ハ特ニ堅固ニ包裝スルコト

第六條 價格表記郵便物ハ其ノ封シ目ニ別ニ定ムル價格表記郵便物封緘紙ヲ貼附シ其ノ封緘紙ト

封皮トニ掛ケテ鮮明ニ封印スヘシ

第七條 通貨ヲ封入スル價格表記通常郵便物ハ適當ニ包裝シ尙之ヲ別ニ定ムル價格表記郵便物封

皮ニ納ムヘシ

第八條 鋒刃其ノ他之ニ類スル物件ハ適當ノ鞘ニ藏メ又ハ其ノ危險ノ部分ヲ覆ヒテ之ヲ箱ニ藏ムル等外覆ヲ毀損セサル様包裝スヘシ

第九條 流動體又ハ熔融若ハ潮解シ易キ物及臭氣ヲ發スヘキ物件ハ之ヲ壘又ハ罐ニ入レ樹脂又ハ錫蠟ノ類ヲ以テ密封シ更ニ之ヲ適當ノ箱ニ藏ムヘシ
容易ニ熔融又ハ潮解セサルモ尙熔融若ハ潮解シ又ハ他物ヲ浸潤スヘキ虞アル物件ハ防水布又ハ溢紙ノ類ヲ以テ適當ニ之ヲ包裝スヘシ

第十條 危險性ノ藥品ハ官公署、軍隊、海軍艦船、軍需、醫師、齒科醫師、獸醫、藥劑師、製藥者若ハ藥種商又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外尙左記各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得但シ爆發性及發炎性ノ藥品ハ此ノ限ニ在ラス

一 藥品ノ種類ニ應シ一定ノ容器ニ藏メ内品ノ漏出ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲スコト
二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル様堅固ナル箱ニ納ムヘキコト
三 内器ノ動搖ヲ防ク爲容器ト外箱トノ間隙ニ綿又ハ之ニ代ルヘキモノヲ填充スルコト
四 二種以上ノ藥品ヲ合裝セサルコト

第十一條 生活セル病原菌及病原菌含有ノ疑アル検査材料ハ官公署、官許ヲ受ケタル細菌検査所、醫師、獸醫又ハ特別ノ規定ニ依リ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ニ限り前各條ニ依ルノ外尙左記各號ノ包裝ヲ爲シ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得

一 少許ノ分量ヲ一定ノ硝子壘又ハ硝子管ニ納メ護謨栓ヲ施シ蓋帽ヲ以テ該栓ヲ固定シ又ハ管口ヲ溶閉シ内容ノ漏出ヲ防クコト
二 前號ノ容器ハ外部ノ壓力ニ耐ユル様綿其ノ他ノ柔軟ナル物體ヲ以テ之ヲ被包シ鐵葉製又ハ金屬製ノ罐ニ入レ密封シ更ニ之ヲ堅固ナル箱ニ藏ムルコト
三 内容ノ動搖ヲ防キ且万一破損スルモ其ノ液體ヲ吸收セシムル爲前號ノ罐ト箱トノ間隙ニ適當ノ綿又ハ之ニ代ルヘキモノヲ填充スルコト

第十二條 第十條及第十一條ノ郵便物ニハ其ノ表面看易キ場所ニ「危險物」ト朱書シ且差出人ノ資格ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年十一月十二日逓信省令第五十七號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十四年十一月十二日逓信省令第五十七號ハ本號ト同伴ナリ

○逓信省令第五十一號

特許審判書類特別取扱郵便規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月二十七日

逓信大臣 男爵後藤新平

特許審判書類特別取扱郵便規則

第一條 特許局ニ於テ特許法、意匠法、商標法及實用新案法ニ依ル左ノ書類以下單ニ審判書類ト稱スヲ郵便ニ依リ送達セムトスルトキハ其取扱ハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一 審判、抗告審判又ハ權利確認ノ査定ニ關スル書類
二 前號書類ノ外査定書其ノ他期日若ハ期間ノ定アルモノ又ハ特許法第四十四條、實用新案法第二十條ニ依ル處分書

第二條 審判書類特別取扱料金ハ通常郵便物料金ノ外尙左ノ如シ

前條第一號ノ書類 一箇ニ付金十二錢

前條第二號ノ書類 一箇ニ付金十錢

第三條 審判書類特別取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ前納ニ限ル

第四條 審判書類ニハ其ノ表面看易キ場所ニ「第一號審判書類」又ハ「第二號審判書類」ノ文字ヲ記載シ差出月日及名宛ヲ記載シタル審判書類送付簿ヲ添ヘ之ヲ郵便局ニ差出スヘシ

郵便局ハ引受ノ際前項ノ送付簿ニ受領印ヲ捺捺シ該郵便物受領證トシテ之ヲ差出人ニ還付ス

第一號審判書類ヲ郵便局ニ差出ス場合ニ於テハ尙該書類送達書用紙及送達告知書用紙ヲ添付スヘシ

第五條 第一號審判書類ヲ配達シタルトキハ受取人ヲシテ送達書用紙ニ受領證印セシメ若シ代人之ヲ受取ルトキハ代人タル資格及氏名ヲ記入證印セシメ之ヲ差出人ニ送付ス

第六條 第一號審判書類ノ配達ニ關シテハ民事訴訟法第四百四十四條乃至第四百四十九條及第五百十一條第一項第二項ノ規定ヲ準用ス

第七條 第一號審判書類ノ還付ニ關シテハ郵便規則第四十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條 第二號審判書類ハ書留通常郵便物ノ配達證明ト同一ノ取扱ヲナス但シ受取人法律上ノ理由ヲシテ受取ヲ拒ミ又ハ配達證ニ受領證印ヲ拒ミタルトキハ其ノ書類ヲ宛所ニ差置キ其ノ事由ヲ配達證明書ニ記入ス

第九條 本規則ニ定ムル事項ノ外ハ一般ノ規定ニ依ル

附 則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ施行ス

○宮内省令第四號

勅任待遇委任待遇宮内職員職制中勅裁ヲ經テ左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十日

宮内大臣 公爵岩倉具定

第三條ノ二 主馬寮ニ主馬寮勤務ヲ置ク

主馬寮勤務ハ一人委任待遇トス寮務ヲ佐ク

第七條第一項中「侍從職出仕」ノ下ニ「主馬寮勤務」ヲ加ヘ第二號「侍從職出仕」ノ次ニ「主馬寮勤務千六百圓以下」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

宮内省令第五號勅任待遇委任待遇宮内職員職制(明治四十年十一月一日)抄録

第七條第一項

侍從職勤務侍從職出仕及御用掛ノ俸給ハ年俸トシテ左ノ定限ニ依ル

○内務省令第二十二號

明治三十九年^七内務省令第二十一號第三改正日本藥局方中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月二十日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

硼酸ノ條中「熔融」次ニ「膨起」ヲ「膨起」次ニ「熔融」ニ改ム

磷酸ノ條中「本品ニ硫化水素水ヲ和スルニ變色セス」ヲ「本品ニ硫化水素水ヲ和スルニ變化セス」ニ改ム

含水ヲノリン」ノ條中「其減失量二十六分ニ過ク可カラス」ヲ「其減失量百分ニ付キ二十六分ニ過ク可

カラス」ニ改ム

純アルコホルノ條中「硝酸銀溶液五立方センチメートル(5ccm)」ヲ「硝酸銀溶液五滴」ニ「二十分時間以内ニ變色ス可カラス」ヲ「二十分時間以内ニ黃色ニ變ス可カラス」ニ改ム

アンチピリンノ條中「數滴ノ過クロール鐵溶液」ヲ「一滴ノ過クロール鐵溶液」ニ改ム

サリチール酸アンチピリンノ條中「過クロール鐵溶液一滴ヲ加フレハ紫紅色ヲ呈ス」ヲ「過クロール鐵溶液一滴ヲ加フレハ深紅色ヲ呈ス更ニ多量ノ水ヲ加ヘテ稀釋スレハ紫紅色ニ變ス」ニ改ム

プロテイン銀ノ條中「硫酸銅ヲ硫酸銅溶液ニ、ピクリン酸」ヲ「ピクリン酸溶液」ニ改ム

安息香ノ條中「安息香ハ扁平」ヲ「安息香ハシアマ」ヨリ輸入スル扁平ニ、過マンガン酸カリウムヲ加ヘテ永ク放置スルモ「過マンガン酸カリウム溶液ヲ加ヘテ永ク熱スルモ」ニ改ム

次炭酸蒼鉛及トリブローム石炭酸蒼鉛ノ條中「亞クロール錫溶液ヲ加ヘテ熱スルニ」ヲ「亞クロール錫溶液ヲ和スルニ」ニ改ム

ヂアスターゼノ條中「製シタル糊液ニ和シ」ヲ「製シ五十度ニ冷却シタル糊液ニ和シ」ニ改ム

ヒヨス越幾斯ノ條中「炭酸ナトリウム」ヲ「炭酸ナトリウム溶液」ニ改ム

枸橼酸鐵ノ條中「藍綠色ヲ呈シ」ニ「鹽酸ヲ加フレハ暗藍色ニ變ス」ヲ「藍色ヲ呈シ」ニ「鹽酸ヲ加フレハ藍色ノ沈澱ヲ生ス」ニ改ム

油酸汞ノ條中「蒸餾水」ヲ「沸騰蒸餾水」ニ改ム

ヨードノ條中「亞硫酸」ヲ「亞硫酸溶液」ニ改ム

クロールカリウムノ條中「重炭酸ナトリウム溶液」ヲ「炭酸ナトリウム溶液」ニ改ム

過硫酸鐵液ノ條中「硝酸十二分(2.0)」ヲ「硝酸二十四分(2.4)」ニ改ム

酒石酸カリウムナトリウムノ條中「本品ノ水溶液(1.0)ニ稀醋酸五立方センチメートル(5ccm)」ヲ「本品ノ水溶液(1.0)十立方センチメートル(10ccm)ニ稀醋酸五立方センチメートル(5ccm)」ニ改ム

ニトログリセリンノ條中「醋酸」ヲ「氷醋酸」ニ改ム

阿片吐根錠ノ條中「0.0二五グラム(0.25g)」ヲ「0.0五グラム(0.5g)」ニ改ム

酒精ノ條中「硝酸銀溶液五立方センチメートル(5ccm)」ヲ「硝酸銀溶液五滴」ニ「二十分時間以内ニ變色ス可カラス」ヲ「二十分時間以内ニ黃色ニ變ス可カラス」ニ改ム

抱水テルピンノ條中「沸騰醋酸」ヲ「沸騰氷醋酸」ニ改ム

葡萄酒ノ條中末項ニ「本品ノ判定標準及試験方法ハ別ニ定ム」ノ一項ヲ加ヘ

スルフォ石炭酸亞鉛ノ條中「 $Zn_2C_2H_6O_8S_2 + 8H_2O = 555.78$ 」ヲ「 $Zn_2C_2H_6O_8S_2 + 8H_2O = 555.78$ 」ニ改ム

發ノ後秤定シ得ヘキ」ヲ「蒸發ノ後煖灼スルニ秤定シ得ヘキ」ニ改ム

試藥ノ條中「燒大理石」ノ次ニ「Calcium carbonicum. 炭酸カルチウム」クロール」ヲ含有セサルモノナリ」及「Carbo ligni pulveratus. 木炭末」ヲ加ヘ

「ナトロン鹼液」ノ次ニ「Liquor Natrii caustici spirituosus. 酒精製ナトロン鹼液」苛性ナトロン一分ヲ酒精九分ニ溶解ス」ヲ加ヘ

「硼砂」ノ次ニ「Natrium carbonicum anhydricum. 無水炭酸ナトリウム」正條ノ乾燥炭酸ナトリウムヲ用フヘシ」ヲ加ヘ

「硫酸ナトリウム」ノ次ニ「Natrium sulfurosum. 亞硫酸ナトリウム」ヲ加ヘ

「苛性ナトロン」ノ次ニ「Oleum Terebinthinae. テレピン油」正條ノ「テレピン油ヲ用フヘシ」ヲ加ヘ

「石炭酸溶液」ノ次ニ「Solutio Acidi chromici. クローム酸溶液」クローム酸三分ヲ蒸餾水九十七分ニ溶解スヘシ」及「Solutio Acidi picrici. ピクリン酸溶液」ピクリン酸一分ヲ蒸餾水九十九分ニ溶解スヘシ」ヲ加ヘ

「醋酸銅溶液」ノ次ニ「Solutio Cupri sulfurici. 硫酸銅溶液」硫酸銅一分ヲ蒸餾水九分ニ溶解スヘシ」ヲ加ヘ

「フェノールフタレイン溶液」ノ次ニ「Solutio Platini chlorati. クロール白金溶液」クロール白金一

分ヲ蒸餾水十九分ニ溶解スヘシヲ加ヘ
「酒精」ノ次ニ「Spiritus cum Aethere. エーテル酒精」正條ノ「エーテル精」ヲ用フヘシヲ加フ
第三表中「苛性ナトロン」ノ次ニ「サビナ油」ヲ加フ

○内務省令第二十三號

明治三十九年^七内務省令第二十一號第三改正日本藥局方所定葡萄酒ノ判定標準及試驗方法左ノ通
定ム

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十一月三十日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

葡萄酒判定標準

第一條 葡萄酒トハ葡萄汁ノ「アルコール」ニ由リ製シタル飲料ヲ云フ

第二條 左ニ掲クルモノハ製造又ハ模造トセス

(一)葡萄酒ノ耐久性ヲ増ス爲メ百分一容量ノ「アルコール」(「デッセルワイン」ハ此限ニアラス)又ハ清澄劑(卵白、魚膠、ゲラチン)ノ類、鞣酸、炭酸、亞硫酸ノ各少量又ハ之ヨリ生スル硫酸ノ混入スルコト

(二)葡萄酒ト葡萄酒トヲ混和スルコト

(三)純粹ナル沈降炭酸カルチウムヲ以テ脱酸スルコト

(四)葡萄酒改良ノ目的ヲ以テ蔗糖、甜菜糖、インウエルト糖又ハ澱粉糖ノ純良ナルモノ又ハ以上ノ水溶液ヲ添加スルコト

但糖類ヲ加ヘタル葡萄酒ノ越幾斯及礦物性成分ノ量ハ第四條ノ規定量ヲ下ル可カラス

第三條 左ニ掲クルモノヲ使用シテ製シタル葡萄酒ハ製造又ハ模造トス

(一)全部若クハ一部壓搾シタル葡萄絞滓ニ砂糖水又ハ水ヲ加ヘテ浸出セルモノ

(二)酵母ニ砂糖水ヲ加ヘ浸出セルモノ

(三)乾燥セル葡萄實、其浸汁或ハ煎汁(「デッセルワイン」ハ此限ニアラス)

(四)第二條第四號ニ掲ケタル糖類以外ノ甘味質

(五)酸又ハ酸含有ノ物質、ブケー(葡萄酒芳香質)、人工葡萄汁質又ハ「エッセンツ

(六)果實汁、果實酒、ゴム質其他越幾斯分ヲ増加スヘキ物質(第二條第一號第四號ノ場合ハ此限ニアラス)

第四條 第二條第四號ニ由リ砂糖水溶液ヲ加フル葡萄酒百立方センチメートル(100 cm)中越幾斯及礦物性成分ノ量ハ左ノ限度ヲ下ル可カラス

(一)白葡萄酒ニ在リテハ越幾斯總量ハ一・六グラム(1.6 g)以上、不揮發酸量ヲ減シタル越幾斯量ハ

一・二グラム(1.2 g)以上、總酸量ヲ減シタル越幾斯量ハ一グラム(1 g)以上、並礦物性成分量ハ〇・二三グラム(0.13 g)以上

(二)赤葡萄酒ニ在リテハ越幾斯總量ハ一・七グラム(1.7 g)以上、不揮發酸量ヲ減シタル越幾斯量ハ

一・二グラム(1.2 g)以上、總酸量ヲ減シタル越幾斯量ハ一・二グラム(1.2 g)以上、並礦物性成分量ハ〇・一六グラム(0.16 g)以上

第五條 酒精ノ燻蒸ニ由テ葡萄酒中ニ混入スル亞硫酸ノ總量ハ葡萄酒百立方センチメートル(100 cm)中〇・〇〇一グラム(0.002 g)ニ過ク可カラス

葡萄酒試驗方法

葡萄酒ノ判決上通常試驗ヲ要スル性質及成分左ノ如ク

一 比重

二 アルコホル

三 越幾斯分

- 四 礦物性成分
- 五 赤葡萄酒中硫酸
 - 六 遊離酸(總酸量)
 - 七 揮發酸
 - 八 不揮發酸
 - 九 グリセリン
 - 十 糖分
 - 十一 旋光度
 - 十二 不純澱粉糖
 - 十三 赤葡萄酒中異種色素
- 特別ノ場合ニ於テ試験ヲ要スル成分左ノ如シ
- 十四 酒石酸總量、遊離酒石酸、重酒石酸カリウム及アルカリ土類ニ結合セル酒石酸ノ總量
 - 十五 白葡萄酒中硫酸
 - 十六 亞硫酸
 - 十七 サツカリン
 - 十八 サリチール酸
 - 十九 ゴム及デキストリン
 - 二十 鞣酸
 - 二十一 クロール
 - 二十二 磷酸
 - 二十三 硝酸

- 二十四 バリウム及ストロンチウム
- 二十五 銅
- 二十六 マグネシウム
- 二十七 著鉛
- 二十八 フルオール
- 二十九 砒酸

第一條 比重ノ檢定

葡萄酒ノ比重ハ「ピクノメートル」ヲ以テ檢定ス

此試験ニ用フル「ピクノメートル」ハ硝子栓ヲ以テ閉塞シ得ヘキ硝子瓶ニシテ約五十立方センチメートル(50 ccm)ノ内容ヲ有シ其頸ハ長サ約六センチメートル(6 cm)中央部ニ劃線ヲ有シ内徑ハ六ミリメートル(6 mm)ヲ超エサルモノトス

豫メ清淨シ乾燥セル「ピクノメートル」ヲ天秤匣ニ納レ十五乃至三十分時間ノ後秤量シ次ニ細ク引キ延シタル鐘形漏斗ヲ以テ其劃線以上マテ蒸餾水ヲ充タシ之ヲ十五度ノ水中ニ半時間放置シタル後頸ノ上部ヲ把リテ水中ヨリ取り出タシ細ク捻リタル濾紙又ハ濾紙切片ヲ以テ劃線以上ノ水ヲ吸取シ凹形ヲナス水面ノ黑色部ノ下端ト劃線トヲ符合セシムヘシ而シテ頸ノ内壁ニ附著セル水ハ捻リタル濾紙ヲ以テ拭ヒ取り栓塞シ且外部モ善ク拭ヒ乾シタル後半時間天秤匣ニ納レ秤量スヘシ「ピクノメートル」中ノ水量ヲ定ムルニハ二回施行シ其平均數ヲ採用スヘシ

次ニ「ピクノメートル」ハ其水ヲ去リタル後乾燥シ或ハ供試葡萄酒ヲ以テ數回洗滌シタル後之ニ葡萄酒ヲ充タシ先キニ水ヲ秤量セシト同一ノ方法ニ從ヒ之ヲ秤量スヘシ

aヲ以テ「ピクノメートル」ノ重量トシbヲ以テ水ヲ充タセル「ピクノメートル」ノ重量トシcヲ以テ葡萄酒ヲ充タセル「ピクノメートル」ノ重量トセハ十五度ニ於ケル葡萄酒ノ比重sヲ算出スル

式ハ左ノ如シ

$$\frac{C - B}{D - A}$$

第二條 アルコホルノ定量

ピクノメートル中ノ葡萄酒ヲ百五十乃至二百立方センチメートル(150-200ccm)ノ内容ヲ有スル蒸餾壘ニ入レ「ピクノメートル」ハ少量ノ水ヲ以テ三回洗滌シ其洗液ヲ壘内ニ移シ壘内容物ノ泡洩ヲ防ク爲メ少許ノ鞣酸ヲ加ヘタル後該壘ヲ「ゴム栓」ト球管トヲ以テ「リービヒ」冷却器ニ連續セシメ受器ニハ先キニ葡萄酒ヲ秤取セシ「ピクノメートル」ヲ用ヒテ蒸餾シ餾液約二十五立方センチメートル(35ccm)ヲ得ルニ至リ殆ト受器ノ頸部ニ達スルマテ水ヲ加ヘ振盪シテ善ク混和シ之ヲ十五度ノ水中ニ半時間投入シタル後硝子細管ヲ以テ十五度ノ水ヲ加ヘ其水面ノ下端正シク劃線ニ符合スルニ至リ第一條ニ從ヒ秤量シテ蒸餾液ノ比重ヲ定メ之ヲ別表第一表第二欄ニ照ラシ葡萄酒百立方センチメートル(100ccm)中アルコホルノ「グラム」量ヲ定ムヘシ

第三條 越幾斯ノ定量

越幾斯ノ定量方法ハ其含量ニ由リ異ナルヲ以テ先ツ左式ニ由リヌノ價ヲ定メ之ニ該當スル越幾斯ノ概量(E)ハ別表第二表第二欄ニ照ラシ之ヲ求ムヘシ

$$X = \frac{100 - S}{100 - S_1}$$

前式ニ於テSハ葡萄酒ノ比重(第一條ニ於テ檢定シタルモノ)ヲ示シS₁ハ葡萄酒ヲ蒸餾シテ得タル酒精餾液ヲ原容ニ復セシモノ、比重(第二條ニ於テ檢定シタルモノ)ヲ示ス

(一)E數三以下ナルトキハ左ノ方法ニ從ヒ直チニ越幾斯ヲ定量スヘシ即チ直徑約八十五ミリメートル(85mm)高さ約二十ミリメートル(20mm)内容約七十五立方センチメートル(75ccm)及重サ約二十グラム(20g)ヲ有スル白金皿ヲ劇シク沸騰セル重湯煎上ニ致シ之ニ二十五度ノ葡萄酒五十立方センチメートル(50ccm)ヲ「ピベット」ヲ用ヒテ注入シ蒸發シテ濃厚トナルニ至リ白金皿ヲ乾燥箱(二重壁ヲ有シ其間ノ水劇シク沸騰セルモノ)ニ容レ二時間半放置シ除濕器内ニ放冷シ秤量スヘシ

(二)E數三以上四以下ナルトキハ先ツ越幾斯一・五以下ノ含有量ニ對應スル葡萄酒容量ヲ算出シ此量ヲ前號記載ノ白金皿ニ注入シ前號ニ從ヒ定量スヘシ

第一號及第二號ニ於テ葡萄酒A立方センチメートル(Accm)中Bグラム(Bg)ノ越幾斯ヲ得タリトスレハ其百立方センチメートル(100ccm)中越幾斯ノ「グラム」量ヲ算出スル式ハ左ノ如シ

$$X = \frac{100 \cdot B}{A}$$

(三)E數四以上ナルトキハ其E數ヲ以テ直チニ葡萄酒百立方センチメートル(100ccm)中ニ含有セル越幾斯ノ「グラム」量トナスヘシ

第四條 礦物性成分ノ定量

葡萄酒百立方センチメートル(100ccm)中越幾斯分四グラム(4g)以下ナルトキハ第三條第一號及第二號ニ由リ得タル越幾斯ヲ注意シテ炭化スヘシ其炭化物ハ太キ白金線ヲ以テ壓碎シ之ニ熱湯ヲ注キテ數回浸出シ此浸出液ヲ灰分少ナク且灰量既知ノ小濾紙ヲ以テ小ベツヘルグラス内ニ濾入スヘシ其濾紙ハ前ノ白金皿ニ入レ乾燥シ熱灼シ全ク灰化シ其白色トナルニ至リ先キノ濾液ヲ白金皿ニ移シ蒸發シ乾燥シ其殘渣ヲ炭酸アムモニウム溶液ヲ以テ澆ホシ微ニ熱灼シ除濕器内ニ放冷シ秤量スヘシ

葡萄酒百立方センチメートル(100ccm)中越幾斯分四グラム(4g)若クハ其以上ナルトキハ葡萄酒

二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ大ナル白金皿ニ取り蒸發シ注意シテ炭化シ前項ノ如ク處置スヘシ

葡萄酒 a 立方センチメートル(a ccm)ヨリ礦物性成分 b グラム(g)ヲ得タリトスレハ其百立方センチメートル(100 ccm)中礦物性成分ノ「グラム量ヲ算出スル式ハ左ノ如シ

$$x = 100 \frac{b}{a}$$

第五條 赤葡萄酒中硫酸ノ定量

葡萄酒五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ「ベッヘルグラス」ニ取り鹽酸ヲ以テ酸性トナシ熱シテ沸騰スルニ至リ之ニ温クロールバリウム溶液ヲ注加シ沈澱ノ生セサルニ至リテ放置シ其上澄液ニ「ロールバリウム」溶液一滴ヲ加ヘテ全ク硫酸ノ沈澱セシヤ否ヤヲ檢シ尙一回煮沸シ温處ニ六時間放置シ其上澄液ヲ灰量既知ノ小濾紙上ニ注キ「ベッヘルグラス」ノ沈澱ニハ數回熱湯ヲ注テ洗滌シ毎回沈著スルヲ俟テ其上澄液ヲ濾紙上ニ注キ終リニ沈澱ヲ濾紙上ニ集メ熱湯ヲ以テ洗滌シ其濾液、硝酸銀溶液ニ由テ濁濁セサルニ至レハ沈澱ヲ濾紙ト共ニ乾燥シ豫メ秤定セル白金坩堝内ニ於テ灰化且熾灼シ其殘留物ヲ少量ノ硫酸ヲ以テ滯ホシ次ニ遊離硫酸ヲ蒸發シタル後微ニ熾灼シ除濕器内ニ放冷シテ秤量スヘシ

葡萄酒五十立方センチメートル(50 ccm)ヨリ硫酸バリウム a グラム(g)ヲ得タリトスレハ硫酸又ハ硫酸カリウム「」グラム量ヲ算出スル式ハ左ノ如シ

$$x = 0.6859 \cdot a \text{ 葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中硫酸(SO}_4\text{)}$$

$$y = 14.937 \cdot a \text{ 葡萄酒一リットル(L)中硫酸カリウム(K}_2\text{SO}_4\text{)}$$

第六條 遊離酸(酸總量)ノ定量

葡萄酒二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ熱シテ煮沸スルニ至リ四分定規アルカリ液ヲ以テ

測定スヘシ

中和點ハ鋭敏ナル藍紫色ラクムス紙ヲ用ヒ點滴法ニ由テ檢定ス即チ乾燥ラクムス紙ニ點滴スルニ赤色ヲ呈セサルヲ終點トス而シテ遊離酸ハ酒石酸(C₂H₂O₆)トシテ算定ス

葡萄酒二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ中和スルニ四分定規アルカリ液 a 立方センチメートル(a ccm)ヲ要シタリトスレハ葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中遊離酸ノ「グラム量ヲ酒石酸トシテ算出スル式ハ左ノ如シ

$$x = 0.075 \cdot a$$

第七條 揮發酸ノ定量

葡萄酒五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ内容二百立方センチメートル(200 ccm)ノ硝子壺ニ取り二孔ヲ有スル「ゴム栓ヲ施シ其一孔ニハ上端鈍角ニ曲リ下端細ク展引セル硝子管ヲ挿入シテ殆ト壺底ニ達セシメ他ノ一孔ニハ球附蒸餾管ヲ挿入シテ「リービヒ」冷却器ト連續セシメ受器ニハ二百立方センチメートル(200 ccm)ノ處ニ割線ヲ有スル内容三百立方センチメートル(300 ccm)ノ硝子壺ヲ用ヒ水蒸氣ヲ通シテ蒸餾スヘシ即チ蒸餾壺底ニ達スル硝子管ノ上端ヲ「ゴム管ヲ以テ劇シク水蒸氣ヲ發スル安全管附硝子壺ト連續セシメ盛ニ水蒸氣ヲ通シツ、蒸餾壺ヲ熱シテ蒸餾シ其内容約二十五立方センチメートル(25 ccm)トナルニ至ラハ爾後ハ適度ニ熱シテ壺内ノ液増減セサルニ注意スヘシ而シテ餾液二百立方センチメートル(200 ccm)ヲ得ルニ至ラハ蒸餾ヲ止メ茲ニ得タル餾液ニ「フェノール」フタレイン溶液ヲ加ヘ十分定規アルカリ液ヲ以テ定量スヘシ揮發酸ハ醋酸(C₂H₄O₂)トシテ算定ス

葡萄酒五十立方センチメートル(50 ccm)中揮發酸ヲ中和スルニ十分定規アルカリ液 a 立方センチメートル(a ccm)ヲ要シタリトスレハ葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中揮發酸ノ「グラム

量ヲ醋酸トシテ算出スル式ハ左ノ如シ

X = 0.012 · a

第八條 不揮發酸ノ定量

葡萄酒中ノ不揮發酸ハ酒石酸トシテ之ヲ示シ次ノ如ク算出ス

aヲ葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中ノ遊離酸(酒石酸トシテ)ノグラム量トシbヲ葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中揮發酸(醋酸トシテ)ノグラム量トスレハ葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中不揮發酸ノグラム量ヲ酒石酸トシテ算出スル式ハ左ノ如シ

X = a - 1.25 · b

第九條 グリセリンノ定量

(一)葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中糖分ニグラム(%)以下ナルトキ

葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)ヲ瓷皿ニ取り重湯煎上ニ蒸發シテ約十立方センチメートル(10 ccm)トナシ之ニ珪砂約一グラム(1 g)ヲ加ヘ次ニ越幾斯一グラム(1 g)ニ付キ一・五乃至二立方センチメートル(1.5-2 ccm)ノ比ヲ以テ石灰乳(水化石灰約四十%ヲ含有スルモノ)ヲ加ヘ更ニ蒸發シテ殆ト乾燥スルニ至リ其濕潤セル殘渣ニ九十六容量%ノ酒精約五立方センチメートル(5 ccm)ヲ加ヘ瓷皿壁ニ附着セルモノハ篋ヲ以テ剝離シ更ニ同上酒精少許ヲ加ヘツ、小硝子乳棒ヲ以テ磨碎シテ糜粥狀トナシ篋及乳棒ハ同上酒精ヲ以テ洗滌シ瓷皿ハ攪拌シツ、重湯煎上ニ熱シ沸騰スルニ至リ此濁濁液ヲ小漏斗ヲ用ヒテ内容百立方センチメートル(100 ccm)ノ硝子壺ニ注入シ瓷皿ニ殘留セル粉末狀ノ殘渣ニハ混攪シツ、九十六容量%ノ酒精十乃至十二立方センチメートル(10-12 ccm)ヲ加ヘテ溫浸シ其浸出液ヲ前ノ硝子壺ニ注キ斯ノ如ク反覆操作シテ浸出液約九十五立方センチメートル(95 ccm)トナルニ至レハ不溶性ノ殘渣ハ瓷皿ニ止メ前ノ壺上ノ小漏斗ハ酒精ヲ以テ洗滌シ然ル後酒精浸出液ヲ十五度ニ冷却シ九十六容量%ノ酒精ヲ加ヘテ百立

方センチメートル(100 ccm)トナシ善ク振盪セル後疊折濾紙ヲ以テ劃度圓筒ニ濾入シ其濾液九十分方センチメートル(90 ccm)ヲ瓷皿ニ移シ重湯煎上ニ於テ劇シク沸騰セサル様注意シテ蒸發シ其殘渣ヲ少量ノ純アルコールニ溶解シ此液ヲ有檢劃度圓筒内ニ注入シ瓷皿ニハ少許ノ純アルコールヲ注キ數回洗滌シ圓筒内ノ液十五立方センチメートル(15 ccm)トナルニ至リ之ニ三回純アルコール各七・五立方センチメートル(7.5 ccm)ヲ加ヘ毎回強ク振盪シテ放置シ此アルコールエーテル液ノ全ク澄明トナルニ至リ之ヲ密栓スヘキ秤量壺ニ注入シ硝子圓筒ハ純アルコール一容量及純エーテル一・五容量ノ混液約五立方センチメートル(5 ccm)ヲ以テ洗滌シ洗液ハ秤量壺ニ移レ該壺ヲ沸騰熱ニ達セサル重湯煎上ニ致シ「アルコールエーテル液ノ沸騰セサル様注意シテ蒸發スヘシ秤量壺ノ内容濃稠トナルニ至レハ之ヲ乾燥箱(二重壁ヲ有シ其間ノ水劇シク沸騰セルモノ)ニ入レ乾燥スルコト一時間ニシテ除濕器内ニ放冷シ秤量スヘシ

X = 1.11 · a

(二)葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中糖分ニグラム(%)若クハ以上ナルトキ

葡萄酒五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ潤大ナル硝子壺ニ取り重湯煎上ニ於テ溫メ之ニ珪砂一グラム(1 g)次ニ少量ノ石灰乳ヲ加ヘ最初暗色ノ混和液再ヒ淡色トナリ且滲汁様ノ臭氣ヲ放ツニ至ルヲ度トシ然ル後其混和液ヲ重湯煎上ニ致シ絶ニス振盪シツ、溫メ冷後九十六容量%ノ酒精百立方センチメートル(100 ccm)ヲ加ヘ茲ニ生シタル沈近ヲ沈著セシメ濾過シ其沈澱ハ同上ノ酒精ヲ以テ洗滌シ其濾液ヲ蒸發シテ得タル殘渣ハ第一號葡萄酒ノ如ク處置スヘシ

X-2222-a

第十條 糖分ノ定量

糖分ハ重量法ニ由リ左ノ「フェーリング溶液」ヲ用ヒテ定量ス

(一)「フェーリング溶液」ノ製法

(甲)硫酸銅溶液 結晶硫酸銅六十九・二七八グラム(69.278g)ヲ水ニ溶解シテ「リットル」(1000cc)トナスヘシ

(乙)アルカリ性セニエット鹽溶液 セニエット鹽三百四十六グラム(346g)及苛性ナトロン百〇

三・二グラム(103.2g)ヲ水ニ溶解シテ「リットル」(1000cc)トナシ石綿ヲ用ヒテ濾過スヘシ

右ノ兩液ハ各別ニ貯フヘシ

(二)定量ノ準備

檢スヘキ葡萄酒ノ越幾斯量ヨリニヲ減シ先ツ糖分ノ概量ヲ求メ若シ葡萄酒百立方センチメートル(100cc)中糖分一グラム(1g)以下ナルトキハ稀釋セシテ直チニ定量ニ使用シ得ヘシ之ニ反シテ若シ一グラム(1g)以上ナルトキハ百立方センチメートル(100cc)中一グラム(1g)以下ノ含量ニ至ルマテ稀釋スヘシ而シテ糖分ノ概量ヲ得ルトキハ一%以下ノ糖分含量トナスニ葡萄酒ヲ幾倍ニ稀釋セサル可カラサルカヲ知り得ルモノニシテ計算上便宜ノ爲メ糖分ノ概量ヲ全數トナスヘシ且稀釋スヘキ葡萄酒ノ採取量ハ稀釋後少ナクモ百立方センチメートル(100cc)ヲ得ルニ足ルモノナラサル可カラス例之ハ葡萄酒百立方センチメートル(100cc)中越幾斯分ノ含量ヲ四・七七グラム(4.77g)トセハ糖分ノ定量ニ要スル葡萄酒ハ二倍(4.77g×2=9.54g)即チ百分ヲ全數トナス(ニ稀釋スヘシ)而シテ此場合ニハ十五度ノ葡萄酒三十三・三立方センチメートル(33.3cc)ヲ「ピュレット」ヲ用ヒテ内容百立方センチメートル(100cc)ノ硝子壺ニ取り蒸餾水ヲ加ヘ

テ百立方センチメートル(100cc)ニ稀釋スヘシ

(三)定量ノ執行

葡萄酒百立方センチメートル(100cc)或ハ上法ニヨリ稀釋セルモノ同量ヲ取り瓷皿ニ容レ「アルカリ濾液」ヲ加ヘテ中和シ重湯煎上ニ於テ蒸發シテ約二十五立方センチメートル(25cc)トナシ鞣酸及色素ヲ去ル爲メ(赤葡萄酒又ハ多量ノ鞣酸ヲ含有スル白葡萄酒ノ場合)之ニ精製骨炭末五乃至十グラム(5-10g)ヲ加ヘ重湯煎上ニ於テ温メツ、硝子棒ヲ以テ混攪シ之ヲ内容百立方センチメートル(100cc)ノ硝子壺中ニ濾入シ残渣ハ熱蒸餾水ヲ以テ注意シテ洗滌シ濾液ノ總量殆ト百立方センチメートル(100cc)トナルニ至リ炭酸ナトリウム飽和溶液三滴ヲ加ヘテ振盪シ十五度ニ於テ水ヲ加ヘ百立方センチメートル(100cc)トナスヘシ炭酸ナトリウム溶液ヲ加フルノ際濁ヲ生セハ其混和液ヲ二時間放置シテ濾過シ其濾液ヲ糖分ノ定量ニ使用スヘシ

前上ノ骨炭末ノ代リニ次醋酸鉛溶液ヲ使用スルコトアリ此場合ニハ葡萄酒百六十立方センチメートル(60cc)ヲ前上ニ從ヒ中和シ且アルコホル分ヲ去リ其殘液ニ十五度ノ水ヲ加ヘテ原容ニ復シ之ニ次醋酸鉛溶液十六立方センチメートル(16cc)ヲ加ヘ善ク振盪シテ濾過シ其濾液八十八立方センチメートル(88cc)ニ炭酸ナトリウム飽和溶液八立方センチメートル(8cc)又ハ二十度ニ於テ飽和セル硫酸ナトリウム溶液八立方センチメートル(8cc)ヲ加ヘ善ク振盪シ更ニ濾過シ其濾液ヲ以テ糖分ヲ定量スヘシ而シテ次醋酸鉛溶液及炭酸ナトリウム溶液又ハ硫酸ナトリウム溶液ノ添加ニヨリ葡萄酒ノ容量五分ノ一ヲ増加シタルモノトス

(甲)インウエルト糖

硫酸銅溶液、セニエット鹽溶液及水各二十五立方センチメートル(25cc)ヲ瓷皿ニ容レ熱シテ煮沸スルニ至リ前上ニ由リ操作セル葡萄酒二十五立方センチメートル(25cc)ヲ「ピュレット」ヲ用

ヒテ之ニ注入シ復タ盛ニ沸騰シ始メシヨリ起算シテ正シク二分時間煮沸シ茲ニ析出シタル亞酸化銅ヲ豫メ秤定セル石綿濾過管及吸氣裝置ヲ用ヒテ急速ニ濾過シ初ニ熱湯次ニアルコホル終リニ「エーテル」ヲ以テ洗滌シ之ヲ百度ニ於テ乾燥シ次ニ空氣ヲ通シ強ク熱灼シタル後水素發生裝置ニ連結シ純乾燥水素瓦斯ヲ通シツ、小火焰ヲ以テ酸化銅ヲ熱シ其全ク金屬銅ニ還元スルヲ度トシ水素瓦斯内ニ放冷シテ秤量シ茲ニ秤定セル銅ニ該當スル「インウエルト糖」量ヲ別表第三表ニ照ラシ求ムヘシ

(乙) 蔗糖

前上ニ由リ操作セル葡萄酒五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ「ピペット」ヲ用ヒテ内容約百立方センチメートル(100 ccm)ノ硝子壺ニ取り鹽酸ヲ加ヘテ精密ニ中和シ之ニ一%ノ鹽酸五立方センチメートル(5 ccm)ヲ加ヘ半時間沸騰重湯煎上ニ於テ熱シ然ル後精密ニ中和シ重湯煎上ニ於テ少シク蒸發シ炭酸ナトリウム溶液ヲ加ヘテ弱アルカリ性トナシ小濾紙ヲ用ヒテ内容五十立方センチメートル(50 ccm)ノ硝子壺ニ濾入シ洗滌シテ五十立方センチメートル(50 ccm)トナシ此液二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ取り甲號ニ從ヒ「インウエルト糖」ヲ定量スヘシ
 甲號及乙號ノ方法ニ由リ試験シタル後原葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中ニ含有スル「インウエルト糖」ノ「グラム量」(x)及蔗糖ノ「グラム量」(y)ヲ算出スル式ハ左ノ如シ

$$n \text{ハ原葡萄酒ヲ稀釋シタル倍數ヲ示シ稀釋セサルトキ} n \text{ハ} n \text{ヲ刪除ス} a \text{ハ稀釋葡萄酒二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ用ヒテ轉化前ニ秤定シ得タル銅量ニ該當スル「インウエルト糖」ノ「グラム量」(別表第三表ニ照ラシ求メタル數)ヲ示シ} b \text{ハ稀釋葡萄酒二十五立方センチメートル(25 ccm)ヲ用ヒテ轉化後ニ秤定シ得タル銅量ニ該當スル「インウエルト糖」ノ「グラム量」(別表第二表ニ照ラシ求メタル數)ヲ示ストセハ}$$

(イ) 骨炭末ヲ以テ鞣酸及色素ヲ去リタル場合ニハ

$$x = 4.8 \cdot a \cdot n$$

$$y = 3.8 \cdot n(b - a)$$

(ロ) 次醋酸鉛溶液ヲ以テ鞣酸及色素ヲ去リタル場合ニハ

$$x = 4.8 \cdot a \cdot n$$

$$y = 4.56 \cdot n(b - a)$$

第十一條 分極試験

葡萄酒ノ分極光ニ對スル試験ハ十分ノ一度ヲ示スヘキ最モ精確ナル裝置ヲ以テ十五度ニ於テ施行シ其成績ハ原葡萄酒ノ層長二百ミリメートル(200 mm)ニ於ケル角度ヲ以テ示スヘシ

(一) 白葡萄酒

白葡萄酒六十立方センチメートル(60 ccm)ヲ取り「アルカリ濾液」ヲ加ヘテ中和シ重湯煎上ニ於テ蒸發シテ三分ノ一トナシ水ヲ以テ再ヒ原容ニ復シ次醋酸鉛溶液三立方センチメートル(3 ccm)ヲ加ヘ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾過シ其濾液三十一・五立方センチメートル(31.5 ccm)ニ炭酸ナトリウム飽和溶液又ハ二十度ニ於テ飽和セル硫酸ナトリウム溶液一・五立方センチメートル(1.5 ccm)ヲ加ヘ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾過シ其濾液ニ就テ分極試験ヲ行フヘシ此際葡萄酒ハ其十分ノ一容ヲ増加シタルモノトス

(二) 赤葡萄酒

赤葡萄酒六十立方センチメートル(60 ccm)ヲ取り「アルカリ濾液」ヲ加ヘテ中和シ重湯煎上ニ於テ蒸發シテ三分ノ一トナシ濾過シ水ヲ以テ再ヒ原容ニ復シ次醋酸鉛溶液六立方センチメートル(6 ccm)ヲ加ヘ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾過シ其濾液三十三立方センチメートル(33 ccm)ニ炭酸ナト

リウム飽和溶液又ハ二十度ニ於テ飽和セル硫酸ナトリウム溶液三立方センチメートル(30 ccm)ヲ加ヘ茲ニ生シタル沈澱ヲ濾過シ其濾液ニ就テ分極試験ヲ行フヘシ此際葡萄酒ハ其五分ノ一容ヲ増加シタルモノトス

葡萄酒ニシテ次醋酸鉛溶液ニ由リ充分脱色セサルトキハ骨炭末ヲ使用スヘシ即チ葡萄酒五十立方センチメートル(50 ccm)ヲ瓷皿ニ量取シ「アルカリ濾液ヲ以テ精密ニ中和シ蒸發シテ約二十五立方センチメートル(25 ccm)トナシ之ニ骨炭末五乃至十グラム(5-10 g)ヲ加ヘ重湯煎上ニ於テ硝子棒ヲ以テ善ク混攪シツ、温メ濾過シ骨炭末ハ熱湯ヲ以テ注意シテ洗滌スルコト葡萄酒中糖ノ含量ニ由リ其濾液七十五乃至百立方センチメートル(75-100 ccm)ニ達スルヲ度トシ濾液ヲ瓷皿ニ移シ重湯煎上ニ於テ蒸發シテ二十乃至四十立方センチメートル(20-40 ccm)トナシ之ヲ内容五十立方センチメートル(50 ccm)ノ硝子壺ニ濾入シ瓷皿及濾紙ハ水ヲ以テ洗滌シ其全容ヲ五十立方センチメートル(50 ccm)トナシ此濾液ニ就テ分極試験ヲ行フヘシ此際葡萄酒ハ増容セサルモノトス

第十二條 分極試験ニ由ル不純澱粉糖ノ鑑識

- (一)第十條糖分ノ定量ニ於テ葡萄酒百立方センチメートル(100 ccm)中還元性糖多クモ〇・一グラム(0.1 g)ヲ檢出シ且第十一條ニ由リ分極試験ヲ行フニ左旋シ又ハ迴旋セス若クハ右旋多クモ〇・二度ナルトキハ其葡萄酒ニハ不純澱粉糖ヲ添加セサルモノトス
- (二)第十條糖分ノ定量ニ於テ還元性糖多クモ〇・一グラム(0.1 g)ヲ檢出シ且〇・二度以上最高〇・六度右旋スルトキハ「デキストリン」ヲ含有スヘキヲ以テ第十九條ニ從ヒ之カ試験ヲ行ヒ且本條第四項ニ從ヒ不純澱粉糖ノ不酸酵性成分ヲ試驗スヘシ
- (三)第十條糖分ノ定量ニ於テ糖分ノ總量多クモ〇・一グラム(0.1 g)ヲ檢出シ且〇・六度以上右旋スルトキハ第十九條ニ從ヒ「デキストリン」ヲ試驗スヘシ若シ之ヲ含有スルトキハ本條第四項ニ從ヒ不純澱粉糖ノ不酸酵性成分ヲ試驗スヘシ若シ「デキストリン」存在セサルトキハ葡萄酒ハ不純澱粉糖ノ不酸酵性成分ヲ含有スルモノトス

ルトキハ第十九條ニ從ヒ「デキストリン」ヲ試驗スヘシ若シ之ヲ含有スルトキハ本條第四項ニ從ヒ不純澱粉糖ノ不酸酵性成分ヲ試驗スヘシ若シ「デキストリン」存在セサルトキハ葡萄酒ハ不純澱粉糖ノ不酸酵性成分ヲ含有スルモノトス

(四)糖分ノ總量〇・一グラム(0.1 g)以上ヲ檢出シタルトキハ次ノ如ク不純澱粉糖ヲ試驗スヘシ
(甲)葡萄酒二百立方センチメートル(200 ccm)ヲ取り重湯煎上ニ於テ蒸發シテ三分ノ一トナシ之ニ水ヲ加ヘ稀釋シテ其液中糖分ノ含量ヲ十五%以下トナシ之ヲ硝子壺ニ移シ酸酵力アル麥酒酵母(光學的有力ナル成分ヲ含マサルモノ)約五グラム(5 g)ヲ加ヘ二十乃至二十五度ノ温ニ於テ放置シ酸酵ヲ結了セシムヘシ

(乙)前上ノ酸酵シタル液ニ二十%ノ醋酸カリウム溶液數滴ヲ加ヘ瓷皿ニ移シ珪砂ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發シテ稀薄舍利別狀ノ稠度トナシ絶エス混攪シツ、九十容量%ノ酒精二百立方センチメートル(200 ccm)ヲ漸次ニ注入シ其清澄トナルヲ俟テ硝子壺内ニ濾入シ殘渣及濾紙ハ同上ノ酒精少許ヲ用ヒテ洗滌シ此液ヲ蒸餾シテ過半アルコホルヲ去リ次ニ蒸發シテ殘餘ノ「アルコホル」ヲ去リ其殘留物ニ水ヲ加ヘテ約十立方センチメートル(10 ccm)トナシ之ニ水ヲ以テ泥狀トナセル精製骨炭末二乃至三グラム(2-3 g)ヲ加ヘ硝子棒ヲ以テ善ク混攪シ斯クシテ脱色セル液ヲ小割度圓筒ニ濾入シ骨炭末ハ熱湯ヲ以テ洗滌スルコト其濾液ノ十五度ニ於テ三十立方センチメートル(30 ccm)ニ達スルヲ度トシ此液ヲ以テ分極試験ヲ行フヘシ〇・五度以上右旋スルトキハ葡萄酒ハ不純澱粉糖ノ不酸酵性成分ヲ含有スルモノトス若シ正シク〇・五度右旋シ若クハ此數ヲ少シク昇降スルトキハ更ニ熱湯ヲ以テ骨炭末ヲ洗滌シ其濾液十五度ニ於テ三十立方センチメートル(30 ccm)ニ達スルヲ度トシ此液ヲ以テ分極試験ヲ行ヒ其右旋度數ヲ前ノ度數ニ加算スヘシ第二回ノ試験ニ於テ第一回ノ度數ノ五分ノ一以上ヲ檢出シタルトキハ